



修二会（東大寺・二月堂）

目覚めがちな夜はいつしか明け
 朝霞の中に白い花が浮かぶ
 若草山を背景にした奈良の櫻に
 すがすがしさがあふれていた
 温かく輝いた櫻をかすめて
 白い雲が静かに流れていく
 満開の櫻の真下に立っていた
 半ば放心的に空を見上げて
 櫻の精のように妖しく美しい
 漂ういく分退廃的ななまめかしさ
 歌でも詠んでいるのかと
 覗き込んでみると顔が濡れていた
 あまり綺麗なものだと涙声で
 きまり悪そうに言い訳した
 風のない春の一日の夕方であった



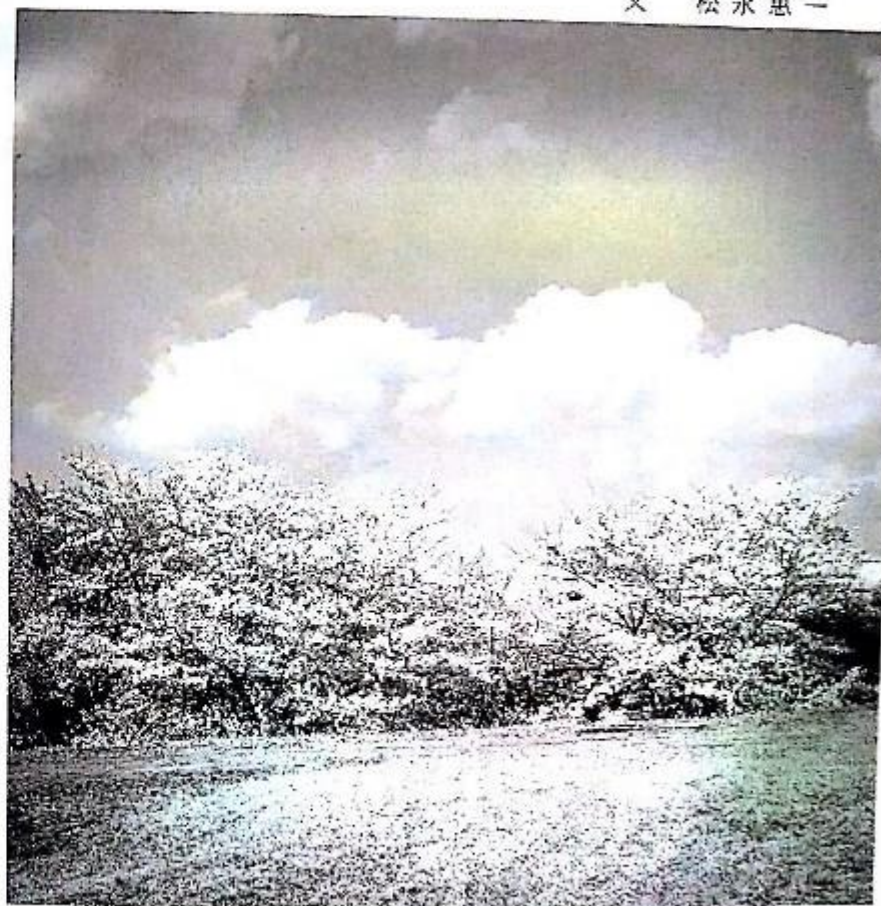
桜（若草山）

Photo essay

花の恋



題字 中田 蘭 石
 撮影 山井 収
 文 松 永 恵 一



春の三笠山

季節の



ショウジョウバカマ



クマガイソウ



カタクリ (近江今津)

実景

陽春

撮影 武市通治



コブシ (大石)



都しだれ (信楽)



クラシより釈迦岳 (鈴鹿)

神原 計国



イブネ北端より御在所岳 (鈴鹿)

神原 計国



残雪の御池岳三題

丸山
南峰
ポタンブチから土倉岳
上
中
下

岩野 明

三月の氷ノ山にて

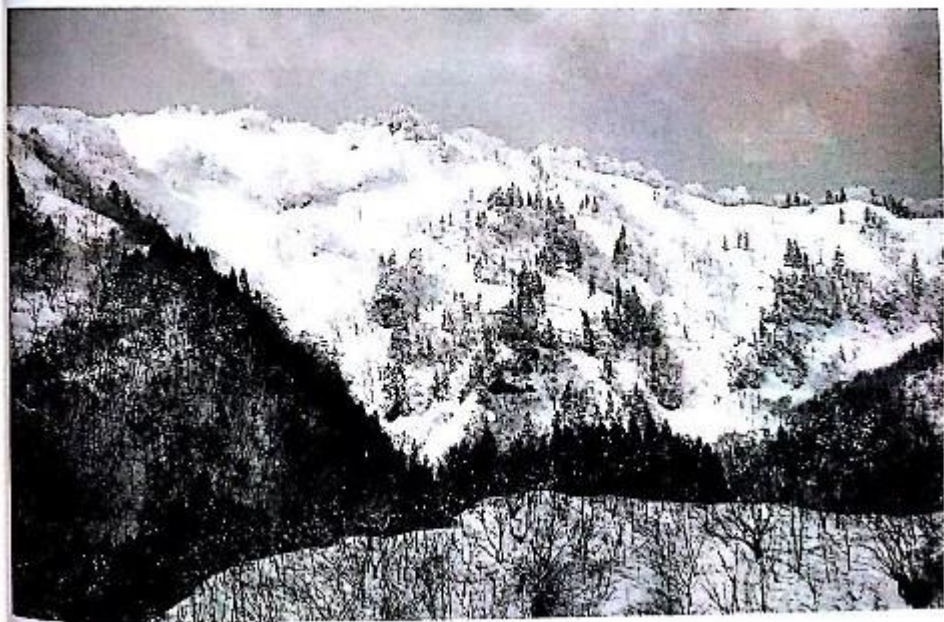
奥田 英一郎



天空を飛ぶ



雪上を跳ぶ



東尾根より山頂を望む

新刊 別冊 関西の山
31年3・4月 新春 第57号

●目次

表紙：松田敏男「新緑の樹林」(鈴鹿・樟尚山)

●作者プロフィール ●1949年、京都府生まれ。京都府立京都大学卒。1987年より山岳作家、山岳山の探検家として、(原野)山岳、南アルプス山岳、東洋キョウリ一百、他) 山岳山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一写三島山岳研究会会長

●グラフィック	花の雲……………撮影 由井 収	文 松永 薫一
(口絵) 佐藤新一 藤原計国 若野 明 奥田英一郎	季節の実景(陽春)「コブシ」他……………	武市 通治
●紀行	「山のエッセイ」	4 2
●「新法ヶ岳」山名考……………	尾 野 一	12 10
●島谷山(比良)……………	柴田 昭彦	12 10
●相母山・嶺山(中丸山)……………	松田 敏男	18 15
●風来寺山と明神山(奥三河)……………	杉本 高	18 15
●百良岳と西行庵(言野)……………	鷺見 守康	22 18
●讃岐路の山ぶらりぶらり(四国)……………	木村 太郎	26 22
●運歌 三角点を訪ねて⑧……………	生駒 善峰	30 26
●運歌 比良を歩く⑧……………	磯部 純	38
●大津ワングル道からヤケオ山・横谷道……………	康夫	42
●漢語通信研究①	文献紹介と京都・大津ルート……………	柴田 昭彦
●1等三角点峰(5000以上) 548座完全登の記録(第24回)……………	坂井 久光	52 46
●花崗岩の風根道を歩く……………	中村 敏文	55
●須磨洞公園から須磨アルプスを歩く……………	松永 志一	58 55
●文学歴史探訪ハイイク⑧(海坂の道から忍辱山円成寺へ)……………	西尾 寿一	62 58
●(山のレポート) 山名の歴史について(下)……………	生駒 善峰	64 62
●(山のレポート) 十二支の山 巳午の山……………	金谷 昭	72 70
●コース	①奈良大文字と高円山(奈良)……………	西尾 寿一
●ガイド	②小川城山(湖東)……………	長宗 清司
③イタリ山から石金山(後月夜)……………	慶徳次盛一	72 70
④栗原村から大日山(西三河)……………	金谷 昭	72 70
沿線ハイキングガイド……………	75	新ハイ関西山行計画と報告……………
サービスマニュアル……………	77	バス時刻表(富士)……………
せせらぎ……………	77	編集後記・山歩き内……………
	104	102 83

巻頭言

君がため 春の野に出でて 若菜つむ
わが衣手に 雪はふりつづ 光老天皇
若菜の緑に春の白を配した、何ともみずみずしい歌で、春の初れとその喜びが伝わってきます。「古今集」の歌で、かるた取り「小倉百人一首」でもよく親しまれています。一風ごとにあたかくなり、雪が解けると、やがて土手の草は緑の帯になり、河原ではネコヤナギの花芽が銀白色に輝いてきます。土手におりると、フキノトウが、ツクシが顔をだし、ヨモギも二面に広がっています。春の風景は想像するだけで心がなごんできます。山に入れば、春を告げる花が次々と咲いていきます。セツブンソウ・フクジュソウが咲き、やがてシロウジ・ウバカマ・イカリソウ・イワカガミ・イワウチワ・カタクリ。そしてスハマソウ・ミスミソウなども見られ、春の花風景は最高の感動を与えてくれます。リーダーは、このような花風景に出会えるよう、花の咲く時期を選び、それぞれにコースを工夫しての山行例会を多く企画してくれました。春の野山を歩く喜びをリーダーともども思いきり楽しんでください。

新ハイ関西(代巻) 村田 智俊



克

ローコスト登山の 勧め

西尾 寿一

小生の友人で、九州の山岳会の代表をしている人がいる。この会では昨夏、「日本百名山」のうち北海道の五山を10日間で開催するプランが承認、実行された。費用は1人20万円、その大半が交通費だという。

「百名山」巡りは今や国民的行事となり、どこでも似たようなプランが立てられ実施されていることだろう。

登山は高くつくものだと思う、高いからせっかく来たのだからと、天候が悪くてもコンディションが悪くても無理して登ってしまう。また、山行の回数を減らしてでも、とりあえず「百名山」を登っておきたいと思う人もいる。

このような状況はだれが悪いというものではない。時の流れが片寄っているだけなのだが、そのことに気づいて改善しようとする人が少ないのである。

中・高年、特に仕事をリタイヤした人(定年といってもよいが)がこの列に参加するのはやめたほうがよい、と申し上げておきたい。なぜなら自からの最大の長所を捨て、人の尻尾につくだけであるからだ。

小生も同じ定年組だからこそ切実に考え、自からの方向性を探っているのである。一回の山行に20〜30万円も費しているは年間に何度も出かけることは不可能で、せっかく豊富にある時間を無駄にしてしまう。

定年組の最大の長所とは「時間があること」にはかならない。この時間の有効活用こそがすばらしい夢と希望を実現してくれるのである。

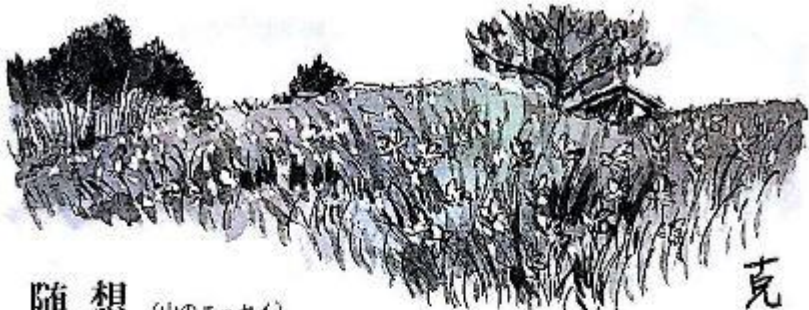
冒頭にあげた例は、仕事をも

つ人が10日間という限られた時間をやっとなし入れ、精一杯活用した例である。飛行機や高速列車やレンタカー使用など、金銭によって時間を買った結果なのである。時間が無限にある人が彼等と同じ方法を使うのでは芸がないばかりか、巨額な損失をこうむっていることに気づくべきである。

先の20万円のうち、大半が交通費であるが、宿泊費も相当なものである。費用の機械的両方をカットできれば格安な山行が約束されるのである。小生の試算では約6割がカットできるのだ。

すでに独自の方法を開発して実行している人もあると思うが、自家用車を使うのもよいし、レンタカーでも何割かは安くなる。なかでも軽のワンボックスカーは有利である。後部が水平になれば寝られるし、高速道路料金もフェリー代も割安である。

克



随想 (山のエッセイ)

昨春から小生が九州の離島で実験的に行ってきた方法は、レンタバイクを利用することだった。テントやコンロなど一式を用意する。割安の長距離バスを使ってフェリーで島に持ち込み、自分の思うままの山へ登って大成功をおさめることができた。

ガイド本には大層手間が必要だと記された山でも、実にあっさり登頂でき、さらに次なる山へ移動できるのである。登山の基礎的技術を習得している人なら、だれでもおもしろいように多数の山へ登れるだけでなく、土地の祭礼や一度は見ただけでいい名所旧蹟や名物、その他あらゆる分野で自由自在なのである。夜はキャンプ場があればよいが、なければ海岸でも駐車場でも地元住民の迷惑にならない場所を見つけてテント泊ができる。

食糧調達には、コンビニエンスストア・スーパー・朝市・無人販売所などがいたる所にある。

ただし、この方法も一つだけ問題点があった。それはレンタバイクの料金体系だった。一番安かったのは五島の福江島で、一日3000円、連泊は2500円。他は3500〜4000円となり、一時間1000円というのが多い。こうなると自動車より高い。レンタバイクは車と違って競争が少ないのでこんなことになるのだろう。

昨夏、この問題を一気に解決すべく長期間の北海道の山行を実行した。10年以上も自家で使っている古い原付バイクをフェリーで現地へ持ち込もうというものだ。この話をするとう門家は異口同音に反対した。「無茶苦茶な素人の考えだ」と言う。離島での実績を話しても、「離島と北海道とは規模がまるで違う。まずエンジンがダメになり、サスペンションがガタガタになり、楽車間違いなし」と自信満々で冷水を浴びせてくる。

しかし、実行した。廃車になれば処分して手ぶらで帰るまでである。

エンジンには気を配った。長い登りでは何度も冷ましたし、3割しか入らないタンクなので別に1割ずつのガソリンとオイルを積んだ。こうして何とかガス欠をまぬがれ、40日間3700キロを走り通してくれたのである。日本の車は丈夫でつづればよいというが、バイクも同じかもしれない。いや、幸運だっただけかもしれないが。

そして、コストのほうはどうかと言おう。40日間12万円だった。民宿に泊り、京都へ二度メロンを運んだ。フェリーには九度も乗っている。毎夜缶ビール一本は呑んだのだから、信じられないくらいローコストに成功しているのである。

一日当たりでは3000円であるが、さらに長期になるともっと低コストになるはずだ。現地



克



克

随想 (山のエッセイ)

り。」とある。ここでは「筆法」は「せんぼう」または「せんぼう」と読んでいる。吉田東伍『大日本地名辞書』(明治39年)にも「筆法岳」とある。「筆」は「嶺」の異体字(略字)である。

和歌山藩の儒臣、仁井田好古が、天保十年(1839)に完成させた詳細な地誌『紀伊続風土記 第一輯』(明治43年発行)の巻之九、百川村の項には「懺法方嶽 大福山の東六町子にあり修験者の行所なり坂道三十五町甚険絶の地なり」とあり、挿入地図には「懺法嶽」と記載されている。「懺」は「懺」の異体字(略字)である。

高頭式編纂『日本山嶽志』(明治39年)の和泉山地の項には「懺法嶽 紀伊國海草郡ノ北方ニアリ」とある。

右の二書では、読み方は示されていないが、「嶺」ではなく、「懺」の漢字が用い

られていることがわかる。

『広辞苑』や『日本国語大辞典』で「せんぼう」を引くと、仏教語の「懺法」が見つかる。

『岩波仏教辞典』によると「懺法」とは、「懺悔(悔過)」を行う方法すべてを意味するが、普通には悔経に基づく過罪を懺悔する行儀や、その儀式法則をいう。「奈良期までは吉祥・薬師・阿彌陀の悔過法が行われ、平安期以後は法華懺法が主となり、円通(観音)・弥勒・仏名・舍利などの懺法が仏教行事となった」とある。

地形測量では、明治43年測量の地形図への山名の記入にあたり、『紀伊國名所図会』を参考にした。『紀伊続風土記』第一輯は同年発行のため、参照できなかったものと推察できる。博学で知られた吉田東伍氏ですら、名所図会を疑うことなく「懺法岳」の用字を採用しているのだから、無理もないことである。

あったかもしれない。

さて、山と谷谷社のガイドブックのなかで仲西政一郎氏が執筆したものを3冊調べてみよう。

『近畿の山—登山地図帳—』(昭和31年)には「ザン法方岳」とある。『近畿の山—(昭和40年)』には「懺法方岳」でルビがない。『近畿の山—(昭和48年版)』には「懺法方岳」となっている。

『新ハイキングガイド』(日本交通公社、昭和35年)は仲西氏が校閲していて、「懺法方岳」とある。『京阪神ワンデー・ハイク』(山と溪谷社、1992年)や『大阪周辺を歩く』(同、1995年)も同じ読み方である。

「嶺」は「セン」「くじ」と読み、「懺」は「サン」「セン」「ザン」と読む。「つまり、「嶺」は「サン」と読めないのだが、仲西氏が当初「ザン法方岳」を採用したのは、「懺」ではなく「懺(ザン)」ではないかと考え

で出会ったケチケチ山行の達人のときは、一日10000円で十分だと言っているのである。人間はいくらでも贅沢になれる。しかし、質素になることも可能なのである。山行後風呂に入り、焼き肉で生ビールが定番化しても、いったん意を決したらどんな厳しい状況におかれても乗り越えられるはずなのである。ただし、修行ではないのだから、その辺の線引きは各自の判断にまかせたいと思う。

こうして小生はローコスト登山のノウハウを自分のものにし、今後この方法を全国の山に適用するつもりである。

自由な時間を思う存分使って年間150日、200日位は、山旅を続けてみたいと思うのである。

「筆法ケ岳」山名考

柴山 昭彦

2万5千分の1地形図「淡輪」(平成10年修正測量、同日発行)を見ると、銀石山・大福山の南東方向に「筆法ケ岳」と記載された山が見つかる。以前かう気になっていた山名なので、古い文献に当たってみよう。読み方だけでなく、漢字表記も間違っていることが判った。ここに整理して報告しておく。

まず、地形図にどのように記載されたかを追ってみよう。5万分の1地形図「和歌山」にこの山名が記載されたのは、明治43年測量(大正6年製版・発行)のものが最初で、「筆法ケ嶽」とある。読み方は示されていない。「くじほう」というルビが加えられたのは、昭和53年

修正測量のものが最初である。平成2年修正の時、なぜか「くじほう」と誤植され、平成6年修正で「筆法ケ岳」の表記で定着をみている。

一方、2万5千分の1地形図「淡輪」では、最初の大正11年測量のものが「懺法ケ嶽」(ルビなし)、昭和42年改測で「懺法ケ岳」、平成5年修正測量で「筆法ケ岳」と訂正されて、現在に至っている。

地形図では、一貫して「懺法」という漢字が用いられているのであるが、「くじ」の「法」とは一体、どういう意味なのだろうか。

文化八年(1811)刊行の『紀伊國名所図会』(巻之三)には、「聖山峰大明神 俗に南が森といふ。懺法嶽より東、山上の古松の中に石籠あり。懺法ケ嶽 辨天窟より北すること五十町にあり。是亦同じく真城の山中にして、修験道の行所な



克

随想 (山のエッセイ)

たように思える。
 「関西ハイキングガイド」(創元社)には、昭和41年初版以来、「竊法(せんぼう)ヶ岳」が採用されていた。最近の新版にはない。
 「竊法」は、通常「せんぼう」と読むが、「せんぼう」(角川大辞典)、「せんぼう」(学研漢和大辞典)、「さんぼう」(大塚和辞典)の読み方がある。「さんぼう」の読みは見られないようだ。
 結論として、「竊法ヶ岳」と表記されてきた山名は、本来、仏教用語の「竊法」に由来する呼称であるから、正しくは「竊法ヶ岳」と表記し、「せんぼう」が「せんぼう」または「さんぼう」が「さんぼう」である。
 和歌山市役所が作成した地名調査には「竊法ヶ岳」(くじぼうがだけ)とあり、その誤った表記と読み方は地形図のみならず、『日本山名総覧』や、CD-R O Mソフト『数値地図2500

0(地名・公共施設)「列島パノラママップ1」にも掲載されているのである。
 数値地図データ集は、全国の地名調査の写しが国土地理院にあり、その資料を用いて作成されたものだと聞く(ついでながら、夜久野町の居丹山と藤原町の鳥見山が「いぼや崎」「あまみやま」になっているのは、総覧と二つのソフトに共通したミスで、地名調査には「いもやま」とみやま」と正しく記載されている。
 ついでながら、「竊法ヶ岳」の近くの「祖石山」についてもふれておこう。この山は、5万分の1地形図「和歌山」(明治43年測図)に「祖石山」とあり、修正時にルビが消されてしまっただけで、読み方が地形図に示されないまま現在に至っているが、「まないたいしやま」の呼称は広く流布している。2万5千分の1地形図「淡輪」の平成7年部分修正時から、異体字で

ある「祖」を、正字体「祖」に変更している。阪南市と鮮町の地名調査には「祖石山」とあり、普及している読み方と異なっている。これと類似した食い違いのあるケースはかなり多い。
 地名調査は地形図の地名記載の典拠であり、その誤記の影響は大きい。市町村役場では、山名に対してあまり責任を負いたくないというのが正直なところ。国土地理院とお互いに、責任の押しつけ合いをしているような側面もあるのかもしれない。
 地名は時代とともに変化していく場合もあり、過去の表記や読み方にこだわる必要はないのかもしれないが、「竊法ヶ岳」のようなケースはまずいのではないだろうか。こういったことを正していくためにも、『日本山名大辞典』の編集が望まれるのである。

静かな尾根道

烏谷山

京都に住んでいる人にとって、比良山系は京都北山と並んで最も身近な山域だと思いが、烏谷山の山頂を踏んでいる人はそんなに多くはないだろう。
 本戸峠から北へリトル比良までの比良山系主稜線にあって、最も高い山がこの烏谷山(1077.7)だ。人気の高い堂満彦や釈迦岳よりもわずかではあるが高い。それなのに縦走路は山頂よりほんの少し東側をトラバースしている。分岐に大きな標識がないので立ち寄る人は少なめだ。だから一人用テントを一つ張るのが箱一杯の広さしかない山頂は、いたって静かだ。

眺望は周囲に灌木が茂っているのでスッ

松田敏男

比良

キリと見えるという程ではないが、武奈ヶ岳と蓬萊山という比良山系の南北の主峰を左右に望み、正面には琵琶湖、その奥には鈴鹿連峰が雄大でワイドに広がる眺望は、なかなかのものである。1人なるテントを張って、夜の山頂にどっぷり林を染めてみるのも印象深い山行となるだろう。

私は烏谷山の山頂が大好きである。たくさんの人に踏まれて土にまみれたような石がない。木の切り開きが少ないので乾燥しきったところがなく、湿潤な草木の匂いに包まれている。その雰囲気がい。だから最初の頃は、一般的なコースをたどって縦走の際に立ち寄るとい

烏谷山北西尾根の雑木林



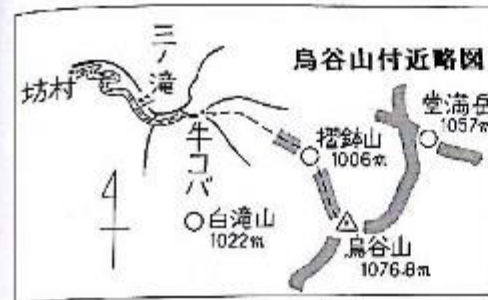
法で頂上に立ったが、同じコースながらこの山頂をめざすのが目的の山行に変わり、はては山頂で一泊するようにならな。しかし今までの主稜線コースは、方法を変えても山頂にちょっと立ち寄るといふ半端なコースという印象をぬぐえなかつた。だから一度西側から登って、山頂の雄大な景観を山頂到着と同時に突然目のあたりにするというコースをとってみた



三ノ滝

かった。またその北西尾根コースを一度は歩きたいという楽しみもあった。

その尾根とは摺鉢山のある尾根である。またエリアマップ(昭文社)に記載さ



れている比良山系の中で私の未登の1000円峰最後の山が摺鉢山だったので、この尾根を登りたいひとつの要因だった。

時高さんと2人で坊村から歩き始める。車は林道入口で入れないようにしているので、牛コバまでの少し長めの林道を歩く。車が通らないぶん、埃っぽくならなくていい。

三ノ滝に立ち寄った。明るくて乾燥している林道とは違って変わって鬱蒼とした樹林のなかの急坂をおりる。水量の多い白い瀑布は見応えがあった。ただし、流を見物するのにおりて行って見下ろすというのはあまりいただけない。やはり流は深さをさかのぼって見上げる角度で出合いたいものである。特にこの流は宗教色の濃い滝だから、なお一層おりて行く道など付けて欲しくない。敬虔な気持ちになれるかどうかは、心の内の問題だけでなく道のりという外面的な要素も大きく作用すると思われるからである。

牛コバを過ぎて奥ノ深谷沿いに、徐々に谷から離れていく登山道を登る。どこから尾根に取りつくかが今回のポイントである。

取りつき点の大雑把な目安は、牛コバを過ぎて奥ノ深谷から離れ、山腹をジグザグに登った後、烏谷山の北西尾根に出で乗り越すあたり、ということになる。

それを過ぎれば反対側の斜面を水平に歩き始めるので、水平に歩いていたらそれは行き過ぎたという判断だ。しかし、ともすれば見逃ごしかねない場所かもしれない。ともあれ、大きくはすれない限り、上部で尾根は集約されていくから適当な判断でも目的地に着けるのだが。山行では常に現在地をはっきりと地形図上で示せることが重要である。

北西尾根のシャクナゲ



その尾根の取りつき点には、ちょうどシャクナゲが美しく咲いていた。咲いていて当然の時季なのだが、ルートを見極めることに気持ちが向いていたので想定外の驚きだった。たいへん美しく、目に焼きつけることができた。

登り始めは少し木々の枝がさがり気味だったが、それほど歩きづらいうわけでもない。少し雑然とした樹林のなかを過ぎると、はっきりとした尾根上の踏み跡になった。

次第に美しい樹相の尾根になった。比良山系でこれほど静かで樹相の美しいルートもめずらしい。いい所を遊んだものだという満足感に浸りながら登った。所どころにシャクナゲが暖かな光を浴びて淡紅色を輝かせていた。樹間より右には自然林ばかりの丸い形をした俊しい姿の白滝山が現れ、左には武奈ヶ岳やコヤマノ岳が望見できた。

摺鉢山に着いた。多人数でもゆっくり休憩のできる小広い頂上だった。少しく



北西尾根より堂岳岳を望む

だつて再び深い樹林の風情のあるなかを進むと、突然西側が植林帯に変わった。これまでのしっとりとした美しさからうって変わり、乾燥した明るい所に出た。足元に生い茂る雑木をまたいで通過しなければならぬ悪場だった。伐採のため西方の気味は良かったが、さびしい気分になった。

1時間半ほどかかってしまおう大休憩である。深い木々の緑陰のなかで涼しい初夏の匂いを体に染みこませた。林道におり立ってから本月初めて出会う登山者、それも数10人の団体に遭遇してしまつたが、何とか静かな尾根歩きの余韻を持続させたまま、坊村の車止めに着いた。(平成11年4月29日歩く)

再び光程と同じ感じの樹林帯に入り、ホッとする。左側の枝の間から見慣れない形で堂岳岳から西側への尾根が望まれた。白みがかつた浅い緑の山体が繊細で美しかった。木が細かく密生するようになると烏谷山の山頂は近かった。以前、下見のために山頂から少しくだった記憶があり、ほどなく琵琶湖の大観のある山頂に着いた。今回、この山に登るのが初めてだった。この風景には大きな感動があった。昼食休憩は摺鉢山まで引き返してとることに決め、人の交ないうちに、ただちに下山を開始した。山の会の昼食は人数の多少にかかわらず、まずビールをしっかりと飲んだあと昼食をつくって食べ、最後はレキニャーコーヒで締めくくるといふものだ。だから

観光バスなら 确实第一の
太陽観光開発株へ!!



スキーバスもあります

- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・80人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

〒578-0971 東大阪市溝池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6746) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

祖母山・傾山

祖母山

5月の連休を利用して、九州の名山といわれる祖母山・傾山と霧島山々へのプランを立てた。

5月1日、伊丹空港9時30分発熊本行き全日空に乗り込んだ。折からの晴天で、上空から淡路島や西国の瀬戸内側を眺めつつ、約1時間のフライトで熊本空港へ着陸した。空港のレンタカー営業所で車を借り、一路高千穂町へと向かう。

阿蘇外輪山の俊山峠で休憩し、雄大な阿蘇山と対面する。いつ見ても大きく荒々しい山だ。阿蘇山の南側を走り、高森町から宮崎県の高千穂町へと入る。県境のループ橋から見る山々の新緑は目に染む

杉本 高

中九州

ような美しさだ。

県境から少し進むと、最初の集落、河内が見えてくる。ここの駐在所の前を右折すると高千穂町の中心部へと行くが、直進して祖母山登山口のある五ヶ所高原へと進む。祖母山へは明日登る予定だが、登山口までの道のりを下見しておく。

駐在所を過ぎて少し進むと急坂になる。この坂を上がり、五ヶ所トンネルを抜けると、五ヶ所高原の風景が目飛び込んでくる。左側に見える小高い丘がウェストン氏のレリーフがある三秀台である。三秀台を過ぎると道路の幅が急に狭くなり、少しくだつて行くと、右側に五ヶ所小学校が見える。その手前を右折する。

進んだ所に、東屋と案内板や大野川源流の標柱が設けられている。ここが北谷登山口である。

東屋には水場やトイレ・ベンチが設けられ、登山者名簿が置かれている。周囲は30×40台駐車可能で、キャンプ地にもってこいである。熊本空港からここまで約2時間かかった。

帰路、三秀台に立ち寄り、青空の下にすくくとそびえ立つ祖母山を眺め、明日の山行の成功を祈った。

明けて5月2日、五ヶ所町の宿を出発して登山口へ向かうが、途中で道を間違えて約30分ほどロスする。



北谷登山口に9時に到着。登山者名簿に記入し、身仕度を整え9時35分に山

登する。最初は杉の植林のなかに丸太で階段がつくられているが、すぐに地道となつてゆるやかな登りが続いている。水平距離5300歩を一合として標柱が立てられており、七合目までは、一合を10×15分の割合で順調に登っていきける。

北谷登山口が標高11000歩を超えているので、気持ちのよい登山が楽しめる。二合目付近から林を抜け、五ヶ所高原の林と草原のPATCHワークを楽しみながら高度を稼いで行く。四合目を過ぎ、尾根のついで少し進むと明るく開けた広場に着く。ここが千間平で、熊本と宮崎の県境となっており、熊本側の上津屋からの登山道が合流する。このあたりはササのなかをゆるやかに登山道が付けられている、まるで京都の北山を歩いているような感じさえる。

千間平から楡の植林のなかを進み、五合目の標識を過ぎひとくたりのたれが谷が大分・熊本・宮崎の三県境である。ここからゆるやかな登りとなり、約20分で広場となつている国観崎へ飛び出す。

この林で大分県の神原から登ってきた道と合流する。一帯はブナ林で、今年春の訪れが遅いのか、芽吹きはまだ見

国観崎の石地蔵と祖母山



舗装された林道を進むといくつかの小きな集落が現れ、やがて林道が二つに分岐する。よく見ると未舗装の林道に「祖母山登山口」と書いた木の標識が立っており、これに従って右折する。未舗装の道を10分位走ると、左手に立木を組み合わせただけの質素な鳥居が立っている。かつて登山口であった一の鳥居である(今は廃道となっている)。ここから5分程

られず寒々と幹が風にあたる。祖母山への登り口の石地蔵には赤いよだれ掛けがかけられていた。

ここからが本格的な登りとなる。山頂をはるかに仰ぎつつ、ブナ林のなかの登山道を一歩ずつ登る。最初は少しガラガラしたスズケのなかの道だが、祖母山九合目小屋「あけぼの山荘」への道を分けるあたりから、粘土質のV字状にえぐられた道となり、最後にはガラクの石にこの粘土がまとわりついた、かなりコンディションの悪い登山道となる。国観崎から1時間足らずのアルパイトで祖母山(1765m)の山頂へ到着した。

1等三角点の標石と毘沙門天(びしゃもんてん)の石祠、そして方位盤などが並ぶ山頂はちょっとした広場になっている。

ここからは、九重や阿蘇の山々がくっきりと望まれ、九重の硫黄岳の噴煙が見えるほどである。残念ながらアケボノツツジの花には出会えなかったが、好天に恵まれた山行となった。

昼食を終え、写真を撮影していると、その前か気になつていたので、黒いジャージの上下に黒いスニーカーという姿の若い女性があつたとひとりで昼食



祖母山頂の石祠

をとっていた。

撮影を終え、下山にかかる。途中で、あけぼの山荘に立ち寄った。ログハウスのしっかりとした遊覧小屋で、ソーラーシステムや風力発電を利用した照明・コンポストトイレなどで有名な小屋だ。往路に合流し、国羅峠へくだると例の女性が休憩している。声をかけると、神原までマイカーで来て日帰りだと言う。残念ながら下山方向が異なるので、ここで別れることとなり、彼女の後ろ姿を見送って三原境への道をくだった。三原境から千間平となだらかな道をくだり、北谷登山口へとおり立った。



傾山付近略図



傾山山頂

明日の傾山登山のため、日之影町の白滝温泉まで移動する。高千穂から延岡へのバイパスで一番大きな雪雲森から、その下を流れる日之影川沿いの県道に入り、40分余り走った。路肩に駐車して今夜の宿へと吊橋を渡った。

傾山

3日、白滝温泉で朝食を済ませ、登山口めざして車を走らせる。

宿で登山口まで1時間と聞いていた。民宿あけぼの荘の先で林道へ入ると、舗装路が途切れて砂利道となった。かなり山深く入り、宿から1時間を経過したころ、奥新しい造林小屋が見えた。ガイドにある造林小屋はこのことかと思っ準備をしていると、後から来た車の登山者ももっと奥まで入れると言う。林道をなおも進むと再び造林小屋があり、「車はここまで」の看板が出ていた。

身仕度をし、九折越をめざして登山始める。このルートはマイカーによる傾山への最短コースとなる。利用者も多いのだが、ガイドブックではエスケープブルート扱いになっていて、標識も祖母山に比べると少ない。テープの目印を見落とさ

ないようにする。

歩きやすい林道を進んで行くと、途中で川のように流れ流された棚れた道となる。崩落した箇所ではハシゴで窪地におり、ハシゴで登ることになる。やがて少し切り開かれた所にパイプで水が引かれている。最後の水場である(九折越でキャンプまたは遊覧小屋泊まりする場合はここで補給しておくこと)。

水場まで小休止し、林のなかにのびる登山道をゆるく登って行く。植林帯からブナの天然林に変わると、切り開かれた広場へと出る。テントが数張あり、真ん中に標識がポツンと立っていた。標識を確認すると、ここが九折越であった。

ここからは、スズタケの切り開かれた稜線歩きとなる。しっかりと踏み込まれたゆるやかな登りで、最初のコブの上からは、三つの岩峰が空へ突き上げる傾山の姿が指呼に望まれ、周囲に目を転じると、今回の山行で初めて目にするアケボノツツジがひっそりと咲いていた。

その後、コブを二つ越えると、宮崎・大分県境の杉ヶ越からの登山道と合流し、傾山への登りとなる。本傾山頂上にいる登山者の姿が肉眼ではっきりと確認で

きる。ここからが本格的な急登となる。

木のハシゴもあり、木の根や枝にすがって登る。眼下には大分側の切り立った山肌が新緑に染まり、青空との美しいコントラストを描き出している。

息を切れさせ、ヘトヘトになってやっとの思いで後傾のピークに立つと、な、なんと、本傾へ登るためにはいったん鞍部へくだらなければならぬ。自分の体力(脚力)のなさに情けない思いをしつつ鞍部にくんだり、本傾へと登り返す。しかし、思ったより登り返しはさきつくなく、一気に登ってしまった。

本傾(1602m)の頂上には2等三角点が置かれ、細長い広場となっている。霞がかかった空のなかに、昨日登った祖母山が姿を見せ、祖母山から傾山に向かう主稜線の山々が連なっていた。

杉ヶ越から登ってきたパーティに話を訊くと、途中のアケボノツツジは満開だったとのこと、日当たりや気温で開花時期が相当違うことを知らされた。

九折越までおると、九折越小屋(遊覧小屋)のほうから人の声があるので、小屋まで尾をのばしてみた。こじんまりとしたログハウスの小屋で、清掃や手

入れも行き届いており、別棟のトイレも整備され、使いやすい小屋だと思った。祖母山から縦走してきたパーティによれば、以前はスズタケのやぶがござだった縦走路も、近年自衛隊により刈り払われ、大変歩きやすくなっているとか。縦走するなら今のうちだとも言っていた。

道路、明治からの昭和にかけて探検が行われた見立嶽山の資料を展示する英国館に立ち寄った。

日之影温泉駅(駅舎の二階が浴場)で汗を流し、今夜の宿泊地の延岡へ向かった。

(平成12年5月2日〜3日歩く)

▲コースタイム▼

(2日)北谷登山口9・35〜千間平10・35
 35〜45 三原境11・00 国羅峠11・20
 25 祖母山12・15 (昼食) 13・00 ありげの山荘13・10 国羅峠13・35 45 千間平14・10 15 北谷登山口14・50
 (3日)見立・造林小屋前8・50 水場9・20 30 九折越9・40 50 傾山(本傾)11・35 12・40 (昼食) 1 九折越13・55 14・10 造林小屋前14・40
 (地図)昭文社「祖母・傾」

新ハイ例会・自然観察山行

鳳来寺山と明神山

鷺見守康

奥三河

愛知県の最高峰は、長野との県境にある標高1415.5mの茶臼山である。愛知県は濃尾平野が広がり、山は少ないという印象なのだが、中央アルプスと南アルプスの末端の県東部の奥三河地方には、標高1000m前後の山々が連なる。

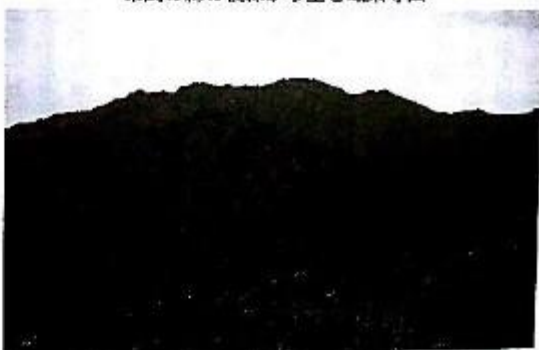
海底火山が隆起して浸食された山塊は、2000m級の山岳の雰囲気を持ち、溶岩のような巨岩も点在して、変化に富んだ山歩きが楽しめる。

難点は、アプローチに時間を要するということだろうか。公共交通機関は、豊橋からのJR飯田線もバスも便数が少なく、岐阜からは車利用でも日帰りとなるとなかなか難しい。

新ハイ例会で三河地方の山を歩いたのは、前年11月の石巻山と宇通山が最初であり、その時も1泊山行で岐阜から貸切バスを利用した。

今回の企画も、交通手段は当初貸切バスを予定していたが、定員20名に対して参加申し込みが10名（最終的には8名）と定員を大きく割り込んでしまった。10名というのは理想的な人数だし、何より、キャンセル待ちの苦書を送さなくてもよいというのありがたいことだが、一方で、参加者にはバス代等の頭割り負担が大きくなるという問題が生じてくる。そのため、計画の練り直しが必至となるのだが、貸切バスのキャンセルはなかなか

県民の森の後継から望む鳳来寺山



厄介である。

幸い、バス会社に対しては常連客という「強み」もあって何とか話がついた。しかし、新しい計画はJRを主にし、JR各駅からのアプローチをタクシーで補助するというものだから、JRのダイヤに左右され、飯田線の本数の少なさに困惑していた。

結局、これも宿泊先の旅館の協力が得

られて解決し、参加者はJR東海道線の豊橋駅に集合となった。

鳳来寺山

JR飯田線新城駅で旅館からの車の出迎えを受け、鳳来寺の表参道に直行する。時計は11時を回り、どんよりとした空からは雨が落ちてきた。何とか雨だけは免れたいとの願いも空しく本降りの様子である。雨具を忘れ、とりあえず本堂をめざして出発する。

有名な1425段の石段の始まりは、うっそうと茂る杉の老木のなかである。昼でも薄暗く、湿度が高いためにシダ植



物が多い。

再建された新しい仁王門を過ぎてしばらく行くと、新日本名木百選に選ばれた「傘杉」に出会う。幹周りが約7・5mほど、樹齢八百年と言われる巨木だ。樹肌にムササビの爪跡を見つけ、メンバーに説明する。

傘杉からさらに石段を登っていくと、うっそうと茂る木々におおわれ、あたりは薄暗くなってきた。次第に傾斜がきつくなり、いったん平坦地に出て再度急な登りを終えると真言宗の古刹鳳来寺本堂である。時計を見ると正午過ぎ。雨を避け、休憩舎で昼食休憩とする。

私の昼食は「おでん」である。ガスコンロで湯を沸かし、「おでんの素」を溶かし、ネギのぶつ切りなどの具を入れる。こんな簡単なものだが、この冬、例会山行で振る舞ってあんがいと評判がよかった。山での食事は何であれおいしいという見本のようなものである。

実は、前年の同じ三河地方の例会山行の折、石巻山の山頂で狩野さんのおでん鍋のお相伴にあずかりたいく感激したのである。それを早速真似ることにしたのだが、「狩野鍋」という名まで獲得し

た「元祖」にはとうてい及ばない。そうした事情を察し、リーダーの面目をおもんばかってか、この日のサブリーダー、狩野さんの昼食は「鍋」ではなかった。

本堂の上には荒々しい岩峰がそびえている。山岳修験道の山らしく、このあたりから急登となり、所どころ鉄梯子が架けられている。山腹に出ると奥の院が現れ、奥の院から10分で鳳来寺山(684m)の山頂に立った。

東海自然歩道と分かれ、いくつかの巨岩を見ながら天狗岩へ行ってみる。展望の開けた所なのだが、雨で視界はない。

シイやカシ類などの常緑高木の林内には、細い葉のシヤクナゲが目立つようになる。その名をホンバシヤクナゲといい、愛知県東部と静岡県西部にのみ生育しているシヤクナゲだ。別名をエンシウシヤクナゲとも呼ばれるのだが、むしろ奥三河地方に多く分布するようなので、ホウライシヤクナゲと称したほうがいいのではないかと、と思う。

天狗岩から狭い尾根をさらにくんだり、断崖上の鷹打台展望台にも寄ってティーブレイク。雨脚が強くなってきたため予定を変更し、携帯電話で宿の車の迎えを

依頼してから東照宮に向かった。

山根を捲いてくたると、前方がわずかに明るくなり、眼下に徳川三代將軍家光の建立した願来寺東照宮が見えてきた。日光東照宮に比較すると全体に小振りだが、空から俯瞰するかのような独特の臨場感がある。降りしきる雨のなか、駐車場まで歩いて宿の車に乗った。

明神山

明神山は愛知県奥の山々の中で最もアルペンの山容をもち、かつて岩古谷山の山頂から遠望したとき、見事なその姿に驚いた。その折、山頂に居合わせた地元ハイカーから、県内で最も登りがいのある山だ、とも聞かされた。



明神山付近地図

前日の雨もやみ、天候は回復した。宿の車で国道151号線を北上、豊鉄パスの三ツ瀬河口バス停から左折し、余根川沿いに走る。

谷が狭くなると「明神山登山口」の立派な看板が立つ三ツ瀬登山口に到着。宿の主人に梯りの迎えもお断りし、流れを渡って歩き始めた。

植林の斜面は荒れた感じで、巨岩が点在し、銀明水では流が氷結していた。予想もしない風景に出合っ、私たちは歓声をあげ、カメラタイムとなる。

尾根に出ると巨岩混じりの急斜面が連続し、クサリ場もある。六合目で乳岩峽からの道と合流し、やがて鉄梯子を登って巨大な馬ノ背岩に至る。視界が一気に開けてすばらしい眺めだ。南西の方向には昨日歩いた願来寺山や宇津山が見える。

東側が切れ落ちたやせた岩壁を越えようと、樹木が伐採された明神山(1016m)の頂上に出た。頂上は広場のように、鉄製の展望

台も設置されている。付近には寒波の名残の雪がわずかにある。

展望台からは奥三河の山並とその背後に南アルプスが遠望できた。わりあいに見晴らしのきく天気なので、みんなで山座向定を試みた。私は茶臼山と信州の大川入山の位置関係を精算していたため、20万地形図と見比べても奥三河の山々がなかなかはっきりしなかった。たまたま、この付近の展望に通じた地元のハイカーがいて、鞍掛山・岩古谷山・大鈴山・平山明神山なども確認、天狗樹の位置まで知ることができた。慣れない山域に入ったときは、居合わせたハイカーの中からその山域に詳しい人を見つけ出し、説明



岩古谷山から望む明神山

を求めると、にかぎる。屋敷休憩を終えたところで、予定時刻よりもまだだといふ早く、時間に余裕がある

ことが分かるや、メンバーからこのまま早く下山して温泉浴を、との提案が出た。衆議一決、携帯電話で宿の協力も求めたところ了解の返事。私たちは元気づく下山を開始することとなった。

六合目の分岐点で右折、乳岩峽へ進路をとる。まもなく胸突き八丁の急坂をくだる。体重で加速してゆくのをこらえながらくだっていき、モコモコとした樹冠の海のなかに恐竜の頭のような巨岩が忽然と現れた。有名な鬼岩である。尾根が狭くなってくると西側が削け、栃木沢へ落ちる斜面には大岩が点在する独特な風景が展開する。付近にはホンパシヤクナゲやヒカゲツツジが見られた。

鬼岩乗越からジグザグの坂をくだるにつれ、鬼岩がグングン近くなる。最初に傘岩を見て鬼岩の前に出た。スリリングですさまじい迫力をもった巨岩だ。この鬼岩はロッククライミングの練習場にもなっている。

ここから道は乳岩川に沿い、やがて乳岩との分岐に至る。今回、時間の関係でパスしたが、乳岩は大きな割れ目と風化によって洞窟と石門が形成されたもので、通天河と呼ばれる石門付近の景観は美し

低山登山~本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの会員店で更に割引します。



とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(6772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスク



く、乳岩洞窟と呼ばれる大きな鍾乳洞は狂巻である。

道は乳岩への遊歩道となり、谷が削け、流紋岩質凝灰岩で形成された板敷のような見事な河床が目の前に広がった。

13時過ぎに乳岩峽入口の駐車場に到着した。(平成12年3月4日5日歩く)

参考タイム▼

(3月4日) JR豊橋駅 9・53 ~ 10・09 (電車) JR新城駅 10・49 (車) 願来寺山表参道登山口 11・15 ~ 50 本堂 12・05 (昼食) 12・45 奥の院 13・12 願来寺山 13・22 大鈴山 13・48 鷹打場 14・10 ~ 20 東照宮 14・40 ~ 50 駐車場 15・00 ~ 05 (車) 旅館 15・15 (泊)

(3月5日) 旅館 7・00 (車) 三ツ瀬登山口 7・30 ~ 1合目 8・00 六合目 (乳岩登山道合流点) 9・05 明神山 9・45 (昼食) 11・00 六合目 (三ツ瀬登山道分岐点) 11・35 鬼岩乗越 12・10 乳岩峠 13・05 (車) 旅館 13・20 (入浴休憩) 14・00 JR湯谷温泉駅 14・32 (電車) JR豊橋駅 15・54 (解放)

△地形図▼
2万5千 三河大野・三河本郷・熊

西行漂泊の地を歩く

百貝岳と西行庵

木村 太郎

吉野

葛野山から吉野山へと南北に長大な尾根の続く大峰山脈。金の御嶽をいたたく聖地を拠点にして、開祖役、行者の時代から山に伏しての苦修修行は続けられてきた。千三百年を越えて今日まで受け継がれてきた大峰山修験道は、役行者没後に一時入峰の途絶えた時期があった。その理由は大峰山に大蛇がはびこり、修行者らの足を遠のかせたことによる。

宇多天皇の勅命をうけた聖宝理源大師は、六田の麓しを越え大和鳥栖の山に登り、法螺貝を吹き大蛇をおびき寄せ退治したという。聖宝はその時に、百個の貝を合わせたような大きな音を響かせたという。百貝岳の山名は、大蛇に象徴さ

れる悪霊を鎮伏し、大峰の当山派修験道を開いたこの聖宝の伝承を由来にしている。

百貝岳は吉野山最高峰青根ヶ峰の西方に支尾根を派生させている。吉野山は「万葉集」にいくつも詠まれるなど、文学とのつながりが深い山である。とりわけ吉野の春は、雅趣に満ちた景観をひろげる。

吉野山こそ枝折の道かへて
まだ見ぬかたの花をたづねむ

ところで、吉野山の秋は旅人にどのような風情を見せてくれるのであろうか。桜の季節の賑わいも終わり、醍醐寺や聖護院あるいは八幡後講が専く夏の山上詣

時前になっていた。
百貝岳登山口の地蔵峠へ向かいはやる気持ちで歩いた。地蔵トンネル手前の道を峠まで登りきると地蔵堂の小祠がある。伝承では弘法大師が日降唐の土を集めて地蔵像をつくり、この地におまつりしたものだという。小祠の前にはこの里とあの世の境界に立つみほとげ、地蔵菩薩にささげる地蔵の水が湧いている。日本三輪地蔵の一つといわれる地蔵さんのお堂の所から林道に入る。

百貝岳・西行庵付近路図



百貝岳の別名である鳥栖山の山名は、山麓の黒滝郷鳥栖(今の地名は黒滝町鳥栖)の地名から付いた。吉野山近在では、吉野杉から樽坂がつくれ酒樽づくりもされてきた。修験者が大峰山をめぐりた山上街道の要所にあった鳥栖の地は、樽丸製造発祥地という伝説をもつ。

曇り時々雨という天気予報が外れて、やわらかな秋の陽光が差してくる。鳥栖集落の八幡社春日神社の前を通り、杉の美林の頭越しに金剛窟の山並を眺めて坂を登る。

大どり着いた大峰山醍醐寺は、本尊に聖如麻輪観世音をまつり、聖宝ゆかりの法螺貝と大蛇の遺骸を寺宝としている。山城醍醐寺の別寺であり、醍醐三宝山門跡の入峰の時に柴橋藤原の焚かれる古刹である。

寺坊裏から山道に分け入り、森閑とした山中に大峰山中興の祖聖源大師をまつる廟路を

高城山より百貝岳を望む



りの足音も途絶えた今、紅葉の吉野山は気持ちを感じてくれるのだろうか。

近鉄下市口駅から赤滝方面への奈良交通バスは便数が少ない。休日この日、大峰山への登山客で満席の洞川温泉行きに乗る。吉野路の「道の駅」である黒滝案内センターでバスを下車し、赤滝行きに乗り換えて目的地の寺戸で降りると12

訪ねる。山上ヶ岳へ連なる四寸岩山や大天井ヶ岳の頭が樹間に見えかくれする。百貝岳への尾根道は静まり返っている。一気呵成に急坂を登りきれば小祠を置く百貝岳(360m)の頂上に出た。ここからの眺望は樹林にはばまれて爽しめない。

吉野山への道標を見て百貝岳の北斜面をくだる。小暗い樹林の道は西行庵へ続いている。西行が漂泊の身を休めた小さな庵は、桜と風に囲まれた台地に時間を止めてしまっているようだ。古びた庵のまわりで色あざやかに紅葉しはじめている樹木を見るとき、間違いない季節が移っていることに気づかされる。

世にあらじともおもひ立つかな
それにしても、西行はなぜ北面の武士という身分を捨て、23歳という若さで出家の道を選んだのだろうか。西行は「新古今和歌集」に最も多く選ばれ、中世随一の歌人として名高い。「山家集」には、大峰山修行を詠んだ和歌もおさめられている。修行の厳しさに涙を流したという西行の遺話を「古今著聞集」は伝えている。

深山・産生・越美 低山趣味

広谷良紹 著

四六判・一八〇〇円

新刊

北摂の深山北面、森深き産生、豊かな広葉樹林の広がる越美国境。地元の人々の聞きとりも取り入れた郷土の山研究。写真、地図、参考コースタイム付ガイド。

大和まほろばの山旅

内田嘉弘 著

四六判・二〇〇〇円

1 奈良県北・中部の山一山の辺、大和高原、宇陀、室生、初瀬、飛鳥、金剛、生駒 古代史探訪も併せた低山ハイキング。約60山地図、参考タイムつき完全ガイド。

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

史料『源平盛衰記』によれば、西行は宮中の身分の高い女房に思いを寄せ、そのために身を捨てた仕儀になったと説かれている。西行が生涯思い続けた女性とは、白河法皇の姪女となり、鳥羽天皇の中宮となった待賢門院璋子その人だといわれている。璋子の生家徳大寺家の家人を勤めていた佐藤義清（西行の俗名）は、主家の姫君を見初めてしまったのだ。中宮璋子は鳥羽上皇の寵愛を失って美しい黒髪を落飾し、嵯峨の御願寺に隠棲されてしまう。そして、失意のうちに仏界へ旅立たれたと知らされた西行は、裏山に女院が賑わう京都花園の法金剛院を訪れ、女院を想ふのであった。いにしへを恋ふる涙の色に似て快に散るは紅葉なりけり

文字通り西行に紅葉を落とさせた無情の紅葉は、吉野の奥千本を錦に染めはじめていた。西行庵のそばの谷道に菅清水の名水が湧き出ている。西行を慕って吉野の旅を重ねた松尾芭蕉の句碑が立つ。また若き日の鳥崎藤村は、西行家集をたずさえ吉野に入り、「山家ものがたり」を書いた。漂泊の西行の面影にひかれ、流れる清水の前で旅人は過ぎ去った悠久の時間に思いをはせる。明治初年に建て直された庵とは異なり、西行谷に湧く菅清水は、西行の時代から絶えることなく清冽な露を光らせている。とくとくと落つる岩間の菅清水 汲みはずほどもなき住居かな 菅清水を後にして宝塔院跡の分岐に出

右に行けば旧女人結界があり、「要路の障」の向こうには神院落浄土信仰の地、熊野への道が続く。左をとり、源義経の隠れ者が立つ金峰神社にくだる。気分がはずむ山道を離れて高城山展望所まで足を運ぶ。高城山南斜面のすぐ眼前には翠巒の青根ヶ峰がそそり立つ。その右手後方に歩いて来た百目岳を眺めることができた。広闊なる四方の眺望にひとときの賢沢を味わう。さらに道をくだって上千本の吉野水分神社へと廻った。豊臣秀頼の改修による桃山文化の華麗な装飾を施した本殿にぬかずく。 藤村が蝶に変身したという幻想を見た西行の本像は、風雪にさらされる山の庵から移され、この神社の拝殿の一角に安

住の地を得ていた。吉野の庵で過ごした3年の歲月、西行は何を思い何を感じていたのだろうか。花を払い落葉に世の無情を感じていたのだろうか。歌伝を綴れば、西行は待賢門院の女房であった堀河の局や近衛の局と歌を交し、在りし日の中宮璋子の思い出を語り合っている。尋ねとも風の伝にも聞かじかし 花と散りにし君がゆくへを



西行庵

花のような女院の居られる所を知りたいのに、尋ねても風の便りに聞くこともできなくなった。詠嘆してはばかりない西行の哀傷歌に胸がせつなくなる。落飾した女院への一品経の供養のために、法華教の勧進に歩いた京都の日々も胸に去来したであろう。西方浄土を夢みて建てられた女院の御願寺の法金剛院で、座にかかると「世女の滝」をともに眺めたことも胸に残ったであろう。 さまままの思いを抱いて西行が歩いた吉野山の峰道をたどれば、左手に金剛窟城の山並が見える。右手には蓮門山地の山並が見え、御坂裂山の特徴のあるピークが顔をのぞかせている。あの山の向こう側、飛鳥古京のさうなる北の彼方には、西行の忘れえなかった中宮璋子の住まわれた平安京があったのだ。 つるべ落とした秋の日が傾き、薄暗くなりはじめた吉野道をまっしぐらにくだる。金峯山寺蔵王堂の仁王門、発心門の扉の鳥居、吉野総門の黒門をくぐって吉野駅へと向かった。

七曲りをおおる前に、昭憲皇太后が花を愛でられた絶景といわれる下千本の御野立所に立ち寄った。

紅葉をちりばめた山を、ロープウェイが吉野の麓へ降りてゆく。いま歩いてきた吉野山の方をふり返ると、中空に白い半月が浮かんでいた。西行の「山家集」には、花の歌とともに数多くの月を詠んだ歌がおさめられている。 世の中の憂きをも知らずむ月の影はわが身の心地こそすれ 花をあこがれの象徴とし、月を自らの分身とした西行法師。大峰の山中で西行が眺めた極高の月は、輪を重ねて山の上に今また昇ってきた。流麗な調べが聞こえてきそうな、吉野の夕空に。

- △コースタイム▽
近鉄下市口駅（バス47分）黒滝案内センター（バス13分）寺戸（40分）地蔵峠（30分）四圍寺（40分）百目岳（40分）西行庵（25分）金峯神社（15分）高城山展望所（15分）吉野水分神社（40分）金峯山寺蔵王堂（25分）近鉄吉野駅
△地形図▽
2万5千1吉野山・中戸・洞川・新子

満開の桜を見て

讃岐路の山ぶらりぶらり

生駒 聳 峰

四国

明石海峡大橋が開通し、関西から四国の山にも簡単に往けるようになった。前年は淡路の山々を訪ねたので、今年は四国に足をのびして讃岐の山々を訪ねることにする。しかし妻が同様なので、観光も山もという欲張った計画である。

日時はたっぷり。折から春爛漫。各地で桜、天気が悪ければ停滞、行き当たりばったりである。愛車はキャンプ仕様なので宿の心配もない。

阪神高速から明石大橋へ。淡路のサービスイリアは大橋のよい展望台で、海峡を挟んで山陽側の景色がすばらしい。淡路島を縦断し、鳴門大橋手前のサービスイリアで弁当を食べる。四国はもう目前

だ。

徳島県に入り、鳴門北インターで降りると、鳴門海峡に突出する岬の北山(66.3m)をめざす。初めての土地を旅行する時はカーナビゲーションを手放せない。利用してみると本当に便利なので、画面に従って車を走らせるだけで目的地に到着できる。

岬の先端に近づくと、浜では灰わかめの製造中。鳴門の灰わかめは有名だが、いったい何の灰だろう。真っ黒で普通の木灰とは違うようだ。灰まぶれのわかめが海岸の砂浜や畑のビニール小屋に干されている。どこかのテレビ局が取材していた。

登れるはずである。

天田山の林道入口にはハイキングの案内板が立ち、林道は大塚牧場入口でもある。放牧時は午後4時半で閉門すると記されていた。

星峠まで車を走らせると、正面にパラパラアンテナが立つ天田山がそびえ、下に牧場が見えた。ここで牧場と山上への道が分岐し、どちらもゲートが開まっていた。車を置いて車道を歩く。道端に鳥居と「天ヶ津神社」の説明板が立っていた。また高圧鉄塔の所には「桜の墓」、途中の車道には「狐師の墓」があったの

で、何か伝説がありそうだ。

山頂には天ヶ津神社とアンテナの鉄塔が立つ。なかなか展望の良い山で、鳴門市街から鳴門大橋、そして吉野川から徳島の市街が広がっていた。

瀬戸内側の国道11号線にくだり、高松に向かって走る。前年環境の良かった津田の松原の道の駅をめざす。最近各地に設置されている「道の駅」は、車で泊まるには絶好の場所である。まよりは松原の道の駅で泊まることしよう。満開の桜の下に車を駐めをかけたむける。一日の終わりの最高の時だ。もう暗くなった

桜満開の白山



山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- | | |
|-----------------|----------------|
| ●1 利尻・礼拝・利尻・阿寒 | ●35 白馬岳 |
| ●2 ニセコ・羊蹄山 | ●36 鹿島湖・奥目湖 |
| ●3 大雪山十勝岳・穂高岳 | ●37 駒・立山 |
| ●4 十勝国境 八ヶ岳・妙高 | ●38 上高地・穂・穂高 |
| ●5 八幡平 奥山・磐梯 | ●39 東峰高原 |
| ●6 奥羽・早池田 | ●40 御嶽山 |
| ●7 奥王 奥山・磐梯 | ●41 中央・富アルプス圏 |
| ●8 奥羽山 | ●42 木曽駒・雲木岳 |
| ●9 朝日・山形二山 | ●43 甲斐駒・北岳 |
| ●10 奥蔵山 | ●44 塩尻・赤石・磐梯 |
| ●11 磐梯・吾妻・安達太良 | ●45 白山 |
| ●12 伊豆・遠景 | ●46 富士・伊豆・磐梯 |
| ●13 日光 奥羽・磐梯 | ●47 霧ヶ峰・霧ヶ峰 |
| ●14 奥羽 | ●48 比良山系 |
| ●15 越後三山 奥山・磐梯 | ●49 京北北山 1 |
| ●16 谷川 奥山・磐梯 | ●50 京北北山 2 |
| ●17 志賀高原・奥羽 | ●51 京北北山 3 |
| ●18 妙高・戸巻 | ●52 北越の山々 |
| ●19 利根川・奥羽 | ●53 六甲・摩耶・有馬 |
| ●20 磐梯・奥羽・奥羽 | ●54 奥羽高原・二上山 |
| ●21 高上州・妙高 | ●55 奥羽山・磐梯山 |
| ●22 奥羽山・磐梯 | ●56 奥羽高原 |
| ●23 奥羽 | ●57 大塚山系 |
| ●24 奥羽高原 | ●58 大台ヶ原 奥山・磐梯 |
| ●25 奥羽山 1 奥山・磐梯 | ●59 赤白・奥羽高原 |
| ●26 奥羽山 2 奥山・磐梯 | ●60 赤白山 奥山・磐梯 |
| ●27 奥羽山 3 奥山・磐梯 | ●61 大山・磐梯山系 |
| ●28 奥羽 | ●62 奥羽山系 |
| ●29 奥羽 | ●63 磐梯山系 |
| ●30 伊豆 | ●64 福良の山々 |
| ●31 富士・富士五湖 | ●65 阿蘇・九重 |
| ●32 八ヶ岳・奥羽 | ●66 奥山・磐梯 |
| ●33 奥山・磐梯 | ●67 奥山・磐梯 |
| ●34 北アルプス圏 | ●68 奥山・磐梯 |

(★印は新仕様の地図です)

●昭文社の「山と高原地図」は年産版として毎年春頃発行します。ご山行の際はなるべく最新版をご使用下さいませ。お申し込みの際は、お申し込み下さいませ。
●2006年度版は「大雪山」「甲斐駒・北岳」「奥山・磐梯」「奥山・九重」を全面改良し、新刊として「奥山・磐梯」を刊行しました。

昭文社

株式会社 昭文社
本社 東京都千代田区神田3-1
電話03(3556)8111(代) 〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(6303)5721(代) 〒532-0011
(インターネットで価格交渉中)
http://www.shoin.co.jp/

松原を妻と二人で散歩する。全く人影のない公園には、巨大な老木が静かに眠っている。わずかに打ち寄せる波の音が響くのみ。一杯機嫌での夜の散歩もおつなものだ。

早朝も松原を歩いてみる。広い松原にほんの数人の人影しかない。自然を独り占めする贅沢を味わう。

高松に向かう。八栗寺のある五剣山が特異な山容を現す。お寺所有のこの山は、危険なため入山は禁止されている。やがて尾島が姿を現す。山頂までのドライブウェイは桜が満開だ。すでに八十八ヶ寺参りは完了している。朱印をもらうこともない。もちろん一等三角点があることは先刻承知だが、それも調査済みなので省略する。

高松市内では陸地測量部を訪れる。ここが私としては今回いちばんの目的地である。「点の記」で三角点の所在や登路を調べる。

興林公園は市内の真ん中にあり、探すのにうろうろ。さすがに名園でよく手入れされた松、松のオンパレードだ。津田の松原とは違った美しさがある。茶室や座敷が何ヶ所もあり、一隅には桜もあつ

て満開だ。池を泳ぐ巨大な蛙にも殿様のような威厳を感じる。

興林公園の裏山麓にある浄願寺山(本阿山・239.7m)に向かう。地形図には登路の記人がない。山麓で訊ねると二つのピークの間の池の所にあるというので車を走らせる。このあたりも桜が満開だ。池のそばには平安時代に瓦を焼いた古い窯跡が保存されていた。浄願寺山逆歩道の標示があり、馬居から神社の参道に登る。白糸神社を過ぎ、破塚上の岩場に出ると、讃岐平野が広がる。平野に散在するこんもりとした小さい山々は、ぼつんぼつんとまるで古城のようだ。耕された田畑のなかには村々が点在し、たくさん溜池が散らばる。何か古代の農村風景を見ようである。

鞍馬を伝うと雑木林になった。落ち葉がいっぱいであまり歩かれていないようだ。市中から手近にある低い山なのに人氣のないのはどうしてだろう。この人たちはハイキングや早朝登山などしないのだろうか、この思いはこの後もしばしば抱いた。富士のような形の良い山でも、全く道すらない山が多かった。三角点は薄暗い雑木林のなかで、落ち葉に埋もれ

て、だれにも関心を持たれていないようだった。

下山後、池畔の桜の下でゆっくり花見を楽しむながら食事をしたが、こんなすばらしい所を独り占めして、もったいない気がした。地形図を広げてみても、讃岐平野には小さな富士山のような独立峰が多い。もっとも富士山形ということは登るには急だということになるが。

次は上佐山(字和佐山・255.7m)をめざす。カーナビに導かれて山麓の平和公園に到着する。平和な公園という意味だと思っていたら蓋地であった。上佐山はこの整備された蓋地公園の背後の山で、3000m足らずの小山なのに全く道がない。公園の管理事務所で訊ねると、中老の管理人たちは「どこから登ったらよいかなあ」と相談している。はっきりとした登路がないようだ。ここでも形の良い山が全く登られていないのを不思議に思った。「いちおう南側の牧舎から登れるだろう」と教えてくれた。

幕地の奥の山麓に一軒の農家があり、ここでも訊ねる。「少し森に入った所に山の神がある。そこから登れるだろう」と頼りない返事である。裾野の森のなか



に小さな山の神がまつられている。そこまでは何とか山道が通じていたが、その後は全く道がない。仕方がないのでやぶに突入し、登りやすい所に登る。低い山だから山頂は目の前だが、急な斜面でずり落ちそう。ほんの少しの登りに苦勞させられた。

山頂麓は台地で城跡のようだ。一面のササのなかに石の社が一つ。社があるから参道もあるはずだと周囲を探したが、どこも急斜面で道は見当たらなかった。木当り形の良い山は急だ。下山も半分滑り落ちるようになってくる。汗を流そうと塩江

温泉に車を走らせる。讃岐では有名な温泉で、その中の元湯に行く。沸かし湯らしい透明の湯は、名の通り塩分を含んでいた。窓の外の桜は満開であった。

この道の駅に泊まる予定だったが、国道で落ち着かないので、少し離れたホテルの里公園に行く。駐車場が広く新しい公園で、まだ若木だが桜も咲いていて静かだった。他に一台の車もなく、独り占めでライトに照らし出される夜桜を楽しんだ。

塩江温泉から内場ダムを通り笠松山(834.4m)をめざす。笠松山は四方から登山路があり、西の峰から後線伝いが楽そうなので上目ノ坂から峰に登る。こんな山のなかには思うほど点々と農家が散らばっている。一軒を覗いて山のことを訊ねたが、全く分からないと言う。どこも老人ばかりである。自分の住む所の裏山なのに知らないと言う。峠は舗装され、10台ばかりの駐車スペースがあった。この道は北から舗装が進んでいた。地形図通りには山道があり、雑木林のなかの良い道で、少しばかりの登り下りで簡単に三角点に到着した。展望も良くないし、ここも全く登山者のいない山で

あった。

城ヶ丸(大滝山・946m)は有名な山である。八十八ヶ所から外れた大滝寺が山上にあり、道路の各所に大滝山の標示が出ている。狭いが舗装された道が山のなかを迂回しながら高度を上げてゆく。やがて山上の西照神社の境内に到着した。拝殿や社殿など数棟の建物があるが、人影は見当たらない。車を置いて背後の大滝山に登る。頂上には三角点はなく墓所になっていた。被褥はハイキング道が整備され道標も新しい。三角点はこの先700mばかりの城ヶ丸にある。道端に建つ休憩舎も新しい。簡単に稜線の一段とあった城ヶ丸に到着した。樹間からは南の山並が望まれた。

2人の老人ハイカーがやって来る。どこから登ったのかと訊いたが、その場所は土地鑑のない私には分からなかった。神社に戻って昼食をとる。2つ5台の車がやって来たが、みなお寺参りの人たちである。お寺は神社の下で、北から来た人は間違っって山頂神社に入ってくる。

南へ臨町の方にくだる。少しで大滝寺だが、お寺には用事がないので素通りする。山の斜面に広がる草畑の村道は、狭

仕入れて車に戻る。

きょうは傾から雨である。山旅も長期になると当然雨にも遭う。雨の山は感心しないが、車での観光はかまわない。阿波町の名所「土柱」を見に行く。雨の日でもあり他に人の姿はない。山に登る私たちはさまざまな景観を見ているので、「土柱」などめずめしがることもない。

土威町の御所温泉は「たらいうどん」が名物で、何軒かの店が並んでいる。一番大きい店に入り、「たらいうどん」金500円也を賞味する。さすがに讃岐うどんは美味しい。しかしだし汁が薄く、おかずがないと食べられなかった。

雨のため山ではない2等の三角点を探す。西寛田(7・7m)は吉野川取水所の近くの畑にあり、野菜のビニールハウスの中では、標石を見ることができなかった。

鴨門市に戻り、一番札所の靈山寺に行く。私はお参りしているが妻のためにである。第一番とて雨でも観光バスやマイカーの参拝客で賑わっていた。

近くのマイツ館を訪ねる。周辺の緑畑はピンク一色の花盛り、桜より色が濃いので一段と華やかだ。第一次世界大戦時

くて曲がりくねって走りづらい。車の対向もままならぬ道をくんだり、吉野川を渡って貞光の町に入る。今夜はこの道の駅で泊まるつもりだが、まだ時間があるのもう一山と、貞光山(498・6m)をめざす。

貞光の町を抜け大坊の村に到り、山上の天宮神社の林道に入る。山の斜面に数軒の農家が点在する。林道の終点には大岩神社の鳥居が建ち、「麻殖の墳墓地」社 雄池 雌池 笹賀神社跡」等の案内板が立っていた。山中にいろいろな遺跡があるようだ。社車スペースもなく回転もままならず、苦勞して車を駐める。お参りの人があるのか、鳥居のそばには竹の杖が何本も置かれていた。

植林のなかを登って行くと、鳥居と大きな石灯籠が立っている。鳥居には大岩神社とあり、背後の岩が御神体らしい。ここから落ち葉に埋まった道を登る。雑木林のなかで全く展望はない。案内板にあった墳墓地や池等をしぼしぼ探してみたら全く見つからない。狐にだまされたような気分であったが、下山時に大岩神社でくすんだ標示を見つめる。ここから山頂に向かわず、山腹を捲いて行くとそれ

にドイツ軍の捕虜収容所があった所で、捕虜の生活ぶりが展示されている。年末になると歌われるベートーベンの「第九」が、日本で初めて演奏されたのもこのことである。ドイツ直売というソーセージを今夜の酒の肴に買う。

妻が「津田の道の駅が一番落ち着く」と言うので、また瀬戸内の1号線に出て津田に走った。これで讃岐路一廻りである。途中国民宿舎の温泉で一浴する。

朝は雨が残ったが、天気は回復してくる。急ぐ旅でもないのでのんびり朝寝。きょうは日曜日で、ここで朝市が開かれる。朝市といってもいろいろ軒の露天のみ。魚屋・櫻頭屋・花屋・お菓子屋・乾物屋。品物を選ぶのは女性の楽しみで、これも観光の一つである。

坂の名所の亀鶴公園に行く。小崎屋な公園だが、日曜日とて桜並木の下は場所取りの縄張りがいっぱい。しかし桜は早咲らしく、半分散りかけていた。

白山(2033m)をめざす。何回も記述しているが、この山も平野の中の小宮士で地図に登道の記入はない。そこで山腹にある神社をめざす。山腹のお寺や神社から道が付いていることがよくある。

らがあるらしい。もっとも私は三角点以外あまり興味はない。

吉野川沿いの道の駅「ゆうゆう貞光」に戻る。道沿いは車や人の出入りが多いので、裏の土手下の駐車場に入る。ここには道の駅の従業員の手しかなく静かだ。

案内所で町の観光地図をもらう。貞光の町は江戸中期より商業と交通の要衝として栄えた町で、商家が軒を並べ「梶(御建)」を競ったとある。今でも剣山街道に何軒もの商家が残り、名所になっているという。

「梶」とは町屋の妻壁の横に張り出した油壁のことで、火よけ壁と呼ばれている。本来は防火対策のためにつくられたが、当時裕福な商家は競って「梶」を上げ、立派な家を建てたので、「うだつを上げる」とは成功者を意味する。今でも「うだつが上がらない」と言い出世できないことを意味する。「梶」の家を見ながら銭湯に行く。古くて小さい銭湯は都会では見られないものとなり、子どもの頃の郷愁に浸るには十分であった。貞光の町の観光は考えていなかったが、よい思い出ができた。スーパーで夕食材料を

山の最新刊紹介

小北博孝 著



『展望の山歩き紀行』

(近畿展望の50山)

近畿地方における展望に優れた山を50山選んで、その登山記録を紀行文的に綴った。

頂上からの大展望の素晴らしい、その時々感動などを伝えたいと思う。

○判型 B6判 304頁

○発行 小北博孝

○定価 1500円

ご希望の方は郵便またはFAXにて著者宛に申し込みください。代金後払い(郵便振替)にてお送りいたします。

〒579-8015

東大阪市北石切町8の9

FAX 0729 (85) 3192

小北博孝

連載

三角点を訪ねて ⑨

鈴鹿峠の北の山・四方草山へ

磯部 純

鈴鹿の三角点峰に登り始めて10ヶ月。1人でも登れる山ということで地図を広げた時、滋賀と三重の県境にあるこの山が目についた。初めは「四方草山」をどう読むのか分からなかった。それが「しおそやま」と読むのだと知ったのは、恥ずかしい話だが登るルートを調べた時、また、四方草山の麓にある集落「山女原」を「あけん(び)ばら」と読むのだと知ったのも、この時だった。

四方草山は多くの当て字や名称を持つ山で、四方草山・四放草山・四尾草山と書かれたこともあり、文献によっては冷水嶽・四王山・塩刷山とも呼ばれており、統一されていない。現在では「四方草山」

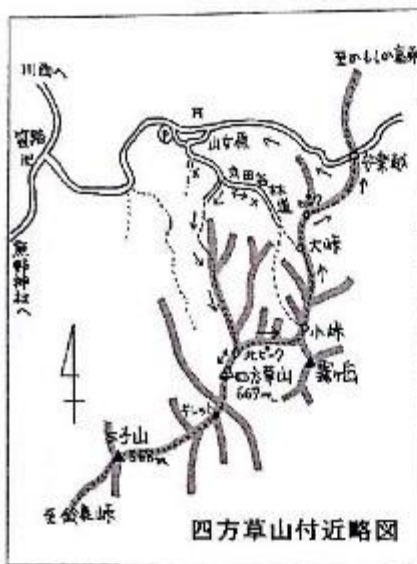
が定着しているが、この山名標記は山女原の小さな「四方草」から名付けられたものだ。昔、この山から三子山あたりにかけて草地が多かったことに由来すると聞く。ちなみに、地名は「唐谷」である。

今週に入って、天気予報ではずっと週末は雨マークになっていたが、金曜日の新聞で初めて晴れのマークがあった。前々から登ってみたいと思っていたその四方草山へ1人で行くことにしていたが、念のため保田君に電話すると、いっしょに行くとの返事。山行前夜の決定だった。

地図で見ると、この山へは鈴鹿峠から縦走路をたどれば簡単にに行けるように思

している鈴鹿道の山本さんに尋ねると、安楽越から歩けば途中で紛らわしい箇所はあるが、地図が読める人なら大丈夫とのことであった。迷いに迷ったあげく、近江側から、昔の雨乞い登拝に利用されたという、丸田谷から四方草山北のピークへ向かう古道をたどり、下りは安楽越まで県境のルートを歩くことにした。

山女原集落入口に車を置き、9時、丸田谷林道へ歩きます。地図で確認しないまま歩きましたこともあり、右の方向に向かっただけで、慌てて修正する。約700m程丸田谷沿いに歩くと林道は二分する。この林道を右にとるとは早速過ぎると、地図を見ないでかかっては判断し、そのまま300m程直進するも、南へ分岐する道はない。これはおかしいと地図で確認すると、やはり古道へ向かう分岐は先程の右への林道だった。これで間違っ



これは以上はルートを間違わないぞと、先程の分岐まで戻り、右の林道を南へ踏み込む。最近この林道はだれも歩く人がいないのか、橋を渡ってすぐから草やササが好き放題にびびり、人ひとりがやっと歩けるほどの踏み跡しかない。行く手を遮るやぶをかき分け、歩いていくと、突然、左手の樹から落石。驚

四方草山と3等三角点



えたが、登ったことのある何人かに話を聞くと、三子山と四方草山の中間にあるキレットが難関で、懸崖には越えることができないと脅かされた。以前、友人3人が登った時、2人は足がすくんで渡れなかったと聞くにおよんで、高所恐怖症気味の相棒といっしょでは、見ぬ前とはいえ、そのキレットのルートは敬遠したほうがよさそう。一方、新ハイで活路

COBEの登山専門店 ~手作りザックの店です~
クラシック25

昔懐かしい帆布製のフレンチタイプ。メインの帆布は一本締め。
サイドはファスナー付で小物の出し入れが自由。
またストック、ステッキホルダー付。内部のファスナー付小物入れ内臓クッション(厚さ5ミリ)は取り外し自由。ショルダーベルトは10ミリのクッション入りで体に沿う弓形。

カラー サンド×ネイビー
 サンド×グリーン
容量 25リットル
重量 800グラム
素材 10号帆布
価格 ￥10,000→新ハイ価格

オリジナルザックのカクログが出来ました。
8077引手3枚同封でお申し込みください。



伊モック山道行くらぶ
3月中旬に鈴鹿山系
雲山山(1034m)を
登ります。詳細はお問い合わせ
下さい。
IMOKO KOBAYASHI
TEL.0780 621-5851
FAX.0780 621-5528
住所が移転しました

いて見上げると根が連れらしい二頭のカ
モシカがじつとこちらを見下ろしている
ではないか。慌ててカメラを取り出し撮
り終えると、それを待っていたかのよう
に斜面の上へと消えて行った。

最初の谷分岐まで来ると、そこは林道
の終点。右手の谷の方へ向かう踏み跡し
かない。ともかくそれをたどることにし
たが、古道どころかどうやら仕事道らし
く、谷間の杉林まで行き着くと道はどこ
かへ消えてしまった。ここが思案のしど
ころ、地図で現在地を確認する。左手の
尾根にのれば三角点北のピークへ行き着
くことができるではないか。幸い尾根は
低かったので、急ではあったがその斜面
をよじ登って尾根へすることにした。

尾根には踏み跡が残っていたが、それ
もわずかで、これが古の雨乞い登拝の道
とはとうてい思えない。たどろうとする
道は、『鈴鹿の山と谷6』（ナカニシヤ山
版、西尾芳一著）に載っていた丸田谷石俣
を登る道であるが、西尾さんが調査した
のはだいぶ昔の話。今では歩く人もなく、
道は自然に荒れてしまったのかもしれない。
尾根は急勾配で倒木も多く、くぐり
抜けたり怖い。それができない時に

は迂回を強いられる。あたりの木々は高
くて展望は全くきかない。どんどん登っ
て行き、左右の尾根が一つに集まると傾
斜はさらに急になり、這うようにして登
る。これが逆ルートだったなら、めざす尾
根が下にあるとは分からなかったに違
ない。やっとの思いで主峰尾根にのり、
左へやぶをかき分けて登りきると、四方
草山の一つ北のピークへ飛び出した。歩
き始めから1時間20分かかった。

四方草山三角点は1000m程南のピー
クにあった。ほぼ南向きで20度西に振っ
ている。3等にしては草々と大きく見え
ている。実際にみると標石の頭は15・
3等四方の大きさで、標石よりわずか
3m長いだけだったが、あんなに大きく見
えるとは、人間の感覚の正確さに驚く。
山頂からは西と北の展望があり、眼下
に土山の低山が見えている。木の間越し
には仙ヶ岳・明星ヶ岳が黒く影を落とし
ていた。

食事には少し早かったが、私にとつて
の初登頂を祝って2人で乾杯し、腹に詰
め込むものを詰める。うす曇りとはいえ
まだ3月、吹きつける風はさすがに冷た
い。持ってきた防寒具を全部着込んで

下着が汗で濡れていたのでもあまりにも寒
過ぎ、ゆっくり腰を落ちつけていられな
い。食事こそそこそこ出発し、安楽越へ
と向かった。

先程登り着いた北のピークから方向を
東へとり、ピークを一つ越え、三つ目の
ピーク・霧ヶ岳の手前から90度方向を変
えて北にくだる。踏み跡は霧ヶ岳の方向
にのびていて、ちよっとでもそれを見逃
すとまっすぐ行ってしまいそう。こ
れから歩く尾根を見下ろすと、地図上で
はあまり高低差が読みとれないが、予想
していた以上のアップダウンである。

霧ヶ岳分岐からくだりにくだり、鞍部
へ。ここが小峠と呼ばれている峠だとか。
三重側には地図に破線路が描かれている
ものの、それらしい道はなく、近江側に
だけ踏み跡が付いていた。この踏み跡を
くだると、登りに直進した丸田谷林道に
たどり着いた。

小峠から50mも登り返すと方向を北西
へとふり、急な尾根をくだる。地図にガ
レ場印のある所だ。斜面は急で、ナイフ
リッジ状のガレ場をくだらなければなら
ない。右手は切り立った絶壁で、左の斜
面も控いて行けるような斜度ではない。



大峠へくだるガレ場

三重側にはそれらしいものは全くなかった。今では三重県側から登る人はなく、滋賀県側の丸田谷からの登山者にだけ利用されているのだろう。この峠からの登り返しは急で、思っていた以上にきつく、ピークに立った時には足が上からなくなっていた。めざす安楽越までは残り500m程だが、目の前にはもう一つのピークが待っていた。

ガレ場の苦手な相棒はぶつぶつと文句を
言っていたようだが、意を決してくだり
始める。わずか20分もないガレ尾根だっ
たが、ゆっくりと慎重に一步一步くだる。
やっとの思いでくだったのか、下におり
立ってガレ斜面を見上げた時の彼の顔、
そのホッとした顔は忘れられない。
その尾根をくだりきった所が大峠。こ
こもまた、近江側には道が付いていたが、

と右手へくだる道との二手に分かれる。
直進しかけて、ちよっと待てよと地図を
確認。三つ目の間違いはたまらない。じつ
くりと地図を読むと、環境は北東に向き、
下の尾根にのっているではないか。山本
さんが言っていた間違いやすい場所とは
ここだったのか。右へくだって尾根にの
り鞍部をクリアした。
最後のピーク手前のガレ場でふり返る

と、四方草山から歩いて来た尾根がくっ
きりと見えている。今さらながら、よく
もこんなアップダウンの多い尾根を歩い
たものだと思心させられる。数えてみる
と大きなピークが六つもあった。これを
安楽越から登っていたら、途中で登るのが
嫌になっていたらかもしれない。今
回とったルートで正解だった。
最後のピークをくだると旧安楽越。す
ぐ下に新安楽越の車道が見えていた。
車道をおくって行くと、山女原集落は
ずれの道分岐に「右いせみち」と彫られ
た石碑が立っていた。安楽越へ向かう旧
道との分岐で、今では東海自然歩道の分
岐でもある。その傍には二等水準点基石
が埋められていた。
車まではもう少し。道端には早やフキ
ノトウが顔を覗かせていた。
(平成11年3月13日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 山女原集落入口広場(20分) 林道分岐(1時間) ピーク6500m(10分) 四方草山(20分) 霧ヶ岳(30分) 大峠(40分) 安楽越(40分) 山女原集落入口広場
- △地形図▽2万5千1:10000

大津ワングル道から

ヤケオ山・横谷道

秦 康 夫

イン谷口から釈迦岳山頂に突き上げる大津ワングル道は、高度差約8100尺。やせ尾根あり岩場あり急登ありの、なかなか変化に富んだ歩き応えのあるコースである。

日曜としては久しぶりの好天とあって登山客が多く、JR比良駅からは増発のバスが二台出た。イン谷口で下車。車道をリフト駅の方へ数分歩くと、赤いテープの巻かれた電柱がある。近くの木に「ジャカ岳・大津ワングル道」と書いた木製の道標がくくりつけてあり、ここが登山口になる。

きょうのメンバーは男性5、女性7の計12名。イン谷に架けられた二本丸太の

橋を渡り、しばらくは落ち葉を踏みしめてのゆるやかな登りが続く。間もなく道は谷筋を離れ、松の混じる密生した自然林に入る。深くえぐれた溝のような山道だ。歩きにくいうえにやや陰気くさい。左に歩きやすそうな道が現れ、そちらのほうへ行きかけたが、緑のテープでストップしてある。山仕事用の道らしい。

10数分歩いてやっと滝状の道を抜け出し、周囲が開けてきた。琵琶湖側の展望が良い。山腹をからむように、ぐるっと大廻りするゆるやかなニリ道が続き、左に向かうとやっとな尾根にのった。ここからはずっとな尾根道になる。樹林帯なので展望はあまり良くないが、

露出し、ネットのように絡まっている。その下は深い空洞だ。いまのところはお

そるおそる通過できるが、そのうち板の橋でも必要になるかもしれない。登山道に立ちほだかる大きな岩もある。木の根をつかんで左側を推くルートが付いているが、岩の右側から廻り込んで狭い足場を広い斜めに登るほうが簡単である。ここでの写真は、本格的なクライミングをしているような姿に撮られていた。

この岩場の上に続く急坂はきつかった。岩角や木の根っ子を頼りに、両手両足を総動員してやっと登りきると、道はやや平坦になる。右側が開け、これから向かうヤケオ山の稜線がくっきり見えてきた。間もなくリフト・シカ岳駅からの登山道と合流し、11時20分釈迦岳(10061

びに到着した。

山頂は登山者が多く昼食にもまだ早いので、小憩後すぐヤケオ山に向かっただり始めた。急な下り道をこなせば、あとはなだらかな尾根道となる。薄曇りながら展望も良い。

比良の魅力は、なんといっても間近に日本一の琵琶湖を見下ろしながらの緩急歩きだろう。これだけは他の山では味わうことのできない、比良山系固有の財産である。フジハゲと呼ばれるあたり、右下の大谷に向かってスパッと切れ落ちた急崖の向こうには、広々とした湖面が横たわり、雲間を抜けて福く淡い陽差しを受けて、きらきらと輝いている。

ピークを一つ通過し、次のピークがヤケオ山かと思ったら、もう一つ先だった。少しくだつて登り返し、山頂に着いたのは11時50分。蛇谷ヶ峰方面の展望が良い。はるか北の箱館山から三回山・赤坂山あたりまで遠望できたが、これも登山者が多くスペースがないので、早々に山頂を降りてくだることにした。

ふり返ると、樹間から堂満岳の荒々しい北壁が時おり姿をのぞかせる。JR湖西線の車窓から見上げるとき、れいな円錐形だが、ここから眺める堂満岳は、なだらかな長い頂をもつ台形の山である。



大津ワングル道の岩場

道はだんだん悪くなってきた。岩石がゴロゴロ転がっている。大きな松がぼろぼろ折れて岩に倒れかかっている。その根を伝ってよじ登ると、上にも別の松が無残に倒れて道を塞いでいる。このあたりやたらと松の倒木が目立つが、松食い虫のせいであろうか。少しくだつて砂地に登りになると右の支尾根が近づき、ほどなく近江舞子からの「雌松山荘道」と合流する。「大津ワングル道」の標識があり、鈴鹿山脈を遠望しながらゆっくり林頭。登山口からこの分岐まで約1時間だった。

ここからのワングル道は、変化があつてなかなかおもしろい。もともとやせ尾根だが、土砂が流れてしまつて木の根が砂利並じりの滑りやすい急坂だが、登りに比べれば柔なものである。ただし、スリッパには要注意。途中で一ヶ所、展望のよい所がある。ここで小休止。琵琶湖に向かって突き出す細長い岩があり、早速岩登りの得意な男性がよじ登って、特等席からの展望を独り占めしていた。まだ急な下りが続く。ジグザグ道の次には溝のなかの急降下があり、ロープを頼りに抜けてやっとな鞍部におり立った。

縦走路をこのまま進めばヤケ山を経て寒風峠方面に行くが、きょうは尾根歩きはここまでにして、谷道をくだる計画だ。登山地図では、ここから少し登った大石から北西方向にくだる尾根ルートが破線で記されているが、この道は木の根が張り出して歩いて歩きにくい所が多い。その手前の鞍部から左へ横谷という小さな谷が入っている。縦走路からの道はないが、10数年前に木に付けた褐色のテープがあり、これを目印にササを分けるとすぐ明るい谷筋が現れた。

疎かな立木にササの混じる静かな谷である。平らな場所を選んで昼食にした。仲間間の用意してくれた鍋が出てきた。キノコや野菜のたっぷり入った特製のうど



ヤケオ山・横谷道付近地図

ゴールデンウィーク 海外の山旅

<p>ロッジ泊で歩く ヒマラヤ大展望 プーンヒルトレッキング 9日間</p> <p>アンナプルナ山群とダウラギリ山群が一瞥できる人気のコースです。8000m、7000mの峰々が赤く染まるプーンヒルからのご景光は素晴らしい一言です。 出発日 ①4/10(水)~18(水) ②5/11(木)~9(木) 旅行代金①272,000円 ②308,000円</p>	<p>ロッジ泊で歩く エベレスト展望トレッキング 9日間</p> <p>憧れのエベレスト街道を歩く、スバルでも1、2を争う人気のコースです。ジャンボチェの丘からは世界最高峰のエベレストが一瞥できます。 出発日 ①4/10(水)~18(水) ②5/11(木)~9(木) 旅行代金①269,000円 ②304,000円</p>
<p>世界最高峰の大展望 カラパタルトレッキング 18日間</p> <p>クーンプヌ湖沿いの標高に位置するカラパタルからは世界最高峰のエベレストをはじめプロメリ、アマダブラムなど同列に見ることが出来ます。 出発日 ①4/18(日)~25(木) ②4/22(日)~5/9(木) 旅行代金①396,000円 ②418,000円</p>	<p>エベレスト・ゴキョピーク(5360m) 登頂トレッキング 16日間</p> <p>ナムチェパザールからさらに奥へ奥へと進みます。ゴキョピークからはエベレスト、チョーオコー、ローツェ、マカルーなど8000m峰4座を一瞥できます。 出発日 ①4/10(水)~25(木) ②4/22(日)~5/7(日) 旅行代金①388,000円 ②408,000円</p>
<p>舌の花咲く 桃源郷フンザと カラコルム ハイキング 8日間</p> <p>不毛畏怖の村として知られるカラコルムの桃源郷フンザです。山岳景観の素晴らしいハイウェイを走り、美しい人々の暮らすフンザの村を訪ねます。 出発日 4/6(金)~13(木) 旅行代金 267,000円</p>	<p>ナンガパルバットトレッキングと 桃源郷フンザ 11日間</p> <p>ギルギット周辺からはナンガパルバット、フンザからはツカボシ山脈といった秀峰が聳え立っています。舌の花が咲く最高の季節に訪れます。 出発日 ①4/27(金)~5/7(月) ②5/18(金)~28(月) 旅行代金 ①318,000円 ②275,000円</p>
<p>パプアニューギニア最高峰にアタック ウィルヘルム山登頂 8日間</p> <p>パプアニューギニア最高峰ウィルヘルム山は登山道や山小屋が整備されており、特別な登山技術や道具は必要ありません。ポーターが同行の素晴らしい登山です。 出発日 4/29(日)~5/6(日) 旅行代金 338,000円</p>	<p>ボルネオ最高峰 キナバル山(4095m)登頂 5日間</p> <p>キナバル山は赤道直下、世界第三の島ボルネオ島に聳える最高峰です。ランヤクジャングル、ウツバカズラなど固有種も多く花を見ながらの山歩きを楽しめます。 出発日 ①5/2(木)~5/6(日) ②5/16(木)~20(日) 旅行代金 ①228,000円 ②163,000円</p>
<p>秘境チベット大自然 ラサからシガチェ 8日間</p> <p>標高約3800mの高地に位置するラサ、日差しが強いことから「日光城」とも言われているチベット仏教の聖地です。道中味わう大自然もこのツアーの見所です。 出発日 4/30(日)~5/7(日) 旅行代金 298,000円</p>	<p>歩いてまわる 首都北京と 万里の長城 4日間</p> <p>天安門広場、故宮、明の十三陵、そして万里の長城などの観光スポットをじっくり歩いて、歴史の深さと雄大な大空を感じてください。 出発日 ①4/27(金)~30(日) ②5/18(金)~21(日) 旅行代金 ①135,000円 ②118,000円</p>
<p>らくらく登る 台湾最高峰 玉山(3952m)登頂 5日間</p> <p>台湾最高峰玉山は古くから4000m近い山頂に巨大なスケールの大きな登山が楽しめます。良く整備された快適な登山道を経て途中1泊、標高頂上に登る充実した登山コースです。山小屋までの荷物にはポーターが運ぶ「らくらく」の企画です。5月中旬には山小屋より上では見事なシャクナゲが咲きます。 出発日 ①5/2(木)~6(日) ②5/17(木)~21(日) 旅行代金 ①215,000円 ②155,000円</p>	<p>韓国最高峰 ハンラ山(1950m) 春季登頂 3日</p> <p>東シナ海に浮かぶ済州島の韓国最高峰ハンラ山の登頂を目指します。積雪期にしか許可がおりなかったハンラ山でしたが春の登頂が解禁されました。この度春季登山解禁記念として3本設定致しました。園内の山の絶景で登っていただける海外登山入門コースです。 出発日 ①4/20(金)~22(日) ②5/4(金)~6(日) ③5/18(金)~20(日) 旅行代金①108,000円 ②128,000円 ③115,000円</p>

~~~~日帰りから海外までの総合カタログがあります。ご請求下さい。(送料無料)~~~~  
お問い合わせ・お申し込みは、国土交通大臣登録旅行業第1366号(社)日本旅行業協会 ボンド保証会員  
**アミューストラベル(株)** ☎06-6456-3366  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル7F FAX 06-6456-3377

ん踏だ。ここなら他の登山者に会おうともない。谷の静寂を乱して申し訳ないが、わいわいがやがや、飲んだり食べたりしゃべったりしているうちに、1時間ほどが経ってしまった。

午後は軽い下りだけだったが、実はここから本日のハイライトコースである。水のない広い谷なので、勝手にままに好きな所を歩けばよい。腐葉土の上に落ち葉が敷きつまったウレタンフォームのようなふかふか道だ。道といっても純粋のケモノ道が走っているだけで、人の歩いた形跡はなく、いたる所にシカやイノシシの足跡だけが残っている。登山者の多い比良にはめずらしい、ささやかな秘境である。

大きな滝のないことが分かっている谷筋下りは気が楽だ。右や左から小さな谷が入ってくるが、流れに沿って行けばよいので迷う心配もない。右上の尾根と平行に、ほぼ北西に向かう谷をどんどん歩く。

水が出てきた。支谷の水流も集めて、流れが徐々に大きくなり、右岸の上方に道が現れた。れっきとした山道だ。だが、この道はすぐ消えてしまったり崩れてい

たり、あまりあてにはならない。石組みの炭焼き窯跡があるところを見ると、昔の仕事道らしい。

小さな滝が見えたので、近くまでおりに休憩することにした。幅は広いが流れの弱いスタレのような滝だ。細い流れが幾条にもなっていて落ちてくる。高さはせいぜい3、4層くらいか。静かな谷にふさわしいおだやかな滝である。元気な女性たちがさっそく滝登りの真似ごとをして遊んでいる。

左からやや大きな谷が入ってきた。地図上に記されているジャグレ谷らしい。これを越すと小さな滝がいくつか現れ、水流も大きくなってくる。右岸にしっかりとした道があるがすぐ途切れるので、そのつと谷におりたりり岸を高捲いたり、源流域ののんびり歩きに比べると苦勞が多い。

杉の植林帯に入り「遊覧風景保護区」の立看板を過ぎると、木の幹に巨印のテープがあるが、大谷からの尾根道がこのあたりで合流するようだ。

杉林や松林が続く、やっとなともな山道になってきた。ふもとに近い。と思うと突然、左の谷から水を引く太いビニ

ルパイプが現れた。工事現場のような赤土の広い道になり、ビニールパイプの注ぐ水の先には、溜池のようなものがいくつかある。覗いてみると無数のヤマメやニジマスが群れており、イワナらしき姿もみられる。近くにフィッシングセンターの養魚場らしい。

ここから梨ノ木林道までは2、3分の距離。30分ほど林道を歩き、鹿ヶ瀬道のバス停には15時30分頃到着した。15時52分発の江若バスに乗り、JR近江高島駅から新快速で帰京した。

京都駅前の台湾風居酒屋「阿里山」で、快適なハイキングの一日を締めくくった。  
(京都北山グループ例会、平成12年10月15日歩く)

▲コースタイム▼  
JR比良駅(バス10分) イン谷口バス停(1時間) 大津ワンゲル道・雄松山荘道合流地点(1時間) 釈迦岳(35分) ヤケ山(35分) 横谷道への入口(1時間20分) 養魚場(35分) 鹿ヶ瀬道バス停(バス15分) JR近江高島駅  
▲地形図▼2万5千1比良山・北小松 昭文社「比良山系」

# 文献紹介と京都・大津ルート

柴田昭彦

「旗振り通信」というのは、大阪堂島の米相場を、櫓の上や山頂などに設けた見通しの良い中継所を次々と連絡して、遠方に迅速に伝えたもので、和歌山まで3分、桑名まで10分、岡山まで15分で伝達できたと伝えられている。江戸中期(1710-1700頃)から始まったが、米飛脚の生活権保護のため、幕府によって禁止された。慶応元年(1865)に軍艦の兵庫来航の報を旗振りで知らせた功績を契機に公認され、明治期には浪華の一名物となった。明治末期になると、高層建築の出現で見通しが悪くなり、予約電話が認可された大正3年を最後にはほぼ消滅した。兵庫県の一部の地域などでは

大正6、7年頃まで用いられたというが、これは旗振り通信員の職業維持のためであったようである。

筆者は、本誌41号(高野位山と日笠山)、52号(田中山)、54号(二石山)で旗振山を紹介してきたが、旗振り通信網の全体像をつかむ必要性を痛感してきた。

旗振り通信の行われた地点に関する情報は少なく、中継ルートの再現はかなり難しい。旗振り人の子孫や旗振りの目撃情報を持つ古老は高齢化し、現在が調査可能な限界かも知れない。筆者は平成12年に図書館で文献収集を行い、不明の点については市町村教育委員会や郷土資料館、郷土史・登山ガイド執筆者などに問

い合わせて、地元の伝承者への聞き取り資料の収集に努めてみた。その結果、まだ不明の地点はあるが、およその全体像はつかめるようになった。今回は、基礎文献を紹介すると共に、京都・大津ルートを解明してみた。今後、十数回に分けて、西日本一円の旗振り通信網の全貌を明らかにしていくことにしたい。

天王山の山頂(大山崎町)



## 【旗振り通信の報知区域に関する文献】

明治42年に大阪市役所(及び大阪商業会議所)が、大阪堂島米取引所に對して行った旗振り通信に関する調査の結果が、「旗振り通信の沿革及仕方 附、伝書鳩の事」と題して「明治大正大阪市史 第七巻 史料篇」(昭和8年)に収められている。この中に、「報知区域 西は兵庫・姫路・岡山・備中・広島、東は京都・近江一円・桑名・四日市・津、南は和歌山」とある。

この史料を土台とし、大阪商業通信事務取締役石橋久吉氏の談話により、通信網に関する詳細を加えて、要領よくまとめたのが、近藤文二「大阪の旗振り通信」(明治大正大阪市史紀要「第四十七号、昭和七年九月十五日発行)であり、同じ論文は「経済史研究」35号(昭和7年)にも収録されている。この近藤論文は、小島昌太郎との共同論文として、「明治大正大阪市史 第五巻 論文篇」(昭和8年)にも収録されている。これは、旗振り通信に関する最も詳細な論文として、今もなお典拠とされている(福田アジと他刊「日本民俗大辞典 下」吉川忠文館、2000年。「旗」おこび「旗振り通信」の項目を参照)。

樋畑雪湖「信号通報の歴史」(民族「第二巻第二号、昭和二年一月)には「大阪と豊前間に於ける米相場通信にも、此色籌の方法が行はれてゐたと伝えられてゐる」とあり、「西は兵庫から山陽道を下関に伝えていたとある。もっとも、樋畑雪湖「江戸時代の交通文化」(刀江書院昭和6年)では、大阪市役所内同商業会議所の調査を参考にして、広島までとしている。

服部英雄「景観にさぐる中世」(新人物往来社、1993年)の「飛脚籌によせて」では、明治6年ごろ、高岡(下関)から若津(筑後川河口)に至る旗振り通信ルートが存在したことよふれている。

近畿電気通信局編「近畿の電信電話」(昭和4年)では、報知区域に「奈良、大和高田」「六甲と淡路を經由して徳島」が加わる。

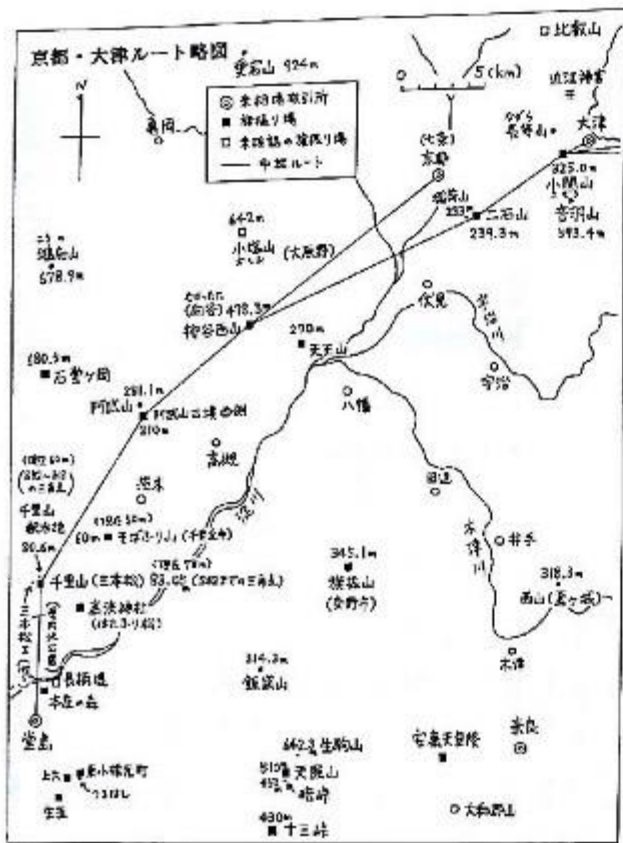
古谷「火と馬と旗」(十二)(十二)(近畿電気通信局文書広報資料「近畿」第1巻第2号、昭和5年)・3月、国立国会図書館蔵)は、近畿論文を要領よくまとめている、これをさらに充実させたものが、古谷勝「近畿における情報伝達の歴史的發展 その五「旗振り」」(近畿電気通信局蔵資料

査要、昭和51年10月発行)である。筆者は、「山科の歴史を歩く」(平成元年、山科の歴史を知る会、京都府立総合資料館蔵)に参考資料として記載されていることを知り、山本正明氏より写しを入手できたが、今日、NTT大阪支社にもなく、希聖本に属する。通信網について詳しく、丹波路の「旗振り熊さん」の記事は他では全くお目にかかれないものである。

島夫蔵「大阪堂島米会所物語」(時事通信社、1994年)には「江戸まで普通の飛脚で七日、早飛脚でも三日かかるのが、たった一日で届くといわれた」とあり、旗振り通信の早さをたとえたものようだ。名古屋より東方では、岡崎への通信が知られている(尾張の遺跡と遺物誌「昭和15年7月」)。

筆者の収集した資料によって、旗振り通信の報知区域をまとめてみると、「西は神戸・姫路・岡山・備中一円・広島・下関・若津(大川市)、播磨・丹波、東は京都・近江一円・桑名・四日市・津・大阪、名古屋・岐阜・大垣・岡崎、奈良・丹波市(大津市)・三輪・大和高田、伊賀上野、南は和歌山、淡路島・徳島」ということになる。





江の郡」と大阪を結ぶノロンの中継点という。加堂義男「老観野乃能勢誌」(昭和57年)にこれらのノロン場について紹介してある。高山地区の中谷松氏は、「堂島の米相場を石堂ヶ岡で中継し、京都に知らせていたと聞いています」といい、

直接、堂島から受信できたのでは、とのことであった。直接京都への送信はできないので、京都の山で中継したのであるが、どの山なのかは不明である。立地からは小塩山かもしれないが、裏付けはとれていない。

- 高浜神社(吹田市高浜町)で一番高い松
- 吹田千里山(熊山)中継所は、北大阪急行緑地公園駅東方500坪の旧三角点「三本松」(標高53・05坪)にあったが、現在は工事で削られて標高78坪となり、立ち入りもできない。阪本一房「ききき吹田の民話」(吹田市市長公室広報課、昭和59年)には「江坂の三本松」での旗振りが行われ、「目で見る豊中・吹田の100年」(郷土出版社、1995年)には、明治末年の「千里山三本松」の写真が見られる。三本松の南東140坪にある77坪のピークは昭和49年に前朝古墳と判明したが、すでに削り取られた後であった(吹田市史第8巻、昭和56年)。

- 千重丘中(吹田市)には、そばふり山(相場ふり山のこと)があった(ききき吹田の民話)。毎日放送の南方300坪のあたりで、標高60坪ほどの山であったが、宅地開発のために削られ、標高50坪となっている。「近くの中継点は江坂の三本松」(ききき吹田の民話)とあり、吹田千里山からの分岐中継点であったようだ。
- 茨木阿武山中継所は、「旗振山」ともいわれる。貴人の墓の西側に旗振り小屋が建てられていたという(木村俊之「大阪府の山」山と溪谷社、1995年)。茨木市の「茨木自然歩道」のパンフレットには、「阿武山の南西に「休場」という所がある。ここから隠密に手旗信号で大阪方面の情報を入れていたようである」とある。
- 石堂ヶ岡も、「米相場を京都に伝える中継点であったことから、別名「相場振

【京都・大津方面ルート】

★「旗振通信の沿革及仕方」では、「大坂(三里)吹田桃山(三里)茨木栗武山(三里)柳谷(六里)京都」となっており、篠崎昌美「浪蕨夜はなし」(朝日新聞社、昭和29年)、「北区誌」(昭和30年)も同様である。近藤論文には、石橋氏からの聞き取りにより、京都ルートの中継地点は「千里山・茨木栗武山・柳谷西山、大津ルートは「柳谷西山より二石山・小関山を経て大津」とする。

を後継磯上皇の歌にちなんで「鶴の松」といい、淀川の長柄堤(大阪市北区北東部)からよく見えたという。この松は「はたふり松」となり、あっちこちの通信の役目を果たしたという(ききき吹田の民話)。長柄堤での旗振りの裏付けは得られていない。

**地形図の見方のテキスト**

「山登り初心者のための地形図入門」の小冊子(22ページ)を作成しました。基礎から分かりやすく説明してあります。御希望の方は、送料、コピー代として1000円(郵便小為替で)同封のうえ、お申し込みください。

(申し込み、問い合わせ先)

千660-0812  
尾崎市今宿2の14の6  
近畿山行研究会会長 柳内美世  
(TEL・FAX)  
06(6488)1775

● 柳谷西山中継所は、大阪と京都との境(古谷崎)近畿における情報伝達の歴史的発展。その五(旗振り)にあるという。柳谷銀首の西と考えると、前後の中継地点から判断して、馬本町大沢の南にある478・3坪の三角点と推定できるので、馬本町役場に照会したところ、町教委事務局長社会教育課の野口尚志氏より「地元大沢在任の方に問い合わせましたところ、ご推察とおり478・3坪の三角点のある頂にて、旗振りが行われていたの言い伝えがありました。わたしが聞きした方は現在60代前半の方ですが、この方のお祖母さん(明治生まれ)から聞いたことがあるとのことでした。同頂については地元では向谷(むかたに)と呼ばれる山で、大阪の米相場の連絡で京都のほかにも京都へも送っていたらしいとのことでしたが、詳細については不明でありました。また、旗振りは地元の人ではなかったらうとのことでした」という貴重な情報もたらされた(平成12年9月6日付返信)。「馬本町史」には旗振り通信の記載は見られない。向谷山頂から、京都七条の米商会所と二石山への通信が行われたものと考えられる。山頂には向谷



向谷中継所 (高本町大沢)

中継所があり、アンテナが立っているが、周囲は樹木が育ち視界は遮られている。亀岡方面へは小塩山を経由すれば、通信ができるものと考えられるが、京都市歴史資料館や亀岡市教委には、この地域の旗振りの資料はなく裏付けはとれていない。

●二石山中継所は、稲荷山の東方の標高239・3mの三角点(二谷山、点名「西

野山)にあった(京都新聞社編著『京都遊覧 秘められた史跡』昭和48年初版、同51年増補改訂版)。詳細については、本誌54号のコースガイドを参照されたい。旗振り人が山科区と伏見区のとどちらにいたのか不明で、現地の伝承についても確証は得られていない。

●小関山中継所は、小関峠の南方の325mの山で、相場山・相場山峯・相庭山ともいう(中島健男『滋賀県内の旗振り通信ルート』、『福生野20』昭和60年)。ここから大津米会所(現在の津市中央二丁目付近)や、滋賀県内の山に中継したことがわかっている。『近江国滋賀郡誌』(明治16年)の藤尾村誌・神出村誌には「相庭山」とある。

★安永4年(1775)、高原町(御幸町)の近江屋長兵衛が、毎日懸所領内の監物山へ登り、大津米会所への相場移しを行なったという(『新修大津市史』第四巻、昭和56年)。「大津市志中巻」(明治44年)、御幸町は小関山の東麓に位置している。

★安永9年春、八幡町(京町一・二丁目、中央一・二丁目)の篠屋儀兵衛が園城寺三別所の山頂に三井寺領の山嶺数坪の土地を借り、移り場を設け、翌年四月から、

これに対して毎年銀一両を三井寺に納めている。また、文化12年(1815)には、三別所字中山に、方一間半の小屋を設けたという(『新修大津市史』第四巻、「大津市志中巻」)。三別所とは、滋賀郡誌の神出村誌によると、五別所のうちの三寺にあたる「尾蔵寺、近松寺、微妙寺」が村内にあることから、神出開町のことであり、近松寺(逢坂二丁目)の西方のどこかに位置するのであろう。筆者は、立地条件から判断して、蓋物山も、三別所の山も、小関山と考えてよいと思う。

★『守山市史(中巻)』(昭和48年)に「旗振り通信についてはいろいろいわれているが、大阪の堂島の米相場を中心に、ときには油、さらに明治十二年から株式取引にも盛んにこの旗振り通信が利用されていた。大津・長等山・田上山・野洲の相場山(大岩山)で旗が振られて通信していた。赤野井の美濃部左兵衛は大津長等山の旗振りを利用して土蔵の二階から望遠鏡で眺め、米の売買に利用していた」とある。赤野井は現在の守山市赤野井町である。長等山・田上山での旗振りは裏付けがなく、小関山・安養寺山を指すものと考えられる。なお、大岩山

は相場山とは区別され、その北方に位置する(削られて低くなっている。本誌52号参照)。

★『野洲町史1』(昭和62年)と『野洲町物語』(同町立歴史民俗資料館、昭和62年)に中継地点として、音羽山と田上山が示されるが、伝承の裏付けはとれていない。音羽山は小関山を指し、田上山は旗振り伝承のある安養寺山を指すものと考えられている(旗振り場の場合、近くの有名な山名で呼ぶことがある)。

★「安土ふるさと」の伝説と行事(「ナンブライト、昭和56年)には、旗振りの基点は「大津の逢坂山」とあり、奥川地名大辞典にも、標高325mの山が逢坂山になっているが、逢坂山とは、逢坂の関を指しており、小関山(相場山)と区別する必要があるだろう。

★江戸時代には、摂津・河内・播磨の禁止区域を避けて、大和川南岸松原新田(泉市松原町)、大和国十三峠、山城国乙訓郡大原野、比叡山、大津のルートがあったと伝わる(『葛籠信号の沿革及仕方』および近藤論文)。大原野の小塩山にはハタ山(地山)があるという(山口正雄『高天原

(邪馬台国)と天孫降臨』1994年)。山口氏は焼畑伝承がないのに、焼畑山と考えているが旗山の可能性はどうであろうか(ただし、京都市歴史資料館の調べでは、他の文献・絵図類に「ハタ山」は出てこないの、地元の通称と考えられるという)。小塩山に旗振り伝承があるかどうかは不明である。比叡山付近についても同様である。なお、六甲山・比叡山では、雨後の濃霧を避けて、旗振り場を臨時、低地に換えることもあったという(旗振り場の沿革及仕方)。

★江戸末期には十三峠、山城国天王山、伏見、京都のルートもあった(近藤論文)。

●大山崎町教育委員会生涯学習課文化係の林亨氏によると「天王山が旗振りの場所であったと古老の話から聞いています。場所としては天王山頂であったようです。大阪堂島の米相場を京へ伝達していたとの事です。今日では木がうっそうと茂り、四方視界はありませんが、40年程前までは大阪方面、京都方面両方を見る事ができました」という。

★山科区の山本正明氏からの返信(平成12年3月)に「平成三年関大応園の支援で堂島から大津までの旗振り実演をテレビで見た事があります。堂島―小関山

間六分四五秒となった様に記憶しており、ます」とある。筆者の踏査では、柳谷西山・二石山の山頂に展望はなく、中島氏は、小関山の山頂は雑木林におおわれて眺望がきかないと述べている。このテレビでの実演については、池田末則氏も筆者への電話(平成12年9月1日)の中でふられておられて、多くの人の注目を集めたらしく思われる。昭和56年に大阪・岡山間の旗振り通信の再現実験に取り組まれた吉井正彦氏(西宮市)によると、日本テレビの番組であり、旗振り地点については歴史的な考証を十分しないで選んだものだという。

旗振り地点については、地域毎に紹介していくことになるが、お気付きの点があれば、筆者まで連絡いただければ幸いです。とりわけ、旗振りの伝承に関する情報をお願いしたい(〒572-1000 1-1 寝屋川市明徳3-6 TEL 072-82202 柴田四郎 TEL 072-82201-2769)。(つづく)

(平成12年11月21日投稿)

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第24回)

## 悲観と幸運の北海道の山旅

坂井久光

平成3年、梅雨も明けた7月22日に東舞鶴港からフェリーに乗船し、24日早朝小樽港へ着いた。バスで余市町へ行き、タクシーで余市ダム下流の豊丘集落の最奥の民家へ行った。天狗岳(872m)の登路を訊いたが、「林道は廃道でやぶになってるので残雪期しか行けない」と言う。やむなく約1.5先の林道の奥で下車した。

小広い荒地の奥へブル道がのびていて、ササや藪の茂った道跡をたどって稜線に出たが、やはりやぶである。昔は広い道だったのだろう、伐採した木材が所どころに置いてある。その先の林へ入るとやぶが少し粗くなり歩きやすくなった。昔

の林道(廃道)が尾根筋に沿っており、その先の谷を渡って続いているのが見えた。ブル道を登ってエゾ松の植林地に出ると、上方に車道らしきが見えたので斜面を登って行った。そこには立派な未舗装の林道が走っており、車の通った跡があった。これが古平町への山越えの林道だと思った。その先でブル道が広場から分かれており、調べたが行けず、さらに林道を歩き続けた。

前方から車が来たのでわけを話し、天狗岳の山麓まで送ってもらうことになった。車は古平町境の峠を越え山腹を捲いて走り、370・369林班の境界まで行った。礼を言って別れたが、彼による

車道をほとんど歩いて町境を越え、分岐で旭川の清福場への道をとってくださった。1時間歩いた頃、集材所があり、車が一台止まっていた。もうすぐ帰ると言うので、荷台に切株や薪を積むのを手伝った。国道229号線の旭川へのトンネルの手前まで乗せてくれた。ところで、豊丘の民家に不要品の入ったリュックを預けて来たことを彼に話すと、彼の名も私と同じ久光だったので奇遇だと感じたのか車を廻してくれた。そして、彼(下山氏)の家にまでよばれてお茶をいただいた。厚くお礼を述べ、余市駅へ出て長万部へ向かった。遅くなったので長万部温泉で一泊した。

25日、バスで北嶺山へ。太嶺山(895m)へ向かった。タクシーで太嶺の尻石川河口の橋のたもとまで行き、林道を歩いた。すぐ河原に出て砂防ダムの近くで林道はなくなり、やむなく川を遡行した。しかし、約3時間歩いた所でゴルジュに出合い、二段約10分の滝に手をばはまれたので、あきらめて引き返した。今回は来道以来まだ一山も登れない無念さを充分に味わい、私の希望はいったいつのことになるのか、無茶な企画を

立てたのが間違っていたのだろうか、と落ち込んでしまった。真夏の太陽の直射をうけ、汗だくで河口近くに戻って付近をよく調べてみると、砂防ダムの手前に草におおわれた分岐の道があり、それが奥へのびていた。しかし、夏では人も車も入れない状態だった。放心状態で歩いてると後ろから車が来て、北嶺山のバスセンターまでヒッチできた。

バスを乗り継いで乙部町へ向かったが、宮野では江差行きのバスが出た後だった。仕方なく車を待っていたら、大成町の町会議員、石原栄丸氏の車に拾われた。彼の話によると、若い頃に京都にいたことがあると話がはずみ、乙部町まで早く着いた。交番に聞いた乙部温泉「光林荘」へ行き泊まった。天然温泉の良い泉質で、きのうに続いて温泉に入り、元気を回復してあすの登山に備えた。

26日、車で乙部山登山口まで行き、5.2kmの標高を見て杉林の小山を越え、姫川沿いの登山道を右岸左岸と渡って登った。二段の中央尾根は九十九折の急坂で、雨のなかを傘をさして登り、やっと稜線に出た。ここが4mの地点であと1.2kmもある。ゆるい上り下りの刈り分け道

ルコツ岳山頂にて



と、この道は余市ダムから古平町の清福場がある積丹横断道路に通じていると教えてくれた。車ならここまで来れたのだった。ただし、ここから国土地理院の測量時の登路である切り開きを渡べたが、どこにも跡がない。朱色の標識のある小沢を登って苗の植林地に出たが、その先はひどいやぶで踏み跡もない。しかもネマガリダケの密生であきらめて引き返した。

をたどり、レーダー雨量測量局舎の新築建造物が立つ山頂に昼前に登頂できた。標高1016m。晴大なる方位磁の通り、後方羊蹄山・ユウラップ山・大千軒岳等の山々が見えるはずだが、生憎の雨で展望はゼロ。局舎の下で雨を避けてひと休みしてからくだった。下山は舗装道路を利用して、姫岳の先で工事の車がくっついて来たのに便乗して乙部町へ。喫茶店で休み、八雲行き快速バスに乗り、八雲駅前の食堂兼民宿に投宿した。

27日、JRで黒岩に行った。昭和63年山形氏と西側の支文内(雙)川の林道を車で奥まで入って調べたが、一面のネマガリダケのやぶで登路がなく、引き返したことがあるルコツ岳(532m)を、今度は反対の東側から登る。国道を北へ行き、豊津口のルコツ川(ルコツは足跡)とルコツ川の中央の林道の奥にある長谷川光治氏を村人から聞いて訪ねた。するといきなり、昨春河村哲子さん(今西編司氏の次女)が来てスキーで登ったとか。今西氏や森下京大名善教授とも知り合いとかで、京都からかと言いついでられたのでびっくりした。彼の話によると、昔は狩人で熊や鹿を射って暮らしていたが、あ

る時情るところがあり、狩をやめてルコッ岳の自然を友として暮している。超能力があり、不治の病や悩める人を氣功で救ったりもしているとか。

その後、平成10年に友人の山崎大造氏とお礼に再訪した時は、国道の分岐に「超能力長谷川大先生」の看板が立ち、家の前の荒地が患者の有志で公園化され、門や便所が新設され、札幌や函館からも十数人の患者が来ており、彼が白衣を着て氣功治療していた。いっさい礼を取らない優しい人で聖人のように思えた。

長谷川氏は山を案内すると言って望遠鏡を持ち地図の破線路の林道を奥へ進み、植林地の切り開きをたどって山腹に出た。切り開きもここまでで、後は昔の道跡をたどった。ネマガリタケのやぶで、エゾ松の植林地に出てひと息ついた。先はまだやぶでいったん谷へくだり、ルコッ川を遡行して山頂直下の草地に出た。その先が山頂で10分余りのコブに樫が立っていた。出発が10時頃で登頂は15時頃だった。樫には「一次基準測量棚笏岳・バスコ測量R区」の表示板があった。長谷川氏持参の信コーヒーをいただいて休んでいると、西側から若者が4人登って来て、

私たちを見てびっくりした。開くと支文内川から切り開きをつくり、重荷を担いで5時間かかったとか。近頃は測量は下請け会社にまかせているようだ。展望は曇っていて駄目だった。

下山は谷をくだり、中腹から最初の切り開きに出て林道をくだった。途中から高野昌氏の車がかくだって来て乗せてくれた。話を聞くと「私は大阪府泉南市の出身で、東京農大を出て10年前から奥さんの実家で営林署の下請け仕事をしている」と言い、「ぜひ今晩は私の家に泊まってくれ」と言う。長谷川氏にお礼五千円札を出したが、どうしても受け取らない。長谷川氏と別れて同町栗丘の林中の一軒家、高野宅に行き一泊した。

28日、彼の作品の木の箱やマユミの変型彫刻を見せてもらい、奥に新築中の八角型の家を案内してくれた。庭にはアヤマが咲きブルーベリーが実っていた。家族は奥さんとその父親、子どもは小学生の娘さん一人であった。厚くお礼を述べ、長万部から札幌へ行き、カプセルホテルで泊まった。

29日、深川市の山友田中氏からの情報を得て、JRで余井江駅へ行き、タクシー

で不老ノ滝まで入り、美唄山(987m)へ向かった。流から約400m程戻った山側の小谷に5分位の滝がある地点で、上に林道が分かれている。それを登っていると余井江町の車が来て終点まで乗せてくれた。彼はその先に新しい切り開きがあり、山頂まで続いているとも教えてくれた。ひと休みして歩いて行くうちに曲がる頃には一峰を越え、尾根もやせてきてその先に山頂が見えた。ひと登りで腐材の輪のある三角点へ。展望は360度に開け、ピンネンリ・音江山・芦別岳・夕張岳等の山々が望みできた。下山中にも途中で車が来たので余井江駅までヒッチした。

まったく運が良く、お蔭で早く下山できたのでバスで深川駅へ行き、田中氏に電話でお礼を述べ、無事の登頂を告げた。JRに乗り換えて幌加内駅へ。駅近隣の旅館で泊まった。

30日、一番列車で朱鞠内湖畔の路の台へ向ったが、車掌が今年から廃駅となり停車しないとのこと。仕方なく手前の湖畔駅からピッシリ山(1032m)へ向かって歩いた。  
(次号へつづく)  
(文中の数字は今回登った1等三角点の山を示す。)

## 花崗岩の尾根道を歩く

### 須磨浦公園から

### 須磨アルプスを歩く

コースとコースタイム 山陽須磨公園(30分)→鉢伏山(20分)→旗振山(15分)→鉢掛山(15分)→高倉口(20分)→鉢掛山(35分)→須磨アルプス(50分)→鉢掛分岐(30分)→神宮寺(35分)→妙法寺・妙法寺小学校前(バス15分)→山腰→下鉢掛分岐

## 中村敏文

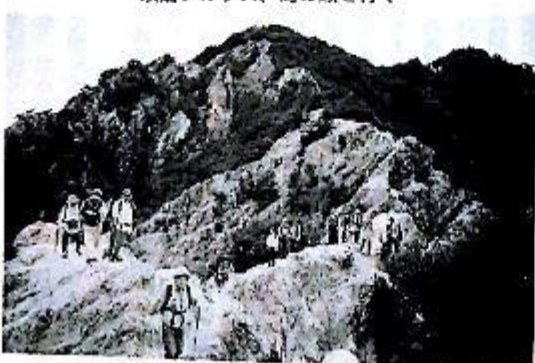
海峽大橋と淡路花博会場もわりあい近くに見え、神戸空港の建設作業鉄塔が神戸沖に林立する。

### ② 鉢伏山 (須磨区西須磨)

海抜246mの山上は鉢伏山上駅と須磨観光リフトのりばで、リフトで上がれば須磨浦山上遊園がある。360度の展望をうたう回転展望閣、音楽に合わせて変化する電気噴水、ドレミファ噴水ランなど、子ども連れの行楽に適している。山上駅から至り付きの階段道を5分も上ると「左展望閣、右旗振山」の標識がある鉢伏山頂で、九万平方近い自然公園の須磨浦公園の広さと緑の豊かさに

このあたりは杉櫨の植林には不向きな花崗岩の岩山で、常緑の灌木が多く緑は豊かだ。眼下に須磨浦や神戸港が、明石

須磨アルプス、馬の頭を行く



感嘆しながら休息する。

### ③ 旗振山 (須磨区)

公園から北へと階段をくだって行くこと北西近くに旗振山が見える。平坦な尾根道をたどると北西への階段登りとなり、大阪の米相場を藩邸へ旗で伝えたという253mの旗振山の頂へ着く。  
狭い山頂に旗振茶屋が店を構え、茶屋

### ① 須磨浦公園 (神戸市須磨区)

阪神須磨浦駅から須磨浦公園行きは阪神特急が便利だが、阪急特急に乗り、新聞地で乗り換えて須磨浦公園駅で降りる。山陽電鉄には東須磨・須磨寺・山陽須磨駅があり注意を要する。須磨浦ロープウェイは3分35秒で鉢伏山上へ運んでくれるが、ハイカーの多くは階段の登山路を30分かけて山上へ上がる。20分程度上がる元氣者も多いと聞くが、私たちは階段の途中に展望所を兼ねた休憩所が二ヶ所あるので、ゆっくりする。

横に摂津と播磨の国境を示す看板がある。茶屋の下方に派手な織を林立させた尾沙門堂があって堂内には延命地蔵がある。

#### ④ 鉄拐山(西須磨)

旗板山から北へゆるやかな尾根を少し広い、道標に従い東北へ向かう。尾根道からの分岐は多いが、六甲全山縦走の道標に従えば迷わない。漣水を分けて続く尾根道は軽い起伏で気持ちよくて歩きやすい。

三角点のある小広場を過ぎ、しばらく行くと鉄拐山への登りで、整備された階段道を上がりきると海拔2341mの頂に登く。漣水に塞がれて展望は良くないが、漣水の説明を聞くのもなんとなく楽しい。



須磨アルプス付近略図

鉄拐山から高倉台への道標に従い、急階段をくだると一の谷への鞍部へ着く。有名な源義経の一の谷の逆落としてはここから始まったとの説がある。鉄拐山から鉢伏山に至る東南向きの急斜面は三筋の谷が海岸へ開け、東から一の谷、二の谷、三の谷と名付けられている。京を追われた平家は福原に本拠を置き、東は生田の森、西は一の谷口に城柵を構えて源氏の来襲を待ち受けていた。義経は鴨越えから一の谷城を急襲した。義経軍は惨敗し、平宗盛・経盛らは敗走するが平忠度・教盛・通盛らはこの地で戦死している。急峻な山が海に迫った須磨浦は軍事上の要地で、足利尊氏も京都進攻の際には山陽道の先陣を一の谷城に勢揃いさせている。

#### ⑤ 高倉台(須磨区高倉台)

一の谷への鞍部から尾根道をたど

は須磨アルプスと呼ばれる景勝地で、やせ細った狭い尾根は危険といえは危険だが注意して歩けば問題はない。急勾配の岩場には鎖やロープが張られて危険防止の措置がしてあるが、いちばん危険に見える馬の背だけは落ち着いて慎重に極すしかない。50m幅の馬の背の20m間は両側が切り立った花崗岩の崖で、道うようにして渡る高所恐怖症の男性がいるかと思えば、平気ですたすた渡る幼稚童見もある。

露出した花崗岩の岩場が7分、漣水の縁が3分の須磨アルプスはいずれを納めても絵になる風景である。アルプスに名紙を借しみつ漣水の茂る尾根を東へ行くくと、縦走路は北へ向かう。神昌寺への道標に従い東へ直進すると、鉄拐山近から板宿へくだる道がある。板宿八幡神社を経て板宿駅まで30分、利用する人も多い。

#### ⑥ 神昌寺(須磨区神昌寺町)

板宿への分岐から左へゆるい坂道を少し登ってくだると神昌寺バス停へ着く。妙法寺川を渡ると「かえで寺」と呼ばれる臨濟宗南禅寺派の神撫山神昌寺があ

る。北朝の後光厳天皇の勅命で黒川大明寺の月庵宗光が行道のとて創建したという。羽秀吉の三木城攻略のさいに焼失したが、後日秀吉が伏見城の一部を移して再建している。左基五郎作という現在の山門は伏見城の東門を移したものである。

拝観できないが本尊は重文の十一面観音、方丈の襖絵は狩野永徳の筆という。徳川家光も高取山(神撫山)を含む山林境内十四町の矢印を与えた。現在も紅葉・楓の多い境内は一〇万坪方計もあるという。開山堂の軒下にぶら下がる「須磨は「雀のお宿」と親しまれている。

板宿は菅原道真が九州へ配流されたさい、山陽道に面したこの地に板敷の宿を作り宿泊した伝承を地名としている。南板宿に山陽道が通じ、現在の三木街道が分岐して北板宿を経て妙法寺村へ入っていた。妙法寺川沿いのこの道は大山寺道とも呼ばれ、瀬戸市西区へ抜けていた。現在の旧板宿村地域は都市化され須磨区の一八町、五〇丁目に分かれている。明治に村内の神社を合併した板宿三丁目にある板宿八幡神社には道真もまつられている。

り、ウバメガシ林を抜けると高倉台公園へ着く。ハイカー休憩所と一階に手洗い、二階に軽食もとれる喫茶店がある。時間的にも適当で、よい昼食場所となる。公園から尾根の端まで歩き、手漣り付きの急階段をくだって歩道橋を渡ると、林立する中高層住宅と新興住宅が形成する高倉台団地に入る。

六甲縦走路は、鉄拐山・高倉山・梶尾山と尾根続きに須磨アルプスへと通じていたが、現在は団地内のカラー舗装路を歩いて梶尾山の山麓へ向かう。

#### ⑥ 梶尾山・横尾山(東須磨)

南方に広がる高倉台を眺めながら西北へしばらく上がり、道標に従い東北へ尾根道を登ると海拔380mの梶尾山の山頂である。展望台からは縦走してきた鉢伏山・旗板山・鉄拐山がよく見える。梶尾山から東北に見える神戸橋と言われる横尾山へはゆるやかな尾根道が続き、20分あまりで風化した花崗岩の露出が目立つ海拔312mの山頂へ着く。

#### ⑦ 須磨アルプス(東須磨の北部)

梶尾山からは東へ続く花崗岩の尾根

神昌寺から板宿駅へ徒歩15分とあるが、逆に妙法寺川沿いを北へ向かう。しばらく川の東岸の旧道を歩き、口の川バス停で県道22号線へ入る。那須神社前バス停を過ぎると川の東岸に萩の寺と呼ばれる明光寺と那須神社がある。川の西岸にある那須与一宗高の墓を拜み10分も北へ歩くと、聖武天皇の勅願所となった行基建立の古刹、如意山妙法寺がある。

#### 奈良時代には七堂伽藍三十七坊と栄えた大寺で、平安末期に高倉上丘から新梶尾山の勅号と寺領一千余石を受けている。

南北朝の争いで高師直に焼かれたが、その後規模を落として再建された。現在の本堂は元禄時代の建立で、行基の一刀三礼の作といわれる本尊毘沙門天を安置する。鎌倉時代作の像高180cm、雄渾な一木造で重文指定である。

境内には大日堂・観音堂・業部堂と庫裡が揃い、明治末に合併した川向かいの子院は天享時代創建の円蔵院である。妙法寺より西500mの地下鉄妙法寺駅へは迂回路が1と遠いが、バスは地下鉄・山陽板宿駅へ10数分で到着する。

# 滝坂の道から忍辱山円成寺へ

松永恵一

春日山原始林

奈良公園の東に連なる山並、笠置山地の西端が奈良盆地にのびる連峰は、北から手向山、草原の若草山、春日山、高円山と続く。春日山の前方に御蓋山が美しい姿を見せ、その麓に春日大社が鎮まる。

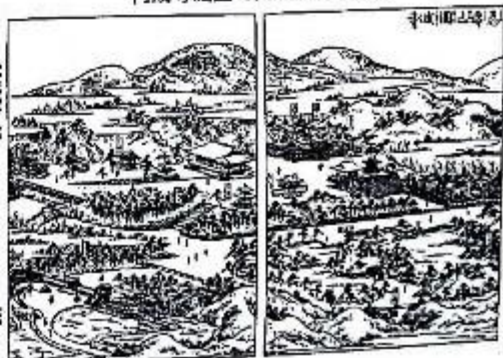
春日山は古くから春日大社の社叢として狩猟や伐採が禁制され、椎・樺・杉を中心とした原始の植生を今に残している。暖帯林を代表する学術上貴重な原始林で、国の特別天然記念物に指定されている。植生は林内に生息する鹿の食性の影響を強く受けている。鹿の食べないアセビ・イヌガシ・イズセンリョウ・ヒサカキ・イラクサ・レモンエゴマなどが広く見ら

れ、暖帯林にごく普通にあるアオキ・ヤブデ・ヤブツバキ・サカキなどは鹿に好んで食べられ見られない。

八百種類以上に及ぶ植生が見られるのに対して、動物の種類と数は少ない。ムササビが潛匿する姿を見かけるほかは、鹿・猪・栗鼠・狸などが生息する程度である。また二十年前ぐらいから姿が見えなくなった天然記念物のルーミスジミや珍しいモリアオガエルが生息している。

春日山一帯は、石切峠の名が残っているように、奈良時代頃から多量の石材が切り出された所であった。平城宮をはじめ多くの寺院の基壇や礎石に、主に凝灰岩が切り出された。若草山の安山岩や春日山・高円山の花崗岩も後世まで広く利

円成寺庭園「大和名所図会」



用された。石切り場の跡には苦むした石仏がたまたま残っている。

春日山をとりまく山中には、奈良時代に菩提山・鹿野園・響多林・大慈仙、忍辱山と釈迦一代の事跡にちなんで北大和五大山が建立されたというが、いまは地名のみが残存する。山中のあちこちに多くの石仏が残されている。山野に寝て食し不自由に堪えながら、仏道修行に励む山林抖擞の地であった。

## 忍辱山円成寺

真言宗御室派。山号は忍辱山。「忍辱」とは仏教の菩薩行六波羅蜜(布施・持戒・忍辱・精進・禅定・般若)の一つで、いかなる身心の苦惱をも堪え忍ぶという仏道修行の上の大切な項目である。

天平勝宝八年(756)聖武・孝謙両天皇の勅願により、鑑真和尚の弟子、唐僧盧禪和尚の開創と円成寺縁起は伝える。万寿三年(1026)命禪上人が再興し、仁平三年(1153)京都御室仁和寺の寛通僧正が、廣隆寺別当、東寺長老、高野山管長、東大寺別当を歴代の後、円成寺に入寺され、東密(真言密教)の一つである忍辱山流を興した頃から寺運とみに隆盛になった。

文正元年(1456)応仁の兵乱にかけ、建物の大半を失ったが、榮弘阿闍梨は伽藍の復興に努めた。江戸時代は將軍の殊遇を得て、寺領二百二十五石中二十三寺を有する一大霊場であった。

十二世紀前半に造られた本堂(河原院堂)・樓門・庭園は、平安時代の浄土信仰の形態の具体的な様子を今に伝えている。ひとたび幽邃閑寂の聖域に歩みを運べば、夜光浄土にある思いがする。

## 朝鮮に渡った榮弘阿闍梨

「大蔵請来二合船残録」という室町時代中期の朝鮮交易を知ることでできる文獻が残る。江戸時代末期の寛政元年(1789)、円成寺の地忍院主良助師がふすまを張り替えた時、その下張りに使われていたのを発見し、残欠を集めて巻子にした。巻首に「二合船日記 文明十三年十二月十二日 薬師院運輝(花押)」と記されている。

今からおよそ五百年の昔、円成寺知恩院院主榮弘阿闍梨が、弟子の通譯らと共に室町幕府の八代將軍義正の特使として朝鮮に赴き、高麗版大蔵経を請求した様子が、いきいきと描かれている。

文明十三年(1481)境港から出航。下関までは瀬戸内海の廻航船に便乗。文明十四年の正月は下関で迎える。文明十三年の正月は下関で迎える。

朝鮮の釜山浦に上陸し、成宗王に拜謁して高麗版大蔵経六千五百三十一帖を拝請し、往路と同じ道をたどり、同年のうちに境港へ帰り着いている。

請求された高麗版大蔵経は、慶長十四年(1609)3月に興福寺一条院門跡の仲介により徳川家康に献上されて、現在は東京芝の増上寺に現存している。

高麗版大蔵経の版木は、韓国慶尚南道伽耶山南麓、世界文化遺産に登録されている海印寺におさめられている。奈良の正倉院を思わせる校倉造りの経蔵殿に八万大蔵経の版木8万1258枚がおさめられている。版木の大きさは縦約24寸横70寸で、一枚に23行14字の経文が刻まれている。

8万枚の版木、山の木々を背にどこまでも青い空、色鮮やかに彩色された柱や彫刻。今も息づく悠久の歴史は、訪れるものに深い感動を与える。

## 東大寺と円成寺の雨乞い競争

昔々、忍辱山円成寺と奈良の東大寺が雨乞いの競争をした。

「万一、円成寺が祈って雨が降ったならば、以後東大寺の僧は大傘をさしません」。

まず、東大寺が七日間の祈願をした。満願の日になって、一粒の雨も降らなかった。次に円成寺が全山総出で祈願すると、一天にわかにかき曇り、大粒の雨が降り出して人々の饗宴を救った。

それから以後、約束によって東大寺では大傘をささなかったという。



首切地蔵

コース概観

奈良市高畑から東へ。能登川の溪流に沿って春日山原始林をくぐる石畳の滝坂道を経て、昨の茶屋から日畑と雑木林のなかの柳生街道をたどり円成寺に至る。柳生の里と奈良の町をつないだこの道は、人々の生活の道、柳生の道場を目指す武芸者の歩いた道であった。途中、石仏に出会いつつ、三十年前の大河ドラマ「春の坂道」を思い出しながら、訪れてみた。



古い形式なので釈迦如来、盧舎那仏等各説あったが、最近では弥勒仏ではないかと言われている。左は弥勒像、右は十一面観音。右壁に妙見菩薩、左壁に阿彌陀如来と千手観音が刻まれている。彩色された朱の色が最も濃く残り、えもいわれぬ美しさを見せている。

いはむろの いしのはとけに  
いりひさし まつのはやしに  
めじるなくなり 会津八一

近鉄奈良駅から興福寺・国立博物館を右に見ながら春日大社をめざす。鹿の歓迎を受け、ささやきの小径を南へ、新薬師寺に抜ける。昭和天皇が行幸された折、奈良ホテルから直接春日山原始林に入るために舗装された広い道になる。奈良駅から市内循環バスを利用した場合は、破石町バス停で降りる。道なりに東へ行くくと、やがて車両進入禁止のチェーンが掛けられている。右手に折れてすぐに（飛鳥中学校前）左に曲がる。能登川の橋を越える。三差路をまっすぐにとる。右に曲がれば山辺の道。白雲寺の裏手に出る。家並が途切れるあたりから春日山原始林が迫り、能登川の清流に沿って石畳の道を踏みしめるようになる。溪流はいたる所に小さな流をつくり、絶えず瀬音を響かせている。「滝坂道」の名はそこから生まれた。春の新緑、夏の輝雨、秋の紅葉、冬の雪景色と四季折々に心の洗われる清浄な気が流れている。その昔、柳生十兵衛や荒木又右衛門・剣豪が歩いた姿を想像するのも楽しい。

しばらく登ると道端に横になった寝仏に合う。大日如来が彫られている。左の崖を登ると三体地蔵、落陽に美しく照

らされる夕日観音がある。滝坂道をさらに登ると、溪流の向こう側の裏面した崖壁に三体の石仏が浮き彫りされている。中央が弥勒菩薩、左右が地藏菩薩。朝日に映えるので朝日観音と呼ばれる。文永二年（1265）母親が弥勒の浄土に往生することを願って彫らせたと刻まれている。弥勒仏への信仰が盛んであった興福寺の僧侶が造立したと言われている。

首切り地蔵のある広場に出る。首の所で折れているのは、伊賀上野の隠居の辻の仇討ち、「二十六人切り」で名を残す荒木又右衛門が試し切りをしたのだと語り伝えられている。

右にとると新池から地獄谷聖人窟に出る。左にとり石切峠に出る。その山腹に穴仏、春日山石窟仏がある。凝灰岩の石材を切り出した地に、二十体近くの石仏が東西二つの窟に残された。風雨にさらされていたため損傷はひどく、完存のものとは三体ほどしかない。保元二年（157）の墨書が残されている。

ドライブウェイに出て右に地獄谷聖人窟の表示板を見る。凝灰岩をくり抜いた窟の壁面に六体の仏が線彫りされている。奥室中央にひととき大きな坐像。印相が

峠の茶屋はいまもここを通る人たちの憩いの場となっている。卓餅が疲れをいやしてくれる。武芸者が飲み代のカタに置いていったという槍や鉄砲が鶴居に掛けられている。茶屋から少し先、八柱神社（八王子）の鳥居が見える所を左に折れ北へ600ほど登ると方山の石仏がある。ほぼ等身大の花崗岩の二面に並形光背を彫込み、如来像一尊を半肉彫りしている。髣髴な山路をたどってこの雄大な奈良時代石仏に出会う喜びは大きい。八柱神社まで戻る。豊多林峠を左にとる。茶畑のなかに豊多林の石仏を眺める。やがて右側に円成寺への道標を見る。尾根状の道を行くと右手の斜面を茶畑が迎める。やわらかな土の感触を楽しみながらしばらく行くと忍辱山墓地。中央にある五輪石塔は元亨元年（1321）のもので重要文化財に指定されている。

円成寺の樓門前に広がる池を主とした庭園は、空治の平等院庭園、奥州平泉の毛越寺庭園とともに平安時代の浄土式庭園として貴重な遺構である。平安末期に寛徳僧正が、浄土の景観を夢に見て、いろいろな工夫されて造ったと伝わる。荒

れ異っていた庭園は、森澤博士によって発掘調査され、平安貴族の雅な心をいまに復元改修された。

美しい庭園を前に、重要文化財の楼門。通用口から境内へ入る。園室の白山堂・春日堂。寝殿造りの特色が感じられる本堂。本尊は藤原時代の阿彌陀如来、中央の四本の柱に極彩色の来迎二十五菩薩が描かれている。多宝塔には大日如来座像（国宝）。運慶の若き血潮と情熱のほとばしりを感じることが出来る。

▲コースタイム▼  
近鉄奈良駅（40分）飛鳥中学校（50分）  
首切地蔵（40分）地獄谷石窟仏（50分）  
峠の茶屋（30分）方山石仏（40分）豊多林峠（1時間20分）円成寺・忍辱山バス停（奈良交通バス35分）近鉄奈良駅  
▲地形図▼2万5千：奈良・柳生  
▲費用▼  
近鉄奈良駅→奈良駅 540円  
忍辱山バス停→奈良駅 650円  
▲問い合わせ▼  
奈良交通バステレフォンセンター  
07427(20)3100  
忍辱山円成寺 0742(93)0353

## 〈山のレポート〉 山名の同定について(上)

西尾 寿一

日本の山名表現で最近特に目立ってきているものに「山」から「岳」への転換があげられる。

岳は山より高く立派に見えるような錯覚によるものか、または北アルプスの穂高岳・槍ヶ岳の立派さに心打たれた人々が地元の山にもそのようなシンボルとなるような山がほしいと願ったものなのか、実態は定かでないが「岳」は地方の小さな山にも使われだして、「山」を圧倒する状況が各地で目立っている。

しかし、実際のところ「山」は「岳」より大きく広い地域をふくむ場合があるので理解し難い現象である。両者の使い分けの定規があるのかもしれないが、少なくとも昔の文献に登場するのは「山」が圧倒的で「岳」は少数であった。山岳関係者の間でも何かが変わりつつあるようだ。

谷文晁の「日本名山図会」では嶽が十

のである。

次にその地名が他の地域に住む人々との交流によって拡大されてゆく場合は、これを地名の出世と考えてよいが、大部分は別の地名(反対側に住む人の)との対立により両者併用のままか、どちらか一方のみが使用される。

地名調査の場合はこの例に悩まされる場合が多く、各々が別々の地名を採用してきて正しさを主張することがある。

このように一地名は一つにあらざるで、双方(もっとも多くの例もある)とも調査そのものに間違いはないのだが、客観性を忘れている場合がある。

山名でも別の地域に住む人によって全く異なる山名が使用されている場合があるが、この時点では双方とも併記すべきで一方のみが正しいのではない(現にエベレストがそうで、現在は登るコースによって二例が使われている)。

川や沢、あるいは小地域の地名は当然のこと、その地元民の使う地名が優先されるべきであるが、山岳ともなると周囲の村だけでなく、その山が見える地域一帯にも調査の手を広げる必要がある。

一時代、山岳の名は沢名が使われるこ

三例、嶽が三例、峰・峯がそれぞれ一例で他は全部山である。

深田久弥著「日本百名山」では、岳・嶽が四十五例に対し、山が四十七例ではほぼ同数となっている。

「日本名山図会」の方は百名山でないだけにデータとしては正確さを欠くが、それでも一連の傾向は読みとれると思

う。

最近の出版物を調査したわけではないが、ガイドブックには特に「岳」を使用する傾向があるようだ。このあたりを詳しく調査する人が出てきてよいのではないかと思う。最近の登山者気質というものが発見できるかもしれない。

さて、最近小生のもとにも鈴鹿山地の地名だけでなく、各地の定着していない不安定になっている地名(山名)についての問い合わせがよく舞いこんでくる。一応知る限りの情報を提示するが、自身自身知らないものも多く、質問がくるたびに再勉強の日々を送っている。

そこで山の地名(山名)の調査をしてきた経緯を踏まえて、地名はどのような経過をもって安定(定着)してゆくのか

とが多かった。沢名こそ、その土地に住む民の使うもので至上のものと考えたらしいが、これが曲者で、実際にはその山の反対側の住民は別の沢名をもち、しかも山名まで持っている場合も少なからず存在したのである。

従って今日では、沢名は最寄りの村民のものとし、山名は周囲の村落はむろんその山を日常的に見ることが出来る村落と、さらにその山岳と何らかの関係をもつ地域との関連も調べることが求められている。

地名は強烈なナンショナリズムが働くもので、先のニベレストの例でも分かるように登ったルートによって使い分けられるのは宿命とも言えるが、この場合はそれに政治性が加わる。

深田久弥氏ではないが、山岳にも「人格」のようなものがある。標高・大きさ・歴史・風格など、山をめぐる人間側の好みの問題はいかんともし難いものがあるが、一般的に人気の高い山には山名も中央の関与がある。たとえ地方で使われながらも中央の注目するところとなる場合には容赦

を述べてみたい。

地名研究者の間でよく用いられる表現法で言うならば、地名は山から落ちる岩石のようなもので、一定の場所に安定し、苔が生えるまでには、転々と幾度も居所を遷えるものなのである。なかには居所が定まらず丸石となって海まで流されるものもあるが、それはごくまれで大部分が一定の居所で定座しているとみる。

川の中州に堂々鎮座し昔どころか樹木まで茂らせた大岩を見ると、同じような堂々たる風格をそなえた地名の存在に思いあたる。

しかし、我々はそのような風格のある安定した地名で悩ませられるのではなく、いまだ居所定まらない途上の岩石のような地名の判断を求められ、苦惱を強いられる。

地名は原則的にはその地域に住む人々によって生まれる。最も原始的で直感的で即物的である。その住民の生活に直結した物事を表現しており、この段階で先端の文化を映すようなものは出てこないのが普通で、もし、それがあるとすれば若干の例外を除き、後年の作とみてよい

なく変更される。

ただし、この場合の変更とは中央の文献に登場させたものが残されている場合であり、特に官が政令によって改名させるような強硬手段を指しているのではない(外国では偉人の名に変更の例もある)。

また逆に地方で固定化された地名(山名)が出世して中央の記録に残される場合も当然のことたくさん認められる。

地名はこうしてさまざまな経過をへて一定所に落ち着くが、山名などの調査をしている者としては、その地名(山名)が実態をよく伝えるものであってほしいと願うものである。

せっかく認知された名称が実際と著しくかけ離れている場合には、たとえその地名が正しい手続きをへて調査されたものであったとしても、勝手にながら、その地名に愛着が湧いてこないという困ったことも生じてくるのである。



〈山のレポート〉  
十二支の山  
巳年の山

生駒 聳峰

今年の干支は巳である。毎年その年の干支の名が付く山を登っている十二支会というクラブがある。

著名な学者でもあり、登山家でもあった京都の今西錦司博士が提唱され、創立された会と聞いている。

十二支の山の登山は、他の百名山登山などと違って、それ行けどんどんというわけにはゆかない。何しろ一巡するにはどうしても12年の歳月が必要で、他人より早く完登できるものでもない。

今西博士が始められたのは1950年(昭和35年)の子(ね)年からと聞くが、それから数えると40年。12年周期では四回りになっている。すでに博士は故人となられたが、発案時から登っている人は相当の高齢者のはずである。

このクラブの登頂リストを見ると、第一回目は左記のようになっている。

| 年    | 山名         | 標高計  | 5方面登頂日   |
|------|------------|------|----------|
| 1ね   | 子ノ泊山 (906) | 新宮   | 35.1.10  |
| 2うし  | 牛ノ峰 (629)  | 京都西北 | 36.1.14  |
| 3とら  | 虎ノ山 (1155) | 長森   | 37.11.11 |
| 4う   | 赤鬼山 (1662) | 越前勝山 | 38.11.11 |
| 5たつ  | 竜門山 (904)  | 吉野山  | 39.1.19  |
| 6み   | 蛇ヶ峰 (902)  | 北小松  | 40.1.10  |
| 7うま  | 白馬山 (957)  | 動木   | 41.1.16  |
| 8ひつじ | 羊蹄山 (1893) | 留妻部  | 42.6.4   |
| 9さる  | 猿ヶ山 (1441) | 下梨   | 43.6.9   |
| 10とり | 鶏冠山 (491)  | 水口   | 44.1.12  |
| 11いぬ | 犬伏山 (791)  | 八重   | 45.1.11  |
| 12い  | 白雉山 (629)  | 二本木  | 46.1.10  |

12年で一回りでは一区切りも容易ではない。また回数を重ねると、選ぶ山が無くなり同じ山に登ることにもなるだろう。私が干支の山登りに気づいた時は、すでに十二支会では第三回目になっていた。特に登頂を意識してはいないが、まだ一回りもできてない。

| 年    | 山名         | 標高計 | 5方面登頂日  |
|------|------------|-----|---------|
| 1ね   | 子ノ泊山 (906) | 新宮  | 50.3.18 |
| 2うし  | 牛ノ峰 (598)  | 大洲  | 60.1.13 |
| 3とら  | 虎ノ山 (1102) | 時又  | 61.3.30 |
| 4う   | 赤鬼山 (1102) | 時又  | 62.1.18 |
| 5たつ  | 竜三山 (614)  | 安岡  | 63.1.16 |
| 6み   | 大蛇峰 (511)  | 山辺  | 元.1.16  |
| 7うま  | 馬栗山 (500)  | 井原  | 2.2.14  |
| 8ひつじ | 羊蹄山 (582)  | 國部  | 3.1.13  |
| 9さる  | 猿ヶ山 (629)  | 瀬戸  | 4.1.15  |
| 10とり | 鶏冠山 (491)  | 水口  | 5.1.16  |
| 11いぬ | 犬伏山 (684)  | 直方  | 6.1.16  |
| 12い  | 猪鼻山 (1213) | 小田原 | 7.1.15  |

回を重ねるとともに山運びに苦勞されているようだ。もともと、ね(子)やひつじ(未)などの山は数が少なく、同じ

山が選ばれている。

さて、今年は四回り目の巳(み)年である。十二支会では第一回目は前述の如く比良山系の蛇ヶ峰、第二回は紀伊半島熊野市の大蛇峰、第三回は同じく紀伊半島山辺の大蛇峰となっている。四回目の今年はどこに登られたのか、会員でない私は聞き漏らしている(山行は昨年1月15日に行われるが、積雪等で変更される)。

十二支会が京都が発祥の地で、必然的に選ばれるのは西日本が多いようだが、全国的に巳の付く山を調べてみると、巳はすなわち蛇で、蛇の名を含む山名はともかく「巳」を含む山はほとんどない。読み方としては、(へび)を始め、(じ)・(ま)・(おろち)等がある。

蛇は執念深いと言われるが、神としてまつられ、エジプトやインドの神仏像にもよく見られる。

| 山名          | 標高計 | 5方面 |
|-------------|-----|-----|
| 新蛇坂山 (2667) | 甲府  | 大町  |
| 蛇峠山 (1666)  | 飯田  | 中津川 |
| 蛇ヶ岳 (1400)  | 仙台  | 関山峠 |
| 蛇窟山 (1172)  | 田辺  | 十津川 |

| 山名          | 標高計   | 5方面登頂日 |
|-------------|-------|--------|
| 辰巳山 (1151)  | 日光    | 小林     |
| 五蛇池山 (1148) | 岐阜    | 横山     |
| 蛇ヶ峰 (902)   | 京都及大阪 | 北小松    |
| 蟻蛇嶽 (769)   | 高知    | 須崎     |
| 蛇ノ尾 (754)   | 熊本    | 阿蘇山    |
| 蛇山 (751)    | 一関    | 陸田大原   |
| 大蛇峰 (687)   | 木本    | 木本     |
| 蛇ヶ山 (680)   | 松江    | 大山     |
| 蛇ヶ岳 (546)   | 岡山及丸根 | 井原     |
| 蛇石山 (525)   | 八戸    | 陸上宿    |
| 大蛇嶽 (511)   | 田辺    | 田辺     |
| 寅巳山 (464)   | 日光    | 矢板     |

山名の由来を調べてみると、蛇のいた山、蛇のように長い山、或いは祝詞がなまって蛇々になったとある。

関西では比良の蛇ヶ峰はよく登られ、田辺の大蛇峰はあまり知られてないが、南部梅林にあり、簡単に登れるので花見を兼ねて登るとよい(新ハイキング関西2号記載)。

同じ登るならその年の干支の山に登ってみるのも、何か意義がありそうなので、是非一山でも登ってみよう。

私もすでに前記の山々のいくつかに登っているが、今年も別の山をめざしてみよう。

ヒマラヤ・グリーン・クラブ  
国際ボランティア隊員募集

〔内容〕パキスタン北東辺境部、世界第二の高峰K2の付近の村々でボランティア参加者を募集  
〔主な活動〕植林・教育(手芸指導・衛生指導)・医療・学校建設・風力及び太陽発電・上下水道建設 (希望者はガンダーラ仏教遺跡観光・カラコラム山系のトレンキングも楽しめる)  
〔期間〕6月〜9月間の二、三、四週  
開単位で  
〔費用〕18万〜30万円(期間により異なる)。ただし学生・リピーター・専門家には多少の援助あり  
〔問い合わせ先〕左記各地区代表者へ  
遠藤京子 0775 (34) 0911  
廣谷順一 0745 (73) 7467  
高橋昭代 0587 (32) 5669  
水野公代 0428 (75) 6383

日だまりハイク

奈良大文字と高円山

初級コース(★) 西尾 寿一

新しく買ったバイクの慣らし運転をかねて国道24号線を南下するうち、ふと奈良の友人を思い出し立ち寄ってみることにした。

やあ久しぶり、驚いたなどと言っているうちに、近くのハイキングコースを歩こうという話になり、奥方もいっしょに3人で登ってきた。それが奈良の大文字である。

近鉄奈良駅から半日で歩けるので冬の短かい一日でもゆっくりと歩け、しかも三箇点の高円山と数々の石仏にもめぐり合え、楽しいハイキングとなる。

近鉄奈良駅から奈良公園に向かって歩いて右へ振ると高畑町がある。その奥の

山際に白雲寺がある。シーズンには大勢の観光客が訪れせまい道が混雑するが、冬は閑散としている。

寺の手前の駐車場の脇を右へ入ると左側に石垣の道が東へ続いている。幅一割の道は1000坪ほどで窪地に突き当たっている。ここから東海自然歩道が南へ向かい

変える。その道を50坪ほど行くと左側の山に登り道が登っている。標識も何もないので見逃がさないようにする。もし前方に池が見えたら行きすぎだ。この付近では一本しかない道だから確実に見つけられる。急登を続けるうち、道は大きくジグザグを切るようになり、やがて展望が開ける。

登ってきた町並が鮮かであるで飛行機から見るといい。かなたには生駒連山が続き葛城へと波打っている。奈良盆地が美しく静まっている。ひと息いれるのによい。やがて尾根らしくなった道はさらに急登を重ね、ついに左手から開けた芝生の美しいスロープへと入って行く。

左に道を分けるが、右の登り道を行くともうどこを歩いてもよい状態となり、大文字の「火床」が並んでいる。大の字

突然パッと開けて道路が現れ、壊された小屋も残っている。友人の話では、大文字の管理者が資材をこまめに車で運び、後は人の背によって火床まで運ぶという重労働である。

それにしてもこの草地の広場は心地よく、月見でもしたい気分になってくる。広場からは道路がホテルまで続き、やがてドライブウェイに出る。高円山の最高点はホテルの裏側で三角点より約30分程高いが登る気はしない。三角点で十分である。

ドライブウェイを東へくぐって行くとき程なく駐車場があって歩道が横切っている。右をとれば地獄谷石倉仏か石切峠に出るが、今回は石倉仏までで往復し、引き返したのち左の道に入る。

このあたりは一般ハイカーの通る道なので何人かに会うだろう。新池の脇にはベンチもあり休んでもよいが、ひと息で流石の道首切地蔵に出るので冬の日だまりを浴びての洋服のほうがうれしい。

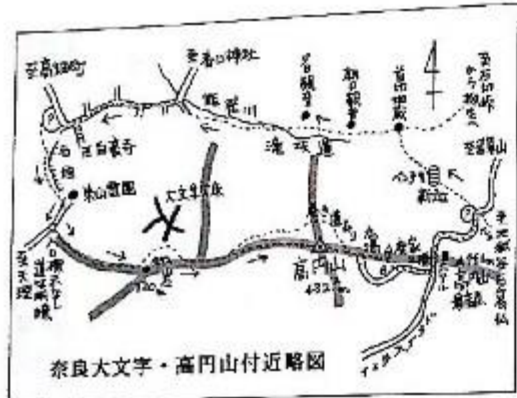
この池は春日山遊歩道や柳生へのハイカーが休んでいることが多いのでいつもにぎわっている。トイレや東屋もあり、弁当を広げて笑しげに話している中高年

の右横に岩がある。岩があるので休んで奈良盆地の展望をほしいままにするのもよい。ここは一等地である。

友人は散歩の折にはいつもここで昼寝をするという。

奈良の大文字は京都と違って戦後始まった新しいものだ。火床の上段に由来が書かれている。戦没者慰霊を目的とし、古くは幕末の戦没者から今次大戦まで幅広い犠牲者の霊を慰めることを思いついた篤志家が、献金を募り建立されたのである。京都より一日早い8月15日の終戦記念日、古都奈良の夜に多くの戦没者の慰霊のため燃えあがる。大文字の正面は京都では御所であるように、ここでは県庁というところがおもしろい。夏の夜の奈良の大文字もぜひ見てみたいと思えてくる。

大和大文字から高円山



奈良大文字・高円山付近略図

さて一服したら名残惜しい展望と別れ大文字の上段から雑木林につけられた道に入る。この道の雰囲気はすばらしい。やがて道は山腹を登くようになるのだが、尾根通しの踏み跡を行くと高円山の三角点に登る。普通道のやぶ山の山頂だ。展望もないが長居する必要もない。山頂から東へ急降下で捲き道と合流する。しばらく雑木林の好ましい道を行くと

も多い。

さて、滝坂道を満ち足りた気分できりくくって行く。石畳の滑りやすい道であるが、昔はフラジだったで国道並みだったのだろう。途中に朝日観音、夕日観音などの石仏があってけっこう趣きない道である。

滝坂道も昔のままでなく新しく改修されているとみえて、所どころ板線になっているのがおもしろい。人通りが多いと何かと大変なのだ、感慨もひとしおで通りすぎた。

やがて道路に出で左へ入り、南へ南へ振って行く、出発点の白雲寺へ着くが、そのまま直進すれば高畑町を経て近鉄奈良駅方面へ行く。

このコースは休みをとりつつゆっくり歩いても4〜5時間である。

☆コースタイム☆

- 白雲寺(40分) 大文字火床(20分) 高円山三角点(10分) 広場(7分) ホテル(15分) 十字路(20分) 石倉仏往復(10分) 首切地蔵(40分) 白雲寺(△地形図) 2万5千 奈良・柳生・大和郡山・大和白山

### 城跡と鶏鳴の滝

おがわしろやま  
小川城山  
一般コース(★)

長宗 清司

信楽町の再南端、信楽町はその大部分が高原状の山地で占められ、三重県側は急崖となって木津川の断崖に臨む。町内を貫流する大戸川・信楽川とその支流に沿って集落が形成されている。京都との府県境に近い小川村(現在、信楽町小川)の南東にある城山(70・4分)の山頂は城跡である。

県指定史跡の小川城山は、昭和五十三年(1978)から二年にわたって踏査・測量、部分的な発掘調査が実施された。山頂とその周辺で九ヶ所の郭跡と、それを囲む土塼・石垣・空堀・城戸口・堀切・井戸跡・城内道などの遺構が確認された。また本丸とみられる中央郭跡などで建物

礎石が検出された。この建物は五間(南北8・4分)×四間(東西3分)の南北棟で、建物内部に二間×三間の塗壁造りの土倉様の建物が存在した。出土遺物には土師質土器の小皿、小型の羽釜、中国製白磁・染付、美濃天目茶碗・水滴、信楽摺鉢・盃・鉢などの陶磁器類、硯・宋銭・鉄釘などがあり、ほぼ十六世紀後半代を示す。

小川城は、嘉元三年(1305)鶴見長実によって築かれたが、長享元年(1487)成俊のとき多羅尾光俊に敗れ、以後同氏の居城となったと伝えられる。天正年間(1573-92)多羅尾氏によって再築されたが、文禄四年(1595)豊臣秀次に連座して没落し、この城も廃城となったといわれている。

さほど高くない小川城跡だが、山頂からの眺めはすばらしい。多羅尾を包む連山を背にして立つと、東に笹ヶ岳(788・8分)、北に飯道山(664・2分)が望める。信楽名山めぐりの一つで、本能寺の変の際に、徳川家康が塚から信楽に逃れた時、一泊したとも伝えられている。

この城山から直線距離で2・5km東

小川城山の城跡と土塁風景



に流がある。地図にも記載のあるこの滝は、東方にそびえる笹ヶ岳の山頂にあった寺跡の「關伽池」から、黄金の鶏が現れて、元旦の朝になると新年の幸を告げたという伝説にちなんで「鶏鳴の流」と呼ばれている。

小川城山から滝への4kmコースは、いったん平道にくだり、隣山裾を歩いて宮の元にある神山神社に至る。信楽庄八ヶ

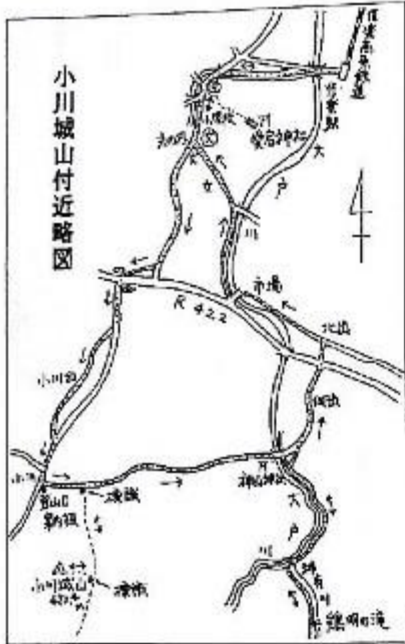
村の氏神がまつられていると伝える。

この社の境内を流れるのが大戸川で、上流に向かう途中で支流の神有川に出合ふ。鶏鳴の流はこの神有川の上流にある。湿度低下でも冷え込みの厳しいといわ



鶏鳴の滝

れる信楽の里。標高360分あたりの山間にある滝は、冬場氷結して氷瀑となり、カメラマンや愛好家の穴場となる。信楽高原鉄道の信楽駅から小川城山までは6km弱。心癒される田園風景をのんびりと眺めながら、多羅尾方面に向かって南下する。信楽小学校の前を通り小さな峠を越えて、国道422号線に出る。信号を渡り、旧道を歩くころ正面に形の良い小高い山が見える。小川城山へは、次の小川出の集落を通過して西出集落のはずれの本通りに出ると、道の反対側に大きな案内板があり、標識に従って二ヶ



所右折する勾配のゆるやかな道を登るとよい(桜の名手として、近在の人たちは花見どきはこの城山に登って憩いの場にする)。流からの経路は、大戸川沿いに神山の集落に出て、しばらく旧道をぬって再び信楽小学校橋に着く。

あとは時間があれば、嘉元散策路や愛宕山の神社に立ち寄り寄ったり、道端の陶器店で信楽焼のタメキなどを見比べながら信楽高原鉄道信楽駅に向かうとよい。(平成12年2月27日歩く)

#### △コースタイム▽

- 信楽高原鉄道信楽駅 (30分) 丸の内 (30分) 国道422号線 (50分) 小川 (20分) 小川城山 (40分) 神山神社 (20分) 大戸川分岐 (20分) 鶏鳴の滝 (40分) 向出 (30分) 市場 (40分) 丸の内 (30分) 信楽駅 (約15分)

#### △地形図▽2万5千1:1信楽

(追記) 中高年の人でもゆっくり歩ける安心コースである。標高差少なく、所要時間は十分余裕がとれている。万一、脚力不足、体調不良の場合はタクシーが呼べる地区である。

- △問い合わせ先▽
- 信楽町役場 0748 (82) 1121
- 近江タクシー信楽営業所 0748 (82) 0106
- 信楽高原鉄道 0748 (82) 3391

漢方の里山南町の山

イタリ山から石金山

中級コース(★★★)

慶佐次 盛一

兵庫県水上市山南町は古くから薬草栽培が盛んな所で、山南町観光課も漢方の里をキョッチフレーズにしている。町の中央を加古川がとうとうと流れ、その支流の牧山川上流の小野尻あたりは一面に薬草畑が広がる。その薬草畑を囲む美しい山並に魅かれ、私は過去何度かこの地の山を訪れている。当時は道標はおろか山道さえないやぶ山だったが、そんなやぶ山に道を拓き道標を備え、都会のハイカーたちに気軽に山歩きを楽しんでもらおうというユニークな試みが、山南町観光協会や地元の裾自然愛好会の方たちの手で進められている。

ここに紹介する石金山も、かつては猛

烈なやぶ山だったが、今では道が拓かれ、「播丹ふれあいトレッキングコース」が平成12年3月に開通した。難所にはロープを設置、山頂の雑木も刈り払われ、兵庫丹波の山では第一級クラスの展望台となっている。

また、平成12年5月には、薬草薬樹公園にリフレッシュ館がオープン。山の疲れを薬草風呂で癒すこともできる。

アップダウンが続く稜線は、一般ハイカーには問題はないと思われるが、まだ荒削りのところもあるので中級向きとした。松茸山の入山規制もなく、四季を通じて登れる。特に春は山桜やタムシバ・茶背スミレなどの花が楽しめるコースでもある。

JR福知山線谷川駅で下車、駅前から9時40分発の坂尻行きの特急バスに乗る。登山に便利なバス便はこれしかないの、このバスに間に合わなければタクシーを利用することになる。

井原で下車。先へ歩いて井原の交差点を左折する。もうイタリ山(至山)が目の前で、所どころにアンテナが立つ稜線が、小さな起伏を連ねながら石金山へと続いている。加古川の井原橋を渡る左

井原橋付近からの石金山



先に道の駅「さんなん仁王駅」が見え、右側の仁王像が立つ「であい公園」に入る。公園の仁王像は若屋の石籠寺の仁王像をモデルにしたものである。公園の先の左側に道標があり、イタリ山をめざして広い坂道を登る。龍荷大社跡の標識を経て右側のツーカーホンアンテナの鉄柵を越すと、数分でイタリ山に着く。足下に篠山川が加古川に合流する地点が見下ろせ、石戸山・天狗山・高山・テ

ンロック、播丹界の妙見山などが見渡せる展望のいい所で、これからたどる稜線の先には石金山の円いピークも見える。

先ほど越したツーカーホンアンテナまで戻り、鉄柵から左折する(道標がないから注意)。雑木のなかの雑い道をいっただんぐり、またゆるく登り返して行く。所どころ石金山までの距離を示した道標があり、山南町側、黒田庄町側の展望も得られる。数本のアンテナを越すと下り坂となり、日高坂に着く。ここでは時の地蔵さんが優しく迎えてくれる。

日高坂の先はロープが設置された急登



イタリ山・石金山村近略図

もあるが、少しの登りで傾斜はゆるみ、小さな起伏を越しながら進む。しかし長くは続かず次第に傾斜が増してくる。雑木の幹にすがりながら登って行くと、大きな岩が現れる。

山南町側では「流の方」、黒田庄町側では秀吉が毛利攻めの時にこの岩を越えたという伝説があり、「太閤岩」と呼ばれている大岩である。このコース最大の難所、手がかりが少ないので、岩の上からロープが垂らされている。

岩場を慎重に登ると、後は傾斜が大きくゆるんだ稜線となり石金山が迫ってくる。間もなく小新屋観音への標識と出会う。下山はここからくだるのでよく覚えておこう。しばらく平坦な道を進み、わずかな登りをこなすと石金山の山頂である。

まずは展望のすばらしさに目を奪われる。西に笠形山から飯盛山、千ヶ峰、三國岳へと続くスカイラインが美しい。近くには三相尾や岩屋山、その先に篠ヶ峰と……。山南町の山はもろろん、遠く福知山の三岳山が霞み、多紀連山や播磨の山々が展開する。ざっと20山以上の山々が確認できた。六甲連山も霞み、天候に

恵まれると明石海峡大橋も見える。

展望を思う存分楽しめ、小新屋観音への道標まで戻り、雑木の尾根をくだる。途中ジグザグを描いて右の谷へおり、林道に出る。小新屋側からの登山口で道標もある。林道を右へ進むと足腰に利益がある小新屋観音で、トイレもあるので休憩にはいい所だ。

薬草風呂に入る余裕があれば、約40分で行ける。その場合、掃りのバス停は和田郵便局前からになる。余裕がなければ前川バス停へ向かおう。

▲コースタイム▼

JR谷川駅(バス約10分)井原(15分)イタリ山登山口(30分)イタリ山(1時間)田高坂(30分)流の方(30分)石金山(15分)小新屋観音下山口(30分)小新屋観音(30分)前川(バス約14分)谷川駅

▲地形図▼

2万5千110原・谷川・丹波和田・中村町  
▲問い合わせ先▼  
神姫バス 篠山営業所

0795(12)0521

●谷川駅観光案内所にマップがある。

大峰前衛の静かな山

乗鞍岳から大白山

一般コース(★)

金谷 昭

乗鞍岳は大峰主稜と天の川を挟んで西側にそびえる10000呎にやや清たない前衛峰である。登る人も少ないやぶ山であるが、その山容は東西方向から眺めると形の整った尖峰でなかなか魅力的である。頂上には2等三角点が設けられている。

昔、源義経が無野に逃れた際、ここで愛馬を捨てたという故事に因んで乗鞍岳の山名となったといわれている。また、周辺の村々では早天統きの夜に山頂で「大どんと」を行い折ると、家路に着く頃には必ず雨が降るといって、雨乞いの山として親しまれている。

登路としては茄子原よりの古くからあ

る登山道と、同じ北麓の水谷から頂上直下に深く入っている林道利用の二つのコースがある。  
なお、乗鞍岳登頂後は西に縦走し、天辻峠から大白山に往復するとよい。天辻峠から下山途中には「天統組の決戦場」の遺跡に立ち寄り、天辻峠あるいは夢のくにバス停に出れば、より一層味わい深い山行となるであろう。

① 茄子原(本谷)コース……道標あり

近鉄八木駅またはJR五條駅から十津川方面行きバスに乗り、城戸で下車する。タクシーに乗り換えて茄子原口を経て本谷へ入る。村道の本谷集落手前のカーブ地点に小さな祠とトイレがある。その手前の山側に道標があり、コンクリート舗装の作業道が登っている。ここが登山口でタクシーはここまで入る。

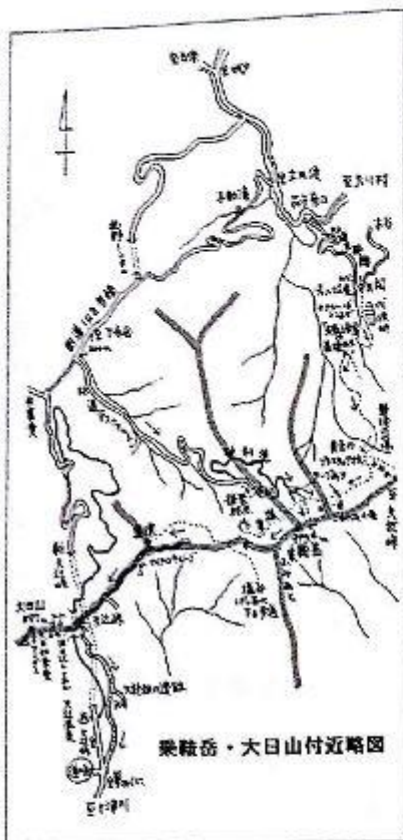
このコンクリート道は1000呎程で地道となるが、今なお作業道として使われていて、要所には道標が設けられ、迷う所の少ない登山コースとなっている。

すぐ伐採地に入り、前方右奥に頂上が見える。この付近は数年前の台風による杉の倒木が多く、まことに痛ましい光景

南側(堀谷側)は原生林となっている。

これより右に折れ、頂上に向かって道はハッキリとする。急登になるが長く続かない。水谷からの踏み跡が右より登ってくるので、いったんくたんで登り返せば山頂だ。

飛び出した乗鞍岳(993・4呎)頂上には2等三角点の標石があり、小広場となっている。かつての胸のすくような大展望は北斜面の檜林と南面の雑木林の成長により、わずかに南面の木の間越しに大峰南部や奥高野の山々を見るだけとなった。なお、雨乞いの山の由来の記され



乗鞍岳・大白山付近略図

乗鞍岳山頂



谷沿いの右岸がよく踏まれた道を行く

と、やがて丸木橋があり対岸に渡る。対岸の尾根の腹を右に捲いて乗り越す。以後、乗鞍岳の北山腹をゆるやかに捲いて行く。途中に左稜線に向かう分岐があるが、捲き道をたどればよい(道標あり)。やがて最後の水場である流れのある小沢に出合い、小沢を渡ってからやはり山

た古い看板がある。

② 水谷コース……道標なし、テープあり  
マイカー利用の最短コースである。国道168号線の天辻トンネル手前のバス停、下水谷より峠に向かって約2000呎位走った所の左に舗装された林道があり、それを登って行く。周囲は全て杉や檜林となっているが、上部になれば雑木の自然林が見られる。かなり上部で林道は左に分岐するが、そのまま直進すると舗装道のままやがて終点となる。なお左に分岐した林道は再び登山コースと出合うが、駐車スペースがなく、植林作業の支障ともなるので入らないほうがよい。

林道終点には二・三台の駐車スペースがある。これより廃道を行く。1000呎位行くとテープが現れ、左の山腹に踏み跡が付いている。これを登ると先程分岐した林道(砂利道)に飛び出す。このあたりから気持ちのよい雑木林となっている。

これより林道には三ヶ所分岐があるが、最初左に、以後右に右にたどって行く。いずれにしても山頂に向かって行けばよい。

腹を捲いて行く。やがて黄色の境界杭のある踏み跡が左手上部に向かって分岐するが、ここも明瞭な右の捲き道をとる。次の分岐では、左に登っている踏み跡が古い登山道でそれをとる。右の捲き道は作業道だけに明瞭であり、これを行っても、次に述べる水谷コースと出合うので登頂できないことはない。

左の踏み跡は主稜線に向かって杉林のなかを登って行く。壊れた小屋を過ぎると、前方に明るい稜線が窺える。

飛び出した稜線(トヤの尾)には東の矢放峠へかすかな踏み跡がある。稜線の

# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 京電・京福  
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

**近鉄**  
 ▽近鉄万歩ハイキング「傍野千年の椿木・五井八幡宮から梅林の道明寺天満宮を訪ねて」 3月3日(雨天中止) 集合 上の太子駅前9時30分〜10時(コース) 上の太子駅→道明寺→五井八幡宮→大黒寺→御座→西陣寺→天満宮→古軍山古墳→道明寺天満宮→道明寺駅(約13分) 参加自由・無料(往復料は別途)、営業推進局大阪ハイキング係06(6775) 3566  
 ▽阪長お薦めフリーハイキング「五七郎(菅原清の幼名)の散歩道」 3月4日(雨天中止) 集合 荒天中止) 集合 上野市駅前10時〜10時30分(コース) 上野市駅→芭蕉翁記念館→徳源閣→上野駅→小田小学校→竹の道(小六六路)→磯原の江→築地堂→角屋敷家老→武家陣殿→築山原→寺前通り→芭蕉翁家→上野市駅(約7分) \* 係員は同行しません。参加自由・無料(入場料は別途)、近鉄上野市駅0596(21) 3222  
 ▽近鉄万歩ハイキング「天徳寺・北野天満宮の梅観賞」 3月10日(雨天中止) 集合 京都市地下鉄北大路駅開改札前10時〜10時

50分(コース) 北大路駅→大徳寺→今宮神社→八坂神社→常楽寺→光悦寺→金剛寺→平等寺→北野天満宮→千本釈迦堂→地下鉄今出川駅(約12分) 参加自由・無料(往復料は別途)、営業推進局大阪ハイキング係06(6775) 3566  
 ▽やさしい若手会「ハイキングで追る古代遺跡の謎」 3月10日(雨天中止) 集合 飛鳥駅前9時10分〜10時40分(コース) 飛鳥駅→楠瀬寺跡→キトラ古墳→文武天皇陵→上平田→朝風峠→飛鳥地蔵→厚古墳→石舞台古墳→飛鳥駅(約10分) 参加自由・無料(往復料・入場料は別途)、講義余居立産原考古学研究所副所長・同階博物館館長栗森俊氏、営業推進局大阪ハイキング係06(6775) 3566  
 ▽近鉄フリーハイキング「千光寺から鴨川へ」 3月17日(雨天中止) 集合 元山上口駅前9時30分〜10時(コース) 元山上口駅→生駒山口神社→二本杉(石杉)→清浄石女許→千光寺→鴨川畔(首切り地蔵)→大阪府民の森(なるかわ園地)→神津島→枚田橋→枚田神社→枚田駅

(約10分) \* 係員は同行しません。参加自由・無料(往復料は別途)、営業推進局大阪ハイキング係06(6775) 3566  
 ▽近鉄文学散歩「春近古野川沿いの春園を行く」 3月18日(雨天延期) 集合 3月25日(雨天中止) 集合 3月25日(雨天中止) 集合 飛鳥駅前10時15分〜10時40分(コース) 飛鳥駅→飛鳥歴史公園(鳥居)→石→甘原丘→大宮大寺跡→香久山→紀寺跡→本薬師寺跡→福原神社駅前(約10分) 参加自由・無料(往復料は別途)、営業推進局大阪ハイキング係06(6775) 3566  
 ▽近鉄・京阪ジョイントハイキング「東寺から通徳の街・伏見へ」 3月25日(集合) 東寺境内(近鉄東寺駅前下車約5分) 9時30分〜10時(コース) 近鉄東寺駅→東寺・教王護国寺(受付)→六波羅神社



大日山山頂

やがて唐門の雑木林も樟林となり、車道も歩道に変わってゆく。ここで歩道の左の土手に登ると、先の本谷からの作業道も来ている。  
 出合にはテープがあり、ここより主線線に向かって拾林のなかの踏み跡を急登する。踏み跡が分からなくても、ともかく上に向かって登ればよい。  
 緩線に選ずると緩走路に出て、右に行

けば頂上に到着する。  
 手被岳から大日山へ  
 乗鞍岳を後にして、南側(尾谷)の雑木林と北側(本谷)の拾林との境界にそって緩走路を東西にたどって行くと、すぐ尾根分岐となる。踏み跡を左に見送り右に折れ、少し行くと、頂上北面下の山腹を捲いている先の作業道に合流する。緩走路が急な下りとなると、再び左に離谷への作業道が分かれる。このあたりよりササが出てきて、前方に大日山が望めるようになる。天辻峠からの林道におり立つ。ここには遊歩道がある。かつての乗鞍岳からの気持のよい雑木林の緩走路は、林道開発により一部を残して寸断され、林道歩きを余儀なくされるが、大峰阿部や奥高野の山々の展望が楽しめる。  
 林道途中のマイクローウェーブ反射板を横に見て天辻峠に出る。峠にはバスの残骸が捨てられている。その脇の山道に入るとすぐ分岐がある。左にとって尾根にのり西へ向かう。  
 ここにもマイクローウェーブ反射板が二ヶ所あり、その間を通過して行く。やがて

大日如来堂と須弥子のアメダスの背後にある大日山(897m)の頂上に達する。この山頂もかつての展望は植林により皆無である。3等三角点標石を中心に、ひっそりと静まりかえっている。  
 帰路は大辻峠から村道を行き、途中の天珠組の遺跡に立ち寄り、国道に出て天辻峠が夢のくにバス停から五條方面に戻る。(平成12年・月14日・10月7日歩く)  
 ▲コースタイム▼  
 ①本谷コースから大日山  
 登山口(45分) 最後の水場(40分) 分岐(15分) 緩線(20分) 乗鞍岳(30分) 林道(40分) 天辻峠(40分) 大日山(30分) 天辻峠(60分) 夢のくにバス停  
 ②本谷コース  
 永谷口バス停(1時間) 作業道交叉部(25分) 緩線(10分) 乗鞍岳  
 ▲地形図▼2万5千円縮尺  
 ▲問い合わせ先▼  
 西宮野タクシ 07473(3)0336  
 「夢のくに」バス停発五條方面行き  
 13・16(八本行き)、14・18(八本行き)、17・53(五條行き)

西寺峠 吉原院大講堂・浄土寺  
(宮崎の六地蔵) 一鳥羽難宮神社  
一城宮前 北回不動院・鳥羽天  
皇陵・近衛大皇陵・藤森神社・御  
香宮神社・月読院大合祀記念館・長  
建寺(解説) 一京都中書島駅(約  
15分) 参加自由・無料(送料は  
別途) 宮城推進局大坂ハイキン  
グ係06(677-5) 355666

▽駅長お薦めフリーハイキング  
「行者の道」 3月25日(雨)雨天決  
行(荒天中止) 集合 吉野口駅  
前9時30分(11時)コース 吉野  
口駅→坂本馬場寺子墓→中神社→  
泉源寺→今木霊現堂山門→石塚遊  
跡→下市口駅(約8分) \*係員は  
同行しません。参加自由・無料  
(送料は別途) 近鉄下市口駅0  
7475(2) 24222

**京都バス**

▽京都北山三角点トレック「大尾  
山コース」 4月7日(日)・4月14  
日(日)小雨決行、大雨の時は4月28  
日(日)集合 京阪出町柳駅地下コ  
ンコース8時58分30分(ヘコ  
ス) 出町柳駅(バス) 新田・伊香  
立原・大尾山・小野山・御木峠・  
水井山・登山口(バス) 出町柳駅  
(約10分) 健脚回 電話申込制(3

月7日(雨)時より受付) 参加費無  
料(バス代別途(申込込) 京都  
バス運部営業課075(81-1)  
7521・75222

**飯山電車**

▽第20回ワイケテハイキング  
「赤山拝院・西塔コース」 5月  
7日(休)雨天中止(集合)八瀬遊園  
駅9時30分(集合)八瀬遊園  
一赤山拝院→水飲対陣跡→千種の  
碑→ケール北沢駅→西塔駐車場  
分岐→松尾坂→八瀬遊園(約10  
分)一般回 参加自由・無料 飯山  
電鉄鉄道部075(702) 81  
1-1

**神戸電鉄**

▽神鉄ハイキング「近津神社と小  
野鴨池探検ハイイク」 3月11日(日)  
雨天中止(集合) 乗車料10時25分

**山陽電車**

▽山陽ハイキング「淡路島公園」  
3月4日(日)雨天の場合3月11日  
に延期(集合) 山陽明石駅下  
車 岩屋港ポートビル前(約9時  
30分)コース 岩屋港→茶間川溪  
谷ハイキングコース→淡路島公園  
→展望台→岩屋港ポートビル前→  
岩屋港(約10分) 参加自由・

「コース」 乗車駅 近津神社・鴨  
池・大住橋・小野駅(約8分) 家族  
回 参加自由・無料 神鉄観光事  
業部075(521) 03221  
▽神鉄ハイキング「炭ヶ谷と摩耶  
山ハイイク」 3月25日(雨)雨天中  
止(集合) 花山駅9時(コース) 花  
山駅→炭ヶ谷→まむし谷→シャロー  
ル道→惣朝→天上寺→摩耶ロー  
プウェイ山頂駅(約8分) 一般回  
参加自由・無料 神鉄観光事業部  
075(521) 03221  
▽神鉄ハイキング「しあわせの村  
とひよどり森林公園ハイイク」  
4月22日(日)雨天中止(集合) 熊那  
駅10時45分(コース) 熊那駅→相  
談ヶ辻→しあわせの村→ひよどり  
越森林公園→丸山駅(約10分) 家族  
回 参加自由・無料 神鉄観光事  
業部075(521) 03221

# せせらぎ

**題字・小林波瀾三**

8月11日、鈴鹿のリリーダー山  
田明男氏の案内でイブネ・クラ  
シ・鏡子を歩いた。  
「イグリッパストックをリネット  
クに差し込んで、オゾ谷からワ  
サビ峠へ行ってクラシ北尾根に  
さしかかった。ここはシヤクナ  
グが生い茂るヤセ尾根で、真横  
にのびた枝と地表に浮き出た根と  
この間を延々とくぐり抜けるよ  
うな、障害物競争のような難こ  
い、スであった。

できず、山田氏に回収を依頼す  
るが、このコースは今回の例会  
では使わないとのことであつ  
さりとおきらめていた。  
11月19日、山田氏より「8月  
に無くしたらしいストックを北  
勢町のNさんが先週拾われた」  
とフタクシミリが起き大変驚く  
実際に手にするまでは他人様の  
ものかもしれない、信じられ  
なかつたが、それが12月23日私  
の手に無事戻つた。  
このことはどう考えても偶然  
とは思わず、たつた一本のスト  
ックに、氏の情報量の「すこ  
さ」と情報力の「すこさ」のよ  
うなものを感した。  
(湯浅康夫)

シマフクロウは北海道に、フ  
クロウとオオコノハズクは沖縄  
を除く全土に蔓延し、トラフズ  
クは国内を南北に、コミミズク  
はロシアから、アオバズクとコ  
ノハズクは東南アジアから渡  
ってくる。一般の鳥の視野は34  
0度、フクロウは110度しか  
ないが、人間と同じように立体  
視できるため小動物の捕食に有  
利で、さらに耳の位置が上下に

熊勢町の歌垣山に登った。戻  
根道を歩いているとき、森のな  
かから飛び出してきたフクロウ  
が、10分前を日の高さで飛んで  
谷の方へ降りていった。  
鳥の飛び姿はくちばしの先端  
から尾の先まで一直線の流線型  
なのだが、この鳥は鶴型のよう  
な大きな顔を前面におし立てて  
飛んでいった。これでは空気抵  
抗が大きくて空を飛ぶには不都合  
ではないのか。森の住人と云  
われるだけあって森のなかの移  
動がせいぜいで遠くへは飛べま  
い。そう思うと調べてみると、  
フクロウ科の鳥は日本で七種類  
見られ、そのうち四種類が渡り  
をするというから驚いてしま  
う。

**○新ハイ関西サービスチェーン**

名産・二岐登山 小白山・大白山・甲  
子・鈴鹿への探検コース 1名でも探検  
り探検可能(要予約) 露天風呂と内部  
温泉

**福島・二岐温泉**  
**日観連 大和館**  
〒9662 104021  
福島県福島市大和町二岐温泉  
F 02445 3411 24031  
02445 3411 24031

富士登山・富士五湖  
東海温泉自然歩道  
(石巻山・ハリキミ・桂林)  
二岐温泉  
〒401-0650  
山梨県南都郡山中湖村平野  
電 05551-6516516

大宮温泉(中城) 湯治温泉(中城)  
温泉・温泉あり  
バス中城温泉(中城) 湯治温泉(中城)  
バス20分 湯治温泉(中城) 湯治温泉(中城)  
バス20分 湯治温泉(中城) 湯治温泉(中城)

**山小屋 福ちゃん荘**  
〒401-0650  
山梨県山中湖村山中湖温泉  
電話(山小屋) 05553-3014 6525  
(山小屋) 05551-7993 115

区画 平ヶ岳温泉(約10分) 山小屋  
温泉 三山荘(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋

〒940-0000 新潟県北  
上野原温泉(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋

〒940-0000 新潟県北  
上野原温泉(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋  
温泉 湯治温泉(約10分) 山小屋





導し、妻や母親を助ましながら登ってきた男性がいて、その努力には圧倒された。

この播磨富士は人気があり、週末とあってか、この他に30人の団体、3人組、夫婦組、単独登山者などいろいろな人たちが出会った。しかし、他の3山では登山道を通じてたれにも会うことがなく、少し寂しい思いをふた。

ふるさと富士には、登山の前後に歩き回って、最も富士山型に見えるビューポイントを探し出すという楽しみもある。独立峰なので頂上の樹林が切り払われていて、場合によっては展望に恵まれる。丹波富士と、特に播磨富士の展望が良かった。

これで「ふるさと富士登山ガイド(関西周辺)」「山と溪谷社」に載っている山中、29山を踏んだことになった。今後も新しいものを探して登ってみたいと考えている。(東谷 宏)

地方の時代が叫ばれてから久しく時間が過ぎてしまった。金をかけて建物を建てるのが活性化と思ひ込み、建てた建物の多くが挫折して花を咲かすにいたってはいない。慣れない商売がうまくいくはずがない。

の多くが挫折して花を咲かすにいたってはいない。慣れない商売がうまくいくはずがない。昨年の晩秋、「全国地域学会」が姫路文学館で催され、北は山形県、南は長崎県まで全国からの参加があった。各地域ごとの特長ある活動報告や、今後の進め方についてのフォーラムが行われた。その後交流会が開かれ、そのなかで感じたのは「今のところ何でもあり」ということである。地元の歴史、民話や伝承の掘り起こし、我々に馴染み深い自然との共生について、地域の未来を指し示す研究など……。地域の人たちも取り込んで活動した結果を「地域学」というと思う。

山行短歌  
11月12日 雨乞伝  
散り染めた落葉の音はほかほかと  
やわらかな音楽ノ煙谷  
清水ノ頭秋空にはえ  
雨乞の備前の様む賀の海  
もがきかき分けビークざして  
11月19日 笠日小谷より黒尾山  
山肌は朝日を受けて中河原  
色とりどりの結縷りなし  
11月23日 藤原岳  
天を突く頂上の岩塔さざれ岩  
小真弓ピンク岩壁に映え  
見渡せば雲の渡りの絶景に  
登りのルート眼下に続き  
細道は樹林の中のノタノ坂  
西口を受けてもろじ輝き  
12月3日 赤連ヶ岳  
冬枯れの白濁谷の細道を  
落葉踏みしめ時雨と共に  
祝連ヶ岳食後木枯し寒くなり  
一気に下りて焚火囲んで  
木枯しは汗した体吹き抜けて  
空ゆく雲と霧の流れと  
12月10日 奥草山・政子・西山  
近江湖環遊の谷頭壁に響けられて  
明石和歌山岐阜名古屋から  
今世紀最後の山の忘年会  
海見峠に煙りたなびき

|                                                                                                        |                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>千代町道 千代町道<br/>百八十一(保・紀音原)<br/>ホテル<br/>白馬プランシエ<br/>〒399-9300<br/>長野県北安曇郡白馬村いわたけ<br/>0266-72-4452</p> | <p>八ヶ岳北麓走の中心地<br/>59年秋新築完全完成館内<br/>木の香が漂う新館温泉大浴場<br/>オーレン小屋<br/>1泊2食付き 6000円<br/>4月末、11月末開設<br/>〒399-0213<br/>長野市豊平2722 小平湯天<br/>0266-72-1279</p> | <p>北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー<br/>J.R.長野県北八ヶ岳登山口まで<br/>送迎します。<br/>長野市北八ヶ岳登山口<br/>〒399-0301<br/>長野市北八ヶ岳登山口まで送迎<br/>クロカン・コース案内<br/>〒398-14100<br/>長野県戸隠村越水ヶ原<br/>0266-1254-2081</p> | <p>日本百名山の宿<br/>信州戸隠山<br/>森の宿めるへん<br/>高梨山・黒野山登山口まで送迎<br/>〒398-14100<br/>長野市北八ヶ岳登山口まで送迎<br/>クロカン・コース案内<br/>〒398-14100<br/>長野県戸隠村越水ヶ原<br/>0266-1254-2081</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

12月17日 イブネ・高呂・クラシ・鏡子

天を突く鹿ヶ岳の絶景を杉の平でしばし見上げる。(若野 明)

12月上旬、妻と2人で広野登山口から三周ヶ岳へ出かけた。整備された登山道にはビッシリと枯れ葉が敷きつめられ、上部ではうすら雪が積もりザクザクと心地よい感触。冬枯れの美しいブナ林を過ぎると夜叉ヶ池だった。池周辺は小動物の足跡が無數にあった。

三周ヶ岳へは大きなカモンカの足跡に導かれて到着。快晴微風の山頂では360度の大展望が堪能できた。

翌日は鈴鹿・日本コバに登った。土曜日が意外と多くの入山者があった。この山もメジャーになったのかなあ?

下山後は近江湖まで今年の汗を流した塩井山行だった。(栗津浩二)

2000年は一回の山行に17名から60名の参加者があった。総計では410名の方々が参加されました。一応定員は設けていますが、早めに申し込まれた方は全て参加してもらっています。一昨年から案内を始めた鈴鹿の山々ですが、天候にも恵まれ雪が降ったり小雨が降ったりはしましたが、笠日の例会でも中止は一度もありません。滋賀県側から登る鈴鹿の山々は若野さんが案内されていますので、小生は三重県側から登る案内を進めて行きたいと思っています。

筆者は早速、JR松ノ宮駅を出て源八橋を渡り、左に見える管理局3Fの裏まった計画課を訪ね、森林地図を見せてもらった。六十万分之一図(積込み5000円)が、石川・福井県、近畿・中国地方の国有林分布が分かる地図である。細かいところは省略してあるので、二十万分之一図(同3000円)でないと分かりにくいが見せてもらって、場所を言えば、該当する国有林の二万分之一図(同4000円または5000円)を閲覧できる。

|                                                                                                                                             |                                                                                              |                                                                                                          |                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>日本唯一の女人禁制の山「大峰山」(谷山)の登山口<br/>福ヶ谷女入コースもあり<br/>温泉・名水の里<br/>旅館 紀の国屋甚八<br/>1泊2食付 7,000円から<br/>〒592-0431<br/>奈良県吉野郡天川村清川<br/>0747614-0309</p> | <p>九州の絶景 日本百名山<br/>宿之浦岳に一番近い宿<br/>屋久島安房登山口<br/>〒891-1431<br/>鹿児島県鹿野郡安房町<br/>09974-033021</p> | <p>御在所登山に<br/>愛知川森林浴歩きに<br/>山好き林間の集う宿<br/>朝明茶屋<br/>山小屋<br/>〒510-1251<br/>三重県三重郡野守町<br/>0593-933-1788</p> | <p>御在所登山の近くには山の大<br/>一帯の山の水・山・登山道あり。<br/>三百名山 那岐山のみ<br/>高山 那岐山荘<br/>〒798-1307<br/>岡山県田原郡赤松町<br/>0868-3614154</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

のある地域を選べば、門外不出であっただけに相当の価値はあるだろう。購入は窓口で直接か、または現金書留で到着後送のいずれかである。

筆者が管理局を訪ねた時、新聞の切り抜きを持った、同じ目的の訪問者がいた。ひとりは生駒山が目的だったらしく、国有林には含まれていないのがっかりして帰っていった。あらかじめ必要な地域を把握してから訪ねたほうが無駄足にならずにすむだろう。

参考までに国有林の主要な地点を紹介してみると、其面(一万分の一)、白山、大合ヶ原・大杉谷、大山、氷ノ山、古屋(麓部)、高野山、金剛山、紀原高原、貴船山、旗山、甲山(西宮)、近江富士、近江湖南アルプス(金勝山、奥鳥山)、黒河山(三國山)、上谷山、荒谷山・河内山、奥伊吹などである。筆者のお気に入りは「其面」と「金勝山」である。特に後者は精緻で美しい。案内パンフレットによると、販売を目的に印刷していないため、販売可能数に限りがあるとのことである。

買うかどうかは別にしても、一見の価値はあると思う。

なお、ハイキングを目的にするなら、市町村または国土地理院発行の一万分の一地図(一部地域しかないが)の購入をおすすめしておきたい。また、鉄道会社の発行しているハイキングガイドや、特定の地域の縦走マップにもよいものがある。本誌の読者の多くは周知であろうが、初心者の方のために、いくつか紹介しよう。

京都一周トレイルのガイドマップについては、本誌27・34・35号で紹介されているが、筆者が問い合わせた時には在庫がなく、入用なら直接こちらに来て必要箇所をコピーして下さいとのことでした。あらかじめきり下したが、最近、京都念仏(地下鉄東西線東山駅北)1Fの京都市観光協会で、3コース分が各500円で販売されていることを知り入手できた。平成10年発行のようだが、西山コースのマップは当分出ないと聞いて、「京阪沿線ハイキングガイド」も北山・東山コースが詳しく案内しており、便利である。

六甲全山縦走マップ(平成10年発行)については、神戸市市民局文化振興課(〒650-18570、中央区加納町6の5の1、TEL078-3322)に168)宛に小為替400円と送料の手140円を送れば、送ってもらえる。他に、「六甲全山縦走120年のあゆみ」(500円)もあり、マップと両方なら、小為替900円と送料の手270円となる。「阪急ハイキング」も六甲全山縦走を詳しく紹介して役に立つ。

「関西ハイキングガイド」(創元社)にも縦走路のガイドがあるが、地図に記入してある山道はあまり信用しないほうがよいだろう。高取山の西麓で横尾山への登り口がわからず、同じ風体の人が付近をうろつくと徘徊しているのに出くわして、苦笑いをしたことがある。やはり、コースガイドの命は、正確な地図ではあるまいか。

その点、山城古道探検地図(3500円)は合格であろう。一万二千分の一地区にコースを記入してありたどりやすい。この地図は事務局(0774-8

2)5212)へ問い合わせるとよいだろう。(柴田昭彦)

昨年10月17日、大峰山奥駁道を中心にした「紀伊山地の霊場と参詣道」が、ユネスコ世界遺産へ日本が今後推薦する暫定リストに追加されることになったという。

近畿百名山には、この奥駁修験道の道場「山上ヶ岳」が含まれている。が、約1300年続いていた「女人禁制」の山であり、女性は登れない。最近、無断で入山した女性がおとがめをくらったことでも知られ、「女人禁制」を解禁しては、議論が白熱したところである。そしてまた、この世界遺産の登録をめぐる「女人禁制」をどうするかで注目を集めているようだ。

私も「近畿百名山に登る」例会はどうしたのかと頭を悩ませていたが、どうやらこれを機に、ゆゆしは「女人禁制」が解かれる日は近いとみていよう。その時は当然女性もいっしょで、堂々と山頂に立てるだろう。(村田智俊)

### 山行計画 (3・4月)

※ハイキングクラブ

このページの「山行計画」には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者連代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込みを参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例年の参加者全員に標準保険がかけられています。出発直前の雨天、係に保険料日額500円と救援対策費日額500円合計1000円(発行日始りの場合)を2日(2000円)を支出していただきます。

標準保険の特約内容は次の通りです。(安山火災海上保険会社と契約)

|             |        |
|-------------|--------|
| 死亡・後遺障害保険金額 | 1000万円 |
| 入院保険金       | 5000円  |
| 通院保険金       | 2500円  |

保険の対象は集合時からの解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・6本車以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例) (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所

氏名

会員番号 (会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛先欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

### 縦走アルプス・高御登山 (一般向き)

期日 3月4日(日) 日帰り  
集合 J3名古川駅中央改札口 6時15分/JR東福知駅10時15分  
コース 高御登山・豆崎山・大谷山・百間山・鷹ノ巣山・高御登山・小高御登山・北山奥山・深石山・玉殿山(解散)・電車・名古屋駅(20時30分)

費用 約3000円(自己負担) ※費用

地図 2万5千1加古川  
申込み ①小田原春 城東市寺田大陣山の10新ハイキングコースまで  
※集合駅を明記ください  
※集合アルプスと言われる尾根をほぼ全山縦走する縦走ハイキングです。雨天中止

地図読み山行44  
奈良・矢田丘陵(一般向き)  
期日 3月4日(日) 日帰り  
集合 近鉄高野駅前バスのりば 9時20分  
コース 富雄駅前(バス)・雲山寺

### 山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも知れない緊急連絡先など、「記載すべき事項」はもれなく記入してください。申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

- ①初心者回) やさしいコース
- ②初級回) どなたでも歩けます
- ③一般回) ハイキングの標準コース
- ④登山回) かなり登り難いコース
- ⑤やや登山回) (登山回) は、危険な所があり、キツイ登りや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

追分森林—こどもの森  
 1まほろは見晴台—國見  
 台—松尾山—松尾寺—白  
 石—草薙駅(解散)  
 費用 約1000円(大阪から)  
 地図 2万5千—信貴山—生駒  
 山

係 ◎慶元一彦 ○中村 登  
 申込み 〒536-0008  
 大阪市城東区関目4の14  
 の9の301 塚元一彦まで  
 \*大府の301 塚元一彦まで  
 \*定員30名

新ハイキング関西支那合同  
 追分森林で観望したのち、矢田丘  
 陵をのんびり歩きながら地形図の  
 読み方とコンパスの使い方を勉強  
 します。初心者歓迎。シルバーク  
 型コンパスを持参ください。  
 雨天中止

三重の山岳  
 尾鷲・天狗倉山(中級向き)  
 期日 3月4日(日) 日帰り  
 集合 滝原宮駐車場(国道42号  
 線沿い) 8時00分/海山  
 町「道の駅海山」 9時30  
 分

コース 道の駅海山—鷹下—馬越  
 峠—天狗倉山—馬越峠—  
 馬越公園—天満—大地—

猪の鼻—小山瀬—道の駅  
 海山(解散17時頃)  
 費用 1500円(交通費は各自)  
 地図 2万5千—引木浦—尾鷲  
 ◎尾崎英夫 ○福屋逸夫  
 ○新町幸夫  
 申込み 〒519-0031  
 鈴鹿市大久保町2065  
 福屋逸夫まで  
 \*マイカー—山行  
 \*集合地を明記ください  
 眼下に尾鷲湾—熊野灘が、西方  
 には大台山系が見える展望の良い  
 山です。ややロングコースになり  
 ます。雨天決行(雨天はコース変  
 更あり)

近畿自然歩道  
 山陽路コースを歩く2  
 期日 3月4日(日) 日帰り  
 集合 能勢電鉄日生中央駅9時  
 40分

コース 日生中央駅—彫刻の道—  
 大畑峠—阿古谷—屏風岩  
 —多田銀山—銀山口—バス  
 停(解散15時30分頃)

費用 約1500円(大阪から)  
 地図 昭文社「北摂の山々」  
 ◎須藤尚 輯

小山良春  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで

コース 茶畑の広がる大井川溪谷沿いの  
 静かな山です。雨天中止

自然観察山行57  
 美濃・妙法ヶ岳(一般向き)  
 期日 3月10日(日) 日帰り  
 集合 JR大垣駅8時40分  
 コース 大垣駅(バス)谷汲—華  
 厳寺—奥の院—妙法ヶ岳  
 —檜蔵寺(バス)大垣駅か  
 ら貸切バス代等)  
 費用 約3500円(大垣駅か  
 ら貸切バス代等)  
 地図 2万5千—谷汲  
 ◎齋見守康  
 申込み 〒504-0828  
 各務原市蘇原村雨町1の  
 19の5 齋見守康まで  
 \*定員30名

美濃の二つの古刹を結ぶ東海自  
 然歩道を歩き、妙法ヶ岳に登りま  
 す。自然観察と写真撮影に併う不  
 規則な歩き方が苦にならない方ご  
 参加ください。小雨・雪決行  
 御池岳で雲と遊ぶ◎(一般向き)

川任伏町—瓜生山—石鳥  
 居—水飲み対峙—御一ヶ  
 ヶ原—水井山—御木堂—大原  
 戸寺—バス停(解散)  
 費用 約700円(京都駅から)  
 地図 2万5千—京都東北區・  
 大原

係 ◎湯浅次男 ○青木一雄  
 申込み 〒569-1133  
 高槻市川西1-18の20  
 湯浅次男まで

JR関ヶ原駅8時30分/  
 三岐線道志野駅8時45  
 分  
 コース 各集合駅(金)コグルミ  
 谷—丸山—奥の陣—コグ  
 ルミ谷(車)集合駅(解  
 散16時30分頃)  
 費用 500円—1000円  
 (車代)

係 ◎山田明男 ○高原亮彦  
 申込み 〒503-0535  
 海津郡南濃町松山624の19  
 山田明男まで  
 \*集合地を明記ください  
 \*マイカー参加の人はそ  
 の旨明記ください  
 \*定員25名

引き締った雪原の奥の平を歩き  
 ドリィネで尻セードをして遊びま  
 しょう。国道の状況によりコグ  
 ルミ谷まで歩くこともあり。  
 小雨・雪決行

近畿百名山に登る(第26回)  
 南山城—鷲峰山(一般向き)  
 期日 3月11日(日) 日帰り  
 集合 京阪宇治駅8時30分  
 コース 宇治駅(バス)湯原谷—

川任伏町—瓜生山—石鳥  
 居—水飲み対峙—御一ヶ  
 ヶ原—水井山—御木堂—大原  
 戸寺—バス停(解散)  
 費用 約700円(京都駅から)  
 地図 2万5千—京都東北區・  
 大原

係 ◎湯浅次男 ○青木一雄  
 申込み 〒569-1133  
 高槻市川西1-18の20  
 湯浅次男まで

茶室神社—寺点観音  
 岳—鷲峰山—空峯の峰—金  
 胎寺—和泉原山(バス)  
 JR加茂駅(解散16時頃)  
 費用 約2500円(大阪から)  
 地図 2万5千—朝宮—宇治—  
 笠置山

係 ◎村田智俊 ○安倉正勝  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 村田智俊まで

1等三角点の名山。宇治田原か  
 ら和東へ越えますが、歩きやすい  
 道をたどり、行場めぐりはカマ  
 ッします。小雨決行

静岡—八高山(一般向き)  
 期日 3月11日(日) 日帰り  
 集合 JR名古屋駅中央改札口  
 7時10分

コース 名古屋駅(電車)金谷駅  
 (電車)大井川鉄道福用  
 駅—尾入—馬王平—八高  
 山—馬王平—茶畑—福用  
 駅(電車)金谷駅(電車)  
 名古屋駅(解散17時35分  
 頃)

費用 約2000円(東京まで)  
 地図 2万5千—八高山

鈴鹿を歩く113  
 残雪の雨ヶ岳(一般向き)  
 期日 3月11日(日) 日帰り  
 集合 大原原「かもしか荘」広  
 場8時30分

コース かもしか荘(車)清水平  
 谷林道正岡—清水の頭—  
 南畑之岳—雨ヶ岳—南  
 畑之岳—西尾根—シヤクナ  
 ガ尾根—林道広場(解散)

費用 交通費各自  
 地図 昭文社「御在所・兼ヶ  
 岳」

係 ◎岩野 明 ○山田英三  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*マイカー—山行  
 毎年恒例になった残雪の雨ヶ岳  
 山行です(31号40ベージ参照)。  
 小雨・雪決行

吉備高原—成羽天神山

西明石駅(バス)山笠道—  
 岡山道—登山口—天神山  
 —鈴鹿城—登山口(バス)  
 西明石駅(解散19時頃)  
 費用 約4100円(バス代等)  
 地図 ◎井上 保  
 申込み 〒674-0007  
 明石市大久保町高丘3の  
 1・20の104 井上保まで  
 \*定員45名(公費優先)

登山道は中国自然歩道に指定さ  
 れ、鈴鹿線からは吉備高原の山々  
 を眺められます。晴れば雪の大  
 山を見ることが出来ます。  
 雨天中止

平白水堀ハイク38  
 京都一周トレイル  
 銀閣寺から比叡(言寺へ)  
 期日 3月14日(日) 日帰り  
 集合 京都市バス銀閣寺道バス  
 第8時30分(白川通今出  
 川交差点北東角)

コース 銀閣寺道—浄土橋—北白

川任伏町—瓜生山—石鳥  
 居—水飲み対峙—御一ヶ  
 ヶ原—水井山—御木堂—大原  
 戸寺—バス停(解散)  
 費用 約700円(京都駅から)  
 地図 2万5千—京都東北區・  
 大原

係 ◎湯浅次男 ○青木一雄  
 申込み 〒569-1133  
 高槻市川西1-18の20  
 湯浅次男まで

京都一周トレイル 前回の続き  
 の東山コースと北山コースを歩  
 みます(約17km)。小雨・雪決行

九州肥前市の山  
 経ヶ岳—多良岳と登る  
 期日 3月16日(日) 20日(朝朝)  
 4泊5日(前中2泊)  
 集合 16日 大阪国際フェリー  
 ターミナル19時00分(20  
 時発)

コース (16日) 大阪国際(フェ  
 リー)泊 新門司港へ  
 (17日) 新門司港(バス)  
 大室山—五岳山—大室山  
 (バス) いこいの森長崎  
 (泊)

〔18日〕 いこいの森林館

バス 黒木登山口ー終  
ヶ尾ー中山越ー多良居ー  
倉敷寺ー黒木登山口(バス  
乗車) 雲梯小池沼湯泉・青  
雲荘(バス)

コース ①青雲荘(バス)  
仁田峠ー妙見橋ー田原岳  
ー雲梯小池沼湯泉ー池ノ  
原駐車場(バス) 雲梯湯  
泉(入浴・バス) 新門司  
港(フェリー泊)

費用 約4000円(フェリー・  
バス・宿泊代等)

地図 2万5千円 太宰府・多良  
居・島原・雲梯

係 ②狩野東彦 ○加藤元彦  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

修験道の行場であった太宰府の  
宝満山で三宿しをして長崎で2泊  
する。マンサクの咲く多良山系主  
峰を縦走し、平成新山を望む雲梯  
尾を歩きます。\*軽アイゼン必須。  
雨天決行

六甲・摩耶山(一般向き)

期日 3月18日(日) 日帰り  
集合 JR名古屋駅中央改札口  
6時15分/JR三ノ宮駅  
中央改札口8時40分

コース 三ノ宮駅(地下鉄)新神  
戸駅ー市ヶ原ー天狗道ー  
摩耶山ートエネテックロ  
スー新神戸駅ー三ノ宮駅  
(解散16時頃)

費用 約2700円(食費もき)  
※使用・名古屋から

地図 2万5千円 神戸首都  
圏  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
神戸市民団体の摩耶山に天狗道  
から登ります。雨天中止

鈴鹿を歩く1-4  
残雪の御池岳・奥の平  
(健康向き)  
期日 3月20日(日) 日帰り  
集合 御池林道小又谷林道分岐  
広場8時30分

コース 分岐止場ー小又谷林道ー  
ノタン坂ー土倉中奥の  
平ー南峰ーボタンブチー

ブナ縦断ー御池林道ー広  
場(縦断)

費用 交通費を含む  
地図 昭文社「三雲仙・伊吹・  
葎原」

係 ③栗野 明 ○山田崇三  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

山行です(24号4ページ参照)。  
小雨・雪決行

北山ちよつと歩き19  
薬王坂から葎原ヶ岳  
(初級向き)  
期日 3月21日(日) 日帰り  
集合 散居出町柳駅8時20分  
コース 出町柳駅(電車)鞍馬駅  
ー葎三駅ー葎原ー葎原ヶ  
岳ー葎見峠ー大野駅(解  
散15時頃)

費用 約1000円(食費から)  
地図 昭文社「京都北山1」  
係 ④山田崇三  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

どなたでも気軽に歩ける早春の

早山ハイキングコースです。  
雨天中止

自然観察山行8  
南信・高尾尾山と風越山  
期日 3月24日(土) 25日(日)  
集合 (24日) JR岐阜駅8時  
50分

コース (25日) 岐阜駅(バス)  
清内路村後山ー野野崎ー  
梨野山ー高尾尾山ー梨野  
山ー梨野崎ー後山(バス  
飯田市(泊)

申込み 61000121  
各務原市藤原村南町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名(2月27日ま

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名(2月未まで)

つばめ返しゆかりの滝池から  
樹齢千年のツガの大木を経て、3  
60度の展望台まで行きます。山  
頂付近のミスマンクも楽しみです。  
小雨決行

〔17日〕

南河州の標高1400〜150  
0m級の二山を歩きます。南アル  
プスの風景が魅力です。自然観察  
と写真撮影に併う大規模な歩き方  
が苦にならない方に参加ください。  
雨天決行

丹波・白鹿岳(一般向き)  
期日 3月23日(日) 日帰り  
集合 JR名古屋駅中央改札口  
6時15分/JR和州山線  
吉市駅10時20分

コース 吉市駅ー往山ー海原根ー  
白鹿岳平ー松原山ー文徳院寺  
ー藤山口駅(解散・電車)

費用 約2000円(食費1800円)  
※使用・名古屋から

地図 2万5千円 藤山  
係 ⑤小出良春  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
三河地形の山歩き「丹波山系」  
と呼ばれる白鹿岳、海原や山頂が  
あったとされる松原山を由良根か  
ら文徳院寺に縦走します。雨天中止

鈴鹿山行16

高尾山・雄尾山・杉坂山・向野  
院峰  
期日 3月25日(日) 日帰り  
集合 JR米原駅8時30分/三  
岐鉄道西野尻駅8時35分  
各集合駅(車) 距離30  
分 各集合ヶ原分岐広場ー

林道ー高尾山ー杉坂山ー  
阿野院峰ー杉原寺ー雄尾  
山 高尾山ー雄ヶ原分岐  
広場(解散15時30分)

費用 1000円(車代)  
地図 2万5千円 高尾山  
係 ⑥山田明男 ○高尾秀隆  
申込み 50310335  
海津郡南濃町松山62の16  
山田明男まで

\*集合駅を明記ください  
\*マイカー参加の人はそ  
の証明してください

早春の花、ミスマンク・スハマ  
ソウは咲いたでしょうか。  
小雨決行

平日ふれあいハイキング  
北山・雄尾山と三ノ宮山から早峰  
期日 3月27日(日) 日帰り  
集合 JR京都駅雄尾山線乗り場

7時40分(7分急ぎ)

京都市(電車) 八木駅  
(バス) 原ー愛宕山参道  
ー地蔵山入口ー地蔵山ー  
吉見峠ー三頭山ー早峰ー  
ドンドン橋 越前口(バス  
八木駅(解散17時30  
分頃)

費用 約2300円(食費含む)  
地図 昭文社「京都北山1」  
係 ⑦山上久登 ○寺井恒夫  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

愛宕山の北に連なる地蔵山と三  
頭山を縦へ、足跡へと静かな尾根  
道をたどりませ。雨天中止

越前・権現山(初級向き)  
期日 3月31日(日) 日帰り  
集合 JR大津駅8時50分  
コース 大津駅(バス) 武生市柳  
登山口ー柳の滝ー権現山  
ー藤原寺ー登山口(バス) 大  
津駅(解散19時頃)

費用 約5500円(バス代)  
地図 2万5千円 福知山  
係 ⑧栗原東彦 ○加藤元彦  
申込み 61000121

頭山を縦へ、足跡へと静かな尾根  
道をたどりませ。雨天中止

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名(2月未まで)

つばめ返しゆかりの滝池から  
樹齢千年のツガの大木を経て、3  
60度の展望台まで行きます。山  
頂付近のミスマンクも楽しみです。  
小雨決行

湖南アルプス  
世間ヶ岳から堂山(一般向き)  
期日 4月1日(日) 日帰り  
集合 JR名古屋駅中央改札口  
6時30分/JR石山駅8  
時50分

コース 石山駅(バス) 上院ー新  
改新神社ー世間ヶ岳ー御  
仏河原ー連天助ー遊々  
堂山ーアルプス登山口  
(バス) 石山駅(解散16  
時頃)

費用 約1000円(食費含む)  
※使用・名古屋から

申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*集合駅を明記ください

アルペンムードあふれる変化に  
富んだ緑や渓谷を歩きます。  
雨天中止

御池岳の池を巡る自然探歩山行13  
(やや難向き)

期日 4月1日(日) 3日(月)  
集合 JR関ヶ原駅8時20分  
三岐鉄道西野原駅8時45分

コース 各集合駅(車)コグルミ  
谷・丸山・池の平・池邊  
ワケ・鈴鹿・タテ谷・コ  
グルミ谷(車)集合駅  
(解散15時30分)

費用 500円・1000円  
(車代)

地図 2万5千円 藤立・密ヶ岳  
系 山田朝男 ○高尾芳彦  
申込み T503-0535  
海津郡南越前町松山19  
山田朝男まで

\*集合駅を明記ください  
\*マイカー参加の方はそ  
の要領記ください  
\*定員25名

昨年大荒れで歩くことが出来なかつた御池岳を池の平に見に行きます。  
雨天中止

週末ハイク30  
美比叡  
横高山から水井山・大尾山  
(一般向き)

期日 4月7日(日) 日曜日  
集合 JR京都駅中央改札口8時20分

コース 京都駅(バス)登山口  
横高山・水井山・御木峠  
大尾山・大京(解散)

費用 約1200円(京都から)  
地図 昭文社「京都北山」  
系 野野東彦 ○加藤元彦  
申込み T610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

春風を受けながら京都御所の山  
の北尾根を京都御所のせからの登山  
ルートで歩きます。雨天中止

湖北・山本山から磯ヶ岳  
(一般向き)

期日 4月8日(日) 日曜日  
集合 JR奈良古殿駅中央改札口7時30分/JR北陸線長  
浜駅8時20分

コース 長浜駅(タクシー)山本  
朝日神社・山本山・木  
戸峠・丸山三角点・磯ヶ  
岳・大台山・余部駅(車)

費用 約1600円(御膳峠)  
約2200円(長尾)

地図 2万5千円上庄・八六・  
新原

\*予約時期にならないた  
め未定(返信で案内)

新ハイキング関西まで  
城陽市寺田大群10の10  
申込み T610-0121

\*定員26名(2月未定)

浜石山(バス) 田貫湖  
(15日) 田貫湖長者ヶ岳  
登山口・長者ヶ岳太子  
ヶ岳・日米の流(バス)

期日 4月14日(日) 日曜日  
集合 JR大津駅8時40分

コース 大津駅(前車)近鉄長者  
ヶ岳・長者ヶ岳(一般向き)

費用 約3500円(古高尾か  
ら)タクシード代共  
車

地図 2万5千円木之本・竹生  
島

系 小山良春 ○中村英隆  
申込み T610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
古戦場の山を結び、琵琶湖と余  
島湖にそった縦走路を北上します。  
雨天中止

給鹿を歩く115  
花の雲仙山西南麓  
(難向き)

期日 4月8日(日) 日曜日  
集合 河内線「河内風穴」手前  
寺院広場8時30分

コース 寺院広場(車)今畑登山  
口・今畑 首峰・南雲仙  
山・福寿草の花園・雲仙山  
景賞峰・若ノ峰・西雨尾  
根林道・行者谷・権現谷  
寺院広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「雲仙・伊吹・  
藤原」

車)米原駅(解散17時06分)  
約3500円(古高尾か  
ら)タクシード代共  
車

地図 2万5千円木之本・竹生  
島

系 小山良春 ○中村英隆  
申込み T610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
古戦場の山を結び、琵琶湖と余  
島湖にそった縦走路を北上します。  
雨天中止

給鹿を歩く115  
花の雲仙山西南麓  
(難向き)

期日 4月8日(日) 日曜日  
集合 河内線「河内風穴」手前  
寺院広場8時30分

コース 寺院広場(車)今畑登山  
口・今畑 首峰・南雲仙  
山・福寿草の花園・雲仙山  
景賞峰・若ノ峰・西雨尾  
根林道・行者谷・権現谷  
寺院広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「雲仙・伊吹・  
藤原」

新ハイキング関西支部合同。  
丹波の「槍ヶ岳」と言われる姿の  
美しい山です。のんびり歩きなが  
ら地形図の読み方とコンパスの使  
い方を勉強します。初心者歓迎。

期日 4月15日(日) 日曜日  
集合 JR湖西線近江今津駅8時40分

コース 近江今津駅(バス)ピラ  
ズト今津・姫女湖・河  
内谷・林道取付P7A6  
2号・二番峠・金堂寺  
(バス)近江今津駅(解  
散18時30分)

費用 約2500円(大坂から)

地図 2万5千円備前川

系 新田智俊 ○長尾英美  
申込み T610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
古くからの信濃の山で「伊勢富士」の別称もあります。山頂から  
の展望はすばらしい。雨天中止

近畿百名山に属する(27回)  
湖北・三重(中級向き)

期日 4月15日(日) 日曜日  
集合 JR湖西線近江今津駅8時40分

コース 近江今津駅(バス)ピラ  
ズト今津・姫女湖・河  
内谷・林道取付P7A6  
2号・二番峠・金堂寺  
(バス)近江今津駅(解  
散18時30分)

費用 約2500円(大坂から)

地図 2万5千円備前川

系 新田智俊 ○長尾英美  
申込み T610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
古くからの信濃の山で「伊勢富士」の別称もあります。山頂から  
の展望はすばらしい。雨天中止

近畿百名山に属する(27回)  
湖北・三重(中級向き)

期日 4月15日(日) 日曜日  
集合 JR湖西線近江今津駅8時40分

コース 近江今津駅(バス)ピラ  
ズト今津・姫女湖・河  
内谷・林道取付P7A6  
2号・二番峠・金堂寺  
(バス)近江今津駅(解  
散18時30分)

費用 約2500円(大坂から)

地図 2万5千円備前川

系 新田智俊 ○長尾英美  
申込み T610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

シルバー車型コンパスを持参くだ  
さい。雨天中止

京福北山歩き96  
千谷山から常照寺(一般向き)

期日 4月8日(日) 日曜日  
集合 京都駅八条西口近鉄改札  
口付近8時30分

コース 京都駅(バス)鴨頭谷  
千谷一十谷山・井戸峠  
常照寺・御膳前(バス)

費用 約2000円(バス代)

地図 昭文社「京福北山」  
系 新田智俊 ○長尾英美  
申込み T610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
古くからの信濃の山で「伊勢富士」の別称もあります。山頂から  
の展望はすばらしい。雨天中止

近畿百名山に属する(27回)  
湖北・三重(中級向き)

期日 4月14日(日) 日曜日  
集合 JR大津駅8時40分

コース 大津駅(前車)近鉄長者  
ヶ岳・長者ヶ岳(一般向き)

費用 約3500円(古高尾か  
ら)タクシード代共  
車

地図 2万5千円木之本・竹生  
島

系 小山良春 ○中村英隆  
申込み T610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
古戦場の山を結び、琵琶湖と余  
島湖にそった縦走路を北上します。  
雨天中止

給鹿を歩く115  
花の雲仙山西南麓  
(難向き)

期日 4月8日(日) 日曜日  
集合 河内線「河内風穴」手前  
寺院広場8時30分

コース 寺院広場(車)今畑登山  
口・今畑 首峰・南雲仙  
山・福寿草の花園・雲仙山  
景賞峰・若ノ峰・西雨尾  
根林道・行者谷・権現谷  
寺院広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「雲仙・伊吹・  
藤原」

が芽吹いて美しい山頂です。下山時刻が遅くなりますが、たっぷり歩いたと実感するでしょう。  
小雨決行

北山ちよつと歩き20  
朽木・桑野橋から白倉岳

期日 4月18日(日) 日帰り  
集合 京東出町柳駅京東バスのりば7時35分(45分発)

コース 出町柳駅(バス)・桑野橋  
一西原登山口→P548  
P580→P588→村井コー

ス(山合)・白倉岳(山合)・中岳  
・南岳・柳生橋(中岳内野敵・  
バス)・出町柳駅(18時25  
分発)

費用 約3000円(京都から)  
地図 昭文社「比叡山系」  
係 ◎岡山県三

申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

武奈ヶ岳や松ヶ峰、北方には  
「百里岳から三回馬を展覧。足元  
にはイワウチワの群生地があり、中  
岳の杉の巨木は見事です。  
雨天中止

自然観察山行10  
大台・丸岳と夏焼山と南大台岳

期日 4月28日(日) 29日(月)  
集合 1泊2日  
1泊2日

コース (28日) 岐阜駅(バス)  
大平峠→丸岳→大平峠→  
夏焼山→大平峠(バス)  
夏焼山(山)

(29日) 美濃(バス) 遊  
歩小笠原山→南大台岳  
一摩利支天→登山口(バ  
ス) 岐阜駅(解散)

費用 約21000円(岐阜駅  
から貸切バス・宿泊代等)  
地図 2万5千→丸岳・南大台  
岳

係 ◎岐阜県守  
申込み 550410828  
各務原市藤原村雨町1の  
19の5 鷲見守康まで

自然観察山行10  
美濃・伊次北尾根(一般向き)

期日 4月21日(日) 日帰り  
集合 JR大垣駅8時40分

コース JR大垣駅(バス) 国見峠  
大垣駅(バス) 御座峠  
一静馬ヶ原(静又)→ささ  
れ石公園(バス) 大垣駅

(解散)  
費用 約3500円(大垣駅か  
ら貸切バス代等)

地図 2万5千→美東・関ヶ原  
係 ◎鷲見守康

申込み 550410828  
各務原市藤原村雨町1の  
19の5 鷲見守康まで

何處行っても満足度の高い春の  
伊吹北尾根フラワートレッキング。  
自然の観察と写真撮影に併う不規  
則な歩き方が苦にならない方へ参  
加ください。小雨決行

鈴鹿を歩く116  
サクラグテ・熊登ヶ峰

期日 4月22日(日) 日帰り  
集合 大河原「かもしか荘」広  
場8時30分

コース かもしか荘(車) 越川林  
道広場→長根取付→破線  
→P589→サクラグ  
テ→P589→長根取付  
→P758→P606  
→静馬ヶ原(静又)→さ  
され石公園(バス) 大垣駅

費用 約3500円(大垣駅か  
ら貸切バス代等)

地図 2万5千→美東・関ヶ原  
係 ◎鷲見守康

申込み 550410828  
各務原市藤原村雨町1の  
19の5 鷲見守康まで

中央アルプスに続く丸岳と夏焼  
山、木曾の名山南木曾岳に登りま  
す。自然観察と写真撮影に伴う不  
規則な歩き方が苦にならない方へ  
参加ください。雨天決行

\*定員20名(3月24日ま  
で)

近畿百名山に登る(第24回)  
鈴鹿・御池岳と熊登ヶ峰

期日 4月20日(日) 30日(日)  
集合 1泊2日  
1泊2日

コース (29日) JR彦根駅8時  
40分  
(30日) 彦根駅(バス)  
熊登ヶ峰 御池谷→ヒルコ  
バ→鈴北岳→池ノ平→丸  
山→ボタンブチ→真ノ谷  
→カタクリ峠→白紙峠  
→木和野屋→坂本→大日戸  
→(解散)

(31日) 翠花荘→兜寺寺  
道→八合目→藤原寺→天  
狗岩→頭陀ヶ平→白船峠  
→カタクリ峠→コダグルミ  
谷→登山口(バス) 彦根駅  
(解散16時30分)

費用 約12000円(彦根駅  
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「伊吹・伊吹・  
藤原」

申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

カタクリ・ドウゲンツツジなど、  
春の花がいっぱい。御池岳・藤原  
岳一山を巡る遊歩コースをじっく  
り歩きます。雨天決行

\*定員30名(会費に換る)

九州最後の山  
九重連峰を歩く(山級向き)

期日 4月23日(日) 24日(月)  
集合 4泊5日(船中2  
泊)

コース (29日) 六甲アイランド  
神戸港フェリーターミナ  
ル17時00分(17時50分発)  
(30日) 神戸港(フェリー)  
泊 大分港へ  
(31日) 大分港(バス)  
杖ノ戸峠→象ヶ鼻→久住  
山→中岳→鶴田山→白口  
→(解散) 法華院温泉(泊)  
(1日) 法華院温泉(泊)  
がっつー大船山→北大船  
山→風穴→高峯山→平治  
岳→法華院温泉(泊)

費用 約45000円(名古屋か  
らバス代等)

地図 昭文社「雲仙・伊吹・  
藤原」

申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

道広場→長根取付→破線  
→P589→サクラグ  
テ→P589→長根取付  
→P758→P606  
→静馬ヶ原(静又)→さ  
され石公園(バス) 大垣駅

費用 約45000円(名古屋か  
らバス代等)

地図 昭文社「雲仙・伊吹・  
藤原」

申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

サクラグテから横谷山。そして  
アセビの新緑がすばらしい遊歩  
峠へと続くロングコースにアタック  
します。ほとんど歩く人のいない  
特選コースです。雨天中止

鈴鹿・日本コバ(一般向き)

期日 4月22日(日) 日帰り  
集合 JR名古屋駅中央改札口  
6時30分/JR近江八幡  
駅8時50分

コース 近江八幡駅(バス) 如来  
堂→藤川谷→岩屋→湯地  
帯→日本コバ→富地帯→  
政所(バス) 近江八幡駅  
(解散17時頃)

費用 約3500円(名古屋か  
らバス)

地図 昭文社「伊吹・伊吹・  
藤原」

申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

平日水曜ハイク30  
朽木・鷹ヶ峰から雲洞谷山

期日 4月25日(日) 日帰り  
集合 JR豊田駅8時20分

コース 豊田駅(バス) 桑野橋  
一関ヶ峰→大笠峠→小笠原谷  
山→三河点→朽木学校前  
(バス) 安曇川駅(解散)

費用 約3500円(名古屋か  
らバス)

地図 2万5千→御座峠・北小  
笠・久多

係 ◎湯浅次男 ○青木一雄  
申込み 550691133  
高槻市川西町1の18の20

がっつー大船山→北大船  
山→風穴→高峯山→平治  
岳→法華院温泉(泊)

費用 約40000円(フェリー・  
バス・宿泊代等)

地図 昭文社「九重・阿蘇」  
係 ◎長野県東 ◎加藤光彦  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*定員34名(会費に換る)

法華院温泉に2泊し、花の遊歩を  
前にした九重連峰の主なピークを  
歩きます。雨天決行

鶴鹿山16  
遊歩山・三回馬(やや難関向き)

期日 4月30日(日) 日帰り  
集合 JR関ヶ原駅8時30分/  
三項遊歩河野原駅8時45  
分

コース 各集合駅(車) 鷲見ト  
ンネル東口→鉢ヶ嶽遊歩道  
→鉢ヶ嶽山→鉢ヶ嶽遊歩道→三回  
馬→鷲見峠→鷲見ト  
ンネル東口(解散17時頃)

費用 約45000円(名古屋か  
らバス代等)

地図 昭文社「雲仙・伊吹・  
藤原」

申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

がっつー大船山→北大船  
山→風穴→高峯山→平治  
岳→法華院温泉(泊)

費用 約45000円(名古屋か  
らバス代等)

費用 500円・1000円  
(車代)  
地図 2万5千円確立  
◎山田明男 ○高原芳彦  
〒503-0535  
海津郡南濃町松山2の19  
山田明男まで  
\*集合駅を明記ください  
\*マイカー参加の人はその旨明記ください  
早春の花を見て歩きましょう。  
雨天中止

西國の山・石鐘山から瓶ヶ森  
(やや健脚向き)  
期日 5月2日(昨夜)・6日(朝)  
集合 池5日(船中と池)  
◎山田明男 ○高原芳彦  
〒503-0535  
大阪府堺市  
タイムナル 20時00分(21時発)  
コース (2日)大阪南港(フェリー泊)松山港へ  
(3日)松山港(バス)  
明河保井野登山口一室ヶ森一ノ森一石鐘山(池)  
(4日)石鐘山一土小屋一よさこい峠一伊吹山一シラサ峠一瓶ヶ森(池)  
(5日)瓶ヶ森一西黒森一東黒森一伊予富士一桑

10 熊野白山10・25(昼食)11・20  
1前山12・25一登山口14・10  
40(バス)大垣駅17・10(解散)  
自然林の紅葉を楽しむ、熊野白山からは抜群の山景展望で、一度に百名山を10山余り眺めることができました。山頂では顔見知りの新ハイ会員にも出会った。帰路のバス内ではデジカメによる映像を見ながら2日間の山旅をふり返った。  
(参加者) 岩城豊子 近江秀子 岡田直規 緒方由子 荻野美紀 北村正 北村 加納由紀子 小松志信 後藤康幸 鈴木敏彦 橋本 寿 原文子 波多野原子 平山優美 松尾麗子 船木裕巳子 森 朝代 山本宜治 湯浅次男  
◎三井総一 ◎顔見守康(計20名)

11月3日(朝) くもり  
JR関ヶ原駅8・20(二) 熊野野尻 駅集合9・00(車) コケルミ谷登山口9・27一長命水9・54一カクタリ峠10・20一真ノ谷・コケルミ谷分岐10・00一丸山・ボタンブチ分岐11・40一幸助の池11・50(昼食)12・40一ボタンブチ12・50一風池13・10一丸山13・25一山西池13・35一道池14・00一幻池14・30

11月3日(朝) くもり  
JR三ノ宮駅集合8・00(バス) 登山口10・23一ノ郷12・00(昼食)12・35一高基寺13・50一高尾山(往復20分)一栗原台14・30一少年の家15・30一ふいご温泉16・00(入浴)16・45(バス)三ノ宮駅19・35(解散)  
\*高尾山1000mはやはりきつい。一等三角点は山頂よりだいぶくだった。雲の層に見つけた。  
(参加者) 岡田 昇 真田明子 加茂千子 平蔵美子 山下小枝子

11月3日(朝) くもり  
JR三ノ宮駅集合8・00(バス) 登山口10・23一ノ郷12・00(昼食)12・35一高基寺13・50一高尾山(往復20分)一栗原台14・30一少年の家15・30一ふいご温泉16・00(入浴)16・45(バス)三ノ宮駅19・35(解散)  
\*高尾山1000mはやはりきつい。一等三角点は山頂よりだいぶくだった。雲の層に見つけた。  
(参加者) 岡田 昇 真田明子 加茂千子 平蔵美子 山下小枝子

11月3日(朝) くもり  
JR三ノ宮駅集合8・00(バス) 登山口10・23一ノ郷12・00(昼食)12・35一高基寺13・50一高尾山(往復20分)一栗原台14・30一少年の家15・30一ふいご温泉16・00(入浴)16・45(バス)三ノ宮駅19・35(解散)  
\*高尾山1000mはやはりきつい。一等三角点は山頂よりだいぶくだった。雲の層に見つけた。  
(参加者) 岡田 昇 真田明子 加茂千子 平蔵美子 山下小枝子

11月3日(朝) くもり  
JR三ノ宮駅集合8・00(バス) 登山口10・23一ノ郷12・00(昼食)12・35一高基寺13・50一高尾山(往復20分)一栗原台14・30一少年の家15・30一ふいご温泉16・00(入浴)16・45(バス)三ノ宮駅19・35(解散)  
\*高尾山1000mはやはりきつい。一等三角点は山頂よりだいぶくだった。雲の層に見つけた。  
(参加者) 岡田 昇 真田明子 加茂千子 平蔵美子 山下小枝子

瀬戸一栗原山トンネル入口(バス) 松山道後温泉(入浴・夕食) 松山港フェリー泊  
(6日) 大阪南港(8時40分解散)  
費用 約3000円(フェリー・バス・宿泊代等)  
地図 明文社「石鐘山」  
◎村田智俊 ○安全正勝  
〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
村田智俊まで  
\*定員26名(会費に込)  
石鐘山系を縦走します。森林とササ原の続く縦山から瓶ヶ森・伊予富士へと歩きます。  
雨天代行

九州中部の山・行徳山と大崩山  
11月2日(昨夜)・5日(朝)  
3泊4日(船中と池)  
(2日) 大阪南港かもめ埠頭集合18・30(バス) 池5日(船中と池)  
(3日) くもり 宮崎港8・15(バス) 登山口10・00一ノ郷12・00一見崎11・50一丸山・神保12・30一原民の森分岐12・35(昼食)13・10一石鐘山13・50一14・15一山ノ神15・00一池見橋15・30一行徳神社入口15・50(バス)上笠子・深流荘17・30(泊)  
(4日) 晴れ 深流荘6・30(バス) 登山口6・40一45一六崩山7・10一20一沢子川丸木橋7・35一45 袖のタキ展望台9・05一20一上ワケ展望台10・20一35一六崩山11・30一35一石鐘山11・45(昼食)12・15一石鐘山13・00一林道分岐14・40一椋子川遊歩点15・05一登山口15・30一40(バス) 宮崎港16・45一19・10(フェリー)池

11月4日(朝) 大台ヶ原・日出ヶ岳  
(近畿百名山を登る20回)  
11月4日(朝) 5日(朝) 1泊2日  
(4日) 晴れ 近鉄大和上市駅集合8・50(バス) 大台ヶ原10・00一10一銀嶺12・15一上広場12・50(昼食)13・30一大台ヶ原13・40一山ノ神15・30一大台ヶ原16・00(池)  
(5日) 晴れ 大台ヶ原7・20一日出ヶ岳7・50一5・00一正木ヶ原8・30一石ヶ原9・00一大蛇原9・30一シノオカラ谷10・10一20一大会館11・20一ナゴヤ谷11・30(昼食)12・10一カウラ谷13・00一カウラ谷13・30一14・大台ヶ原14・30一15・30(バス) 大和上市駅17・15(解散)  
大台ヶ原までは紅葉がすばらしく、田道はいっ歩いて歩いても静かでない道だ。2日目は東向きと逆回りの両コースを歩いた。正木ヶ原には木道が新設されていた。  
(参加者) 岡田明男 宮村孝次郎 白屋圭子 秋田隆雄 松崎千佳子 本添圭子 山田善雄 砂原直美子 尾比裕美 山中義雄 田中真知子 津井洋子 武部 剛 武部美奈子 福田新一郎 高岡賢美子  
◎安全正勝 ◎村田智俊(計20名)

11月5日(朝) 小山良春  
\*雨天のため中止しました。  
三重・阿ヶ岳  
(近畿百名山に登る21回)  
11月12日(朝) 晴れのちくもり  
近鉄大和八木駅集合8・00(バス) 堀出バス停留所10・20一堀ヶ岳神社10・30一40一旧登山道10・50一10一堀ヶ岳12・30(昼食)13・15一新登山道一阿ヶ岳神社14・30一堀出15・00(バス) スモール15・45(入浴)16・50(バス) 松原18・10(解散)  
山頂から大パノラマに大滝尾。山麓は雑林帯だが小峠あたりからは自然林の紅葉もきれいだった。帰路はスモールで汗を流した。

### 山行報告 (11・12月)

新イキングクラブ

11月3日(朝) 大台ヶ原・日出ヶ岳  
(近畿百名山を登る20回)  
11月4日(朝) 5日(朝) 1泊2日  
(4日) 晴れ 近鉄大和上市駅集合8・50(バス) 大台ヶ原10・00一10一銀嶺12・15一上広場12・50(昼食)13・30一大台ヶ原13・40一山ノ神15・30一大台ヶ原16・00(池)  
(5日) 晴れ 大台ヶ原7・20一日出ヶ岳7・50一5・00一正木ヶ原8・30一石ヶ原9・00一大蛇原9・30一シノオカラ谷10・10一20一大会館11・20一ナゴヤ谷11・30(昼食)12・10一カウラ谷13・00一カウラ谷13・30一14・大台ヶ原14・30一15・30(バス) 大和上市駅17・15(解散)  
大台ヶ原までは紅葉がすばらしく、田道はいっ歩いて歩いても静かでない道だ。2日目は東向きと逆回りの両コースを歩いた。正木ヶ原には木道が新設されていた。  
(参加者) 岡田明男 宮村孝次郎 白屋圭子 秋田隆雄 松崎千佳子 本添圭子 山田善雄 砂原直美子 尾比裕美 山中義雄 田中真知子 津井洋子 武部 剛 武部美奈子 福田新一郎 高岡賢美子  
◎安全正勝 ◎村田智俊(計20名)

11月3日(朝) 大台ヶ原・日出ヶ岳  
(近畿百名山を登る20回)  
11月4日(朝) 5日(朝) 1泊2日  
(4日) 晴れ 近鉄大和上市駅集合8・50(バス) 大台ヶ原10・00一10一銀嶺12・15一上広場12・50(昼食)13・30一大台ヶ原13・40一山ノ神15・30一大台ヶ原16・00(池)  
(5日) 晴れ 大台ヶ原7・20一日出ヶ岳7・50一5・00一正木ヶ原8・30一石ヶ原9・00一大蛇原9・30一シノオカラ谷10・10一20一大会館11・20一ナゴヤ谷11・30(昼食)12・10一カウラ谷13・00一カウラ谷13・30一14・大台ヶ原14・30一15・30(バス) 大和上市駅17・15(解散)  
大台ヶ原までは紅葉がすばらしく、田道はいっ歩いて歩いても静かでない道だ。2日目は東向きと逆回りの両コースを歩いた。正木ヶ原には木道が新設されていた。  
(参加者) 岡田明男 宮村孝次郎 白屋圭子 秋田隆雄 松崎千佳子 本添圭子 山田善雄 砂原直美子 尾比裕美 山中義雄 田中真知子 津井洋子 武部 剛 武部美奈子 福田新一郎 高岡賢美子  
◎安全正勝 ◎村田智俊(計20名)

11月3日(朝) 大台ヶ原・日出ヶ岳  
(近畿百名山を登る20回)  
11月4日(朝) 5日(朝) 1泊2日  
(4日) 晴れ 近鉄大和上市駅集合8・50(バス) 大台ヶ原10・00一10一銀嶺12・15一上広場12・50(昼食)13・30一大台ヶ原13・40一山ノ神15・30一大台ヶ原16・00(池)  
(5日) 晴れ 大台ヶ原7・20一日出ヶ岳7・50一5・00一正木ヶ原8・30一石ヶ原9・00一大蛇原9・30一シノオカラ谷10・10一20一大会館11・20一ナゴヤ谷11・30(昼食)12・10一カウラ谷13・00一カウラ谷13・30一14・大台ヶ原14・30一15・30(バス) 大和上市駅17・15(解散)  
大台ヶ原までは紅葉がすばらしく、田道はいっ歩いて歩いても静かでない道だ。2日目は東向きと逆回りの両コースを歩いた。正木ヶ原には木道が新設されていた。  
(参加者) 岡田明男 宮村孝次郎 白屋圭子 秋田隆雄 松崎千佳子 本添圭子 山田善雄 砂原直美子 尾比裕美 山中義雄 田中真知子 津井洋子 武部 剛 武部美奈子 福田新一郎 高岡賢美子  
◎安全正勝 ◎村田智俊(計20名)

11月3日(朝) 大台ヶ原・日出ヶ岳  
(近畿百名山を登る20回)  
11月4日(朝) 5日(朝) 1泊2日  
(4日) 晴れ 近鉄大和上市駅集合8・50(バス) 大台ヶ原10・00一10一銀嶺12・15一上広場12・50(昼食)13・30一大台ヶ原13・40一山ノ神15・30一大台ヶ原16・00(池)  
(5日) 晴れ 大台ヶ原7・20一日出ヶ岳7・50一5・00一正木ヶ原8・30一石ヶ原9・00一大蛇原9・30一シノオカラ谷10・10一20一大会館11・20一ナゴヤ谷11・30(昼食)12・10一カウラ谷13・00一カウラ谷13・30一14・大台ヶ原14・30一15・30(バス) 大和上市駅17・15(解散)  
大台ヶ原までは紅葉がすばらしく、田道はいっ歩いて歩いても静かでない道だ。2日目は東向きと逆回りの両コースを歩いた。正木ヶ原には木道が新設されていた。  
(参加者) 岡田明男 宮村孝次郎 白屋圭子 秋田隆雄 松崎千佳子 本添圭子 山田善雄 砂原直美子 尾比裕美 山中義雄 田中真知子 津井洋子 武部 剛 武部美奈子 福田新一郎 高岡賢美子  
◎安全正勝 ◎村田智俊(計20名)

11月3日(朝) 大台ヶ原・日出ヶ岳  
(近畿百名山を登る20回)  
11月4日(朝) 5日(朝) 1泊2日  
(4日) 晴れ 近鉄大和上市駅集合8・50(バス) 大台ヶ原10・00一10一銀嶺12・15一上広場12・50(昼食)13・30一大台ヶ原13・40一山ノ神15・30一大台ヶ原16・00(池)  
(5日) 晴れ 大台ヶ原7・20一日出ヶ岳7・50一5・00一正木ヶ原8・30一石ヶ原9・00一大蛇原9・30一シノオカラ谷10・10一20一大会館11・20一ナゴヤ谷11・30(昼食)12・10一カウラ谷13・00一カウラ谷13・30一14・大台ヶ原14・30一15・30(バス) 大和上市駅17・15(解散)  
大台ヶ原までは紅葉がすばらしく、田道はいっ歩いて歩いても静かでない道だ。2日目は東向きと逆回りの両コースを歩いた。正木ヶ原には木道が新設されていた。  
(参加者) 岡田明男 宮村孝次郎 白屋圭子 秋田隆雄 松崎千佳子 本添圭子 山田善雄 砂原直美子 尾比裕美 山中義雄 田中真知子 津井洋子 武部 剛 武部美奈子 福田新一郎 高岡賢美子  
◎安全正勝 ◎村田智俊(計20名)

11月3日(朝) 大台ヶ原・日出ヶ岳  
(近畿百名山を登る20回)  
11月4日(朝) 5日(朝) 1泊2日  
(4日) 晴れ 近鉄大和上市駅集合8・50(バス) 大台ヶ原10・00一10一銀嶺12・15一上広場12・50(昼食)13・30一大台ヶ原13・40一山ノ神15・30一大台ヶ原16・00(池)  
(5日) 晴れ 大台ヶ原7・20一日出ヶ岳7・50一5・00一正木ヶ原8・30一石ヶ原9・00一大蛇原9・30一シノオカラ谷10・10一20一大会館11・20一ナゴヤ谷11・30(昼食)12・10一カウラ谷13・00一カウラ谷13・30一14・大台ヶ原14・30一15・30(バス) 大和上市駅17・15(解散)  
大台ヶ原までは紅葉がすばらしく、田道はいっ歩いて歩いても静かでない道だ。2日目は東向きと逆回りの両コースを歩いた。正木ヶ原には木道が新設されていた。  
(参加者) 岡田明男 宮村孝次郎 白屋圭子 秋田隆雄 松崎千佳子 本添圭子 山田善雄 砂原直美子 尾比裕美 山中義雄 田中真知子 津井洋子 武部 剛 武部美奈子 福田新一郎 高岡賢美子  
◎安全正勝 ◎村田智俊(計20名)

11月3日(朝) 大台ヶ原・日出ヶ岳  
(近畿百名山を登る20回)  
11月4日(朝) 5日(朝) 1泊2日  
(4日) 晴れ 近鉄大和上市駅集合8・50(バス) 大台ヶ原10・00一10一銀嶺12・15一上広場12・50(昼食)13・30一大台ヶ原13・40一山ノ神15・30一大台ヶ原16・00(池)  
(5日) 晴れ 大台ヶ原7・20一日出ヶ岳7・50一5・00一正木ヶ原8・30一石ヶ原9・00一大蛇原9・30一シノオカラ谷10・10一20一大会館11・20一ナゴヤ谷11・30(昼食)12・10一カウラ谷13・00一カウラ谷13・30一14・大台ヶ原14・30一15・30(バス) 大和上市駅17・15(解散)  
大台ヶ原までは紅葉がすばらしく、田道はいっ歩いて歩いても静かでない道だ。2日目は東向きと逆回りの両コースを歩いた。正木ヶ原には木道が新設されていた。  
(参加者) 岡田明男 宮村孝次郎 白屋圭子 秋田隆雄 松崎千佳子 本添圭子 山田善雄 砂原直美子 尾比裕美 山中義雄 田中真知子 津井洋子 武部 剛 武部美奈子 福田新一郎 高岡賢美子  
◎安全正勝 ◎村田智俊(計20名)

○(参加者) 秋田補師 本落五夫  
宮本真幸 大西千鶴 武部美穂子  
長尾節子 栗生 恒 松野千佳子  
米谷建治 占部清廣 安田文美江  
辻村泰裕 高岡勇男 高岡寛美子  
中井 博 中井哲子 山崎多恵子  
永宮洋子 奈良洋子 中村佳津子  
松原雅子 小川 輝 加納山子  
入江武史 大西幸孝 中上紀子  
小田桐子 福嶋 章 中西梨沙  
小松圭信 魚田一江 砂原美穂子  
下村啓二 下村啓子 前田喜久子  
家人敏光 家人聖子 林 陽子  
合村 福 安倉正勝 中島 隆  
○(記録係) ◎村田智俊(計45名)

雨多岳(鈴鹿を歩く105)  
11月12日(日) 晴れ  
藤切谷(林道)入口集合8・25―奥ノ煙谷入口9・30―奥ノ煙谷11・30―西雨乞岳11・35―西雨乞岳12・00(昼食)12・45―西雨乞岳13・05―奥ノ煙谷入口14・40―藤切谷(林道)入口16・10(解散)  
秋晴れの夕、谷筋の紅葉を染しみながら奥ノ煙谷に登ると、清水ノ頭の被褥はササとカナ音が明るく広がって一気に眺望が開けた。雨乞岳は人がいっぱいいて西雨乞岳で

仲間だけの楽しい昼食。冬枯れの樹林をくぐり炭焼コバに香くと杉の木々が鹿の害で枯れていた。谷筋の山肌は西日が当たって色とりどりに紅葉が映えていた。  
○(参加者) 後藤隆幸 山口景三 吉村 昭 高津智美 落合ひろ子 森本 勝 森本淳子 武藤由美子 岡野 明 中森昭夫 伊藤久夫 大石将英 古岡 仁 細木美穂子 永吉鉄治 谷 守 石田真由美 加藤国計 梅田勝利 馬場智穂子 水谷俊之 神野孝夫 小田妙子 小林 実 ◎吉野野 明(計26名)

湖東・織山から安土城址  
11月12日(日) 晴れ  
JR能登川駅集合9・10―猪子山公園9・25―35―織山2山11・35―50―地獄越10・57―神山11・40―47―観音寺12・07―18―観音寺坂本丸12・26(昼食)13・10―養老寺13・25―57―安土城址14・39―15・39―安土城15・55(解散)  
秋の一日、サブリーダーのコース説明を聞きながら史跡めぐりを楽しんだ。養老寺本堂の秘仏の前で住僧の説法を聞き、安土城では近世の城は安土から始まると言われる城郭を見る事ができた。

○(参加者) 山元 武 宮野孝次郎 鷹巣 邦 中山光輝 岡本美千子 大江 湖 若林文夫 井上由紀晴 横井節子 中西五枝 小塚きぬ子 下西 梨 自院清男 中尾美智子 前川久枝 市野博文 ◎杉本 高 ◎小出良春 (計18名)

紅葉は黄色が中心で、赤いコマユミも見られた。シカの出を聞き姿も見た。孫本溪根の稜線につくられた牛車道には、皆さんが感嘆の声が出た。  
○(参加者) 近江孝子 光川 元美子 三井加一 金丸節子 仲谷礼司 宮田伸子 山原俊美 池田隆一 栗本敏夫 山村義男 坂井田良男

北山・廣村八丁から品谷山  
(平口ふれあいハイキング23)  
11月14日(日) 晴れ  
京阪出町駅集合7・40―50(バス) 菅原9・40―10・05(バス) 10・55―11・05(四郎五郎) 11・35―40(養村) 12・15(昼食) 13・30―15(谷山) 14・45―50(バス) 15・25―品谷山14・45―50(バス) 66―15・10―20(ダン) 15・50―55(菅原) 16・40―17・18(バス) 出町駅19・11(解散)  
ダンノ峠からは木の葉が散って明るい景色のなかを、異合峠からはきつりと数走つめられた落ち葉のじゅうたん敷き歩いた。  
○(参加者) 西村清一 上田久子 大窪孝子 神 照司 神 美栄子 若松 寛 安良徳子 山下知余子 岩城節子 木下照子 砂原忠孝子 山岸隆雄 中山澄夫 井上由紀晴 平田輝美 中村 保 増田正明 奥山隆二 飯島 啓 飯島節子 谷 守 中村英雄 中尾美智子 長谷佑美 榎木金三 前川和佳子 細野敏也 湯淺康夫 西村義明

○(参加者) 北山・大峰山から中山  
11月15日(日) 雨  
JR武田駅集合8・00―15―飯の園9・25―大峰山9・55―10・05―中山(長尾登山)10・10・55―中山三角点11・40―奥の峰12・20(昼食)13・05―中山寺14・20(解散)  
中山頂上付近で激しく降った雨も、あとは降ったりやんだり。自然林の落ち葉を踏む感触や霧雨にかすむ景色を楽しんだ。桜の園では上部に紅葉が見られた。  
○(参加者) 吉野節子 野里マツコ 辻 富子 和田直樹 千塚千枝子 眞田公子 吉藤孝次 光川 元美子 竹田美英 高橋節子 中上紀代子 細井和子 松本忠雄 井林芳泰子 妹尾一正 小西時雄 松嶋千佳子 梨沢結子 南マヤ子 渡多野恵子  
○(青木一雄) ◎湯浅次男(計26名)

東山・東山と千町ヶ峰  
11月18日(日) 19日(日) 1泊2日  
(18日) 晴れ、(19日) 晴れ  
JR船橋駅南口集合9・30―45(バス) フォレストステーション渡賀11・40―50―町境尾根12・30―東山13・00(昼食)13・30―林道14・00―フォレスト

ストゥーテーション渡賀12・25(バス) 家原上地公園(バス) 極楽溪谷休養センター(入浴・夕食)  
(バス) 千町公民館(泊)  
(19日) 雨(くもり) 公民館8・30―1こしの村8・45―9・30―千町ヶ峰11・25(昼食)12・00―林道13・40―公民館14・00―15・10(バス) 船橋駅15・50(解散)  
東山では朝霧の風景が水ノ山や千町ヶ峰など360度の展望を楽しんだ。2日目は一定量の登山会へ合流し、急坂のコース千町ヶ峰へ。下山後、地元の人たちからの温かい「千町鍋」で冷えた体が暖まった。  
○(参加者) 吉藤孝次 宮本真幸 中川節子 高岡寛子 中川光輝 中村哲香 小田桐子 横田昌憲 小山 輝 野口 啓 佐田次男 松本忠雄 岡田 昇 岡田要夫子 三井加一 前川 一 大谷賢 貴 石田賢一 美村孝治 島田孝子 藤村隆彦 金田康広 金田千恵子 三浦直文 今村 真 坂田福輔 ◎19日のみ 森本 隆 坂本武敏 高津智美 田中 孝 森本淳子 山本浩治 山本公子  
◎須藤岡 和 (計34名)

美濃・釜ヶ先(自然観察山)22  
11月18日(日) くもり時々晴れ  
大室駅8・50(バス) 中瀬9・30―登山口9・40―飯盛山11・10―鍋ヶ先11・15(昼食)12・15―分岐点12・50―閉宮寺13・50―寺本14・00(バス) 大垣駅15・30(解散)  
1000分に落ちない低山だが、やせ根の急登が続いた。紅葉にも間に合い、彩り豊かな樹木を観察しながらゆっくり歩いた。  
○(参加者) 安斎 洋 荻野美紀恵 石原節子 金森節子 加納由紀子 中井孝子 夏山孝子 荻野節子 原 文子 平田雅美 砂原忠孝子 榎田節子 森 博代 紀本裕子 山本宜治 湯淺康夫 湯浅ひろ子 安田文美江 村上美代子  
○岡田直規 ◎鷲見守味(計21名)

飯高・松塚峠(三重の山33)  
11月20日(日) 晴れ  
飯高(道の駅)集合8・00(車) 千杉林道(道)9・10―峠前平登山口9・30―ワサビ谷(合)10・00(バス) 12・50―明徳山13・10(昼食)13・50―松塚峠14・25―松塚峠13・50―松塚峠14・25―林道十三峠(道)小田15・00―マナコ谷登山口16・40(車) (道の駅)17・00(解散)  
予定のコースを歩いた。登り下りの木立谷川と奥山谷の紅葉は案内書の通り最高。松塚峠に着くと、今まで幻想的におおっていたガスが急に切れ、広大なササ原が出現したのは幸運だった。

瀬田千子 多賀公子 山野志穂江 島尾信子 ◎高原孝彦  
◎山田明男 (計17名)



(参加者) 小堀孝男 岡本美千子  
多智二郎 植村 清 石田眞由美  
平 龍一 平 幸子 瓜取利明  
山本京子 池田洋彦 池田繁英  
田尾 肇 高橋正人 新町幸夫  
○尾崎美五 ○藤垣逸夫 (計16名)

比叡・日言大社から横川中堂  
(北山ちよとよき15)

11月22日(日) 晴れ  
JR比叡山坂本駅集合9:00〜9:30  
JR古大谷9:30 衣浦岩10:10  
横川中堂11:30 玉体杉手前日  
だまり12:15 (昼食) 13:05 玉  
体杉13:30 黒谷寺14:10  
30 登山口水場15:00 (解散) 1  
登山口(バス) 京都市内  
横川中堂と黒谷寺等の日頃の  
紅葉に満足し、余韻を残して登山  
口バス停へ下山した。火災後、半  
年ぶりに再開された飯光院の拝観  
のため、バスは湯田通過、やっと  
数分後に来た臨時に乗りできた。  
(参加者) 岩本彩子 堀出輝子  
金藤節子 東山澄夫 中村英雄  
南 寛子 速水 保 波多野重子  
安良鶴子 辻 行子 久世美紗子  
浦上 明 白根節子 山下知余子  
川上久登 中村 保 山盛加奈子  
妹尾正二 ○貞山整三 (計19名)

藤原岳(鈴鹿を歩く106)  
11月23日(日) 晴れ  
御池林道広場集合8:00〜8:05  
タノ坂8:35 土倉尾根9:25  
真ノ谷10:00 頭陀の岩場10:40  
1 頭陀ヶ平11:20 大楠谷11:55  
(昼食) 雲の渡り12:50 嵐丘庄  
13:20 迷途根分岐14:30 次川  
15:10 ノクノ坂15:50 小文谷  
林道16:10 御池林道広場16:35  
(解散)

真ノ谷から直登55分のまざれ岩  
の「頭陀の岩」は天を突いてそ  
びえ、岩壁にはコケノミのピンク  
の葉がまじりを添えていた。そし  
て洞窟、だれも知らない「雲の渡  
り」からの眺望。下りは治田峠を  
カットして迷途根を直接次川へ。  
超ロングコースを楽しんだ。  
(参加者) 後藤康幸 湯浅康夫  
吉村 昭 森本 勝 森本淳子  
小林 聡 大石将美 落合ひろ子  
吉岡 仁 水谷俊之 武藤山孝子  
小田 妙子 緒方由子 的場たか子  
高津智美 神野孝久 網木美穂子  
谷 守 谷 久雄 岡野 明  
河辺牧男 山本久雄 山田景二  
○岩野 明 (計12名)

比叡・大谷谷  
11月25日(日) くもり  
JR高橋駅北口集合8:00〜8:15  
(バス) 野田駅前9:05 20 峠  
9:48 52 車道尾根10:23 35 1  
尾尾峠11:35 40 鉄塔11:57  
(昼食) 13:10 明神ヶ岳13:24  
28 鉄塔13:40 14:20 車道  
出合15:15 万寿峠15:24 中相  
回観瀑バス停15:35 (解散) 16:30  
高観瀑  
山は紅葉の最盛期、20世紀最後の  
の雄姿のみ山行は参加者33人で最  
高潮。初心者もベテランも等しく  
楽しめた山だった。  
(参加者) 森 瑞代 石浜倫子  
森本純雄 小山 柳 光川二美子  
本岡 隆 本岡 隆 福野多恵子  
三井 一 舟岡 武 舟岡 忠孝子  
原本英樹 中島 隆 前田崇三  
菅生善子 東山澄夫 徳永加代子  
秋田権助 前田初雄 広田不修子  
大谷章子 木下朝子 柳 敏弘  
浦上 明 川上久登 田中三恵子  
植村憲一 植村英代 西田美津子  
山本純雄 人見正信 ○中村 登  
○塚元一彦 (計33名)

吉野・高取城址から石舞台  
11月26日(日) 晴れ  
近鉄釜山駅集合9:40 高取寺  
10:45 11:00 五百羅漢山 15  
22 高取城址12:00 (昼食) 12:  
50 高取城址12:40 石舞台14:40  
50 飛鳥山15:35 (解散)  
駅からお車・沢野寺有るな湯取  
寺まで古い町並を歩いた。高取城  
址の石壁は壮大で重厚なすばらし  
いものだった。本丸から下を見た  
が、その高さに思わず四つんばい  
になってしまった。

(参加者) 小田博子 福原 章  
小林 聡 藤本 邦 東山澄夫  
川中 保 家人敏光 家人親子  
吉藤孝次 浅田健男 名倉マサ子  
徳田暢子 白根節子 川北恵美子  
辻 行子 小杉 和子 岡本美千子  
渡藤 幸 渡藤 和子 中良美智子  
山口春江 永賀律子 石川賢代子  
中西玉枝 市野博文 高岡美奈子  
小山晴美 貞田明子 ○中村英雄  
○小山良香 (計30名)

猫座・沢池ヶ岳  
(鈴鹿を歩く107)  
12月3日(日) 小雨時々くもり  
神崎川林道・風越谷林道分岐広場  
集合8:00 (車) 神崎川林道終点  
8:15 1 白滝谷出合8:50 1 主枝  
橋10:05 1 穂活川 10 1 沢尾尾根  
の頭11:30 1 足根分岐11:40 (昼  
食) 12:30 1 杖池ヶ原12:35 1 赤  
坂谷源流13:25 1 志林寺小區13:  
55 1 タシラコ谷出合14:25 1 神崎  
川15:50 1 分岐谷16:25 (解散)  
冬枯れの白滝谷はじつとりと凍  
れた落ち葉道。山頂に近づくとつ  
れ小雨はやんだが気温は低く寒い。  
食後こそそこに赤坂谷にくだっ  
て焚火を明んで暖をとった。冬社  
れの明るい赤坂谷から御池谷へと

段境の谷沿いを楽しく歩いた。  
(参加者) 吉村 昭 落合ひろ子  
山田景二 高津智美 武藤山孝子  
森本 勝 森本淳子 藤野太郎  
小林 聡 大石将美 伊藤寛子  
吉岡 仁 池田繁英 伊藤山由美  
藤田義利 神野孝久 馬場美奈子  
横井 徹 横井 孝子 佐藤たな子  
岡野 明 筒井亮治 小坂さゆり  
後藤康幸 ○岩野 明 (計25名)

北山・黒尾山から長野少林寺山  
(京都北山歩き94)  
12月3日(日) 晴れ  
JR京福駅八条口集合8:00 (バ  
ス) 周山9:00 10 城山10:00  
1 鉄塔10:20 1 林道手前広場10:  
40 (昼食) 11:30 1 太石山 1:35  
1 黒尾山11:40 1 50 黒尾山12:50  
00 1 林道12:10 1 20 黒尾山12:50  
13:00 1 鉄塔広場14:00 1 15 1  
1 長野少林寺山14:25 1 上野野原14:  
35 1 下長野14:50 1 15 1 20 (バス  
京都駅16:15 (解散)

明徳光秀の岡山城跡から黒尾山  
へ。黒尾山からは長野少林寺山を越  
えて長野へくだった。山頂からの  
展望はなかったが、鉄塔広場から  
は北山の峰々が広がった。  
(参加者) 宮本真幸 宮本悦子

上田公子 中村賢香 松嶋千佳子  
沖 伸 木下照子 柳川常雄  
川崎忠男 小田博子 森本純雄  
鈴木敏彦 田中善雄 田中寛子  
東中次夫 泉山善雄 山岸勝雄  
秋田権助 荒木光雄 萬代 猛  
森田和子 渡谷節枝 宮村孝次郎  
森 瑞代 西村耕一 飯田愛子  
青木一雄 市野博文 大橋美奈子  
辻村幸治 武部 剛 武部美奈子  
下西 和 血原源男 井林寿奈子  
和田直樹 長谷佑美 岩本いずみ  
渡辺達郎 藤井孝子 中村佳津子  
林 恵子 中村 保 東 美智子  
狩野東彦 堀 久子 竹田美英  
安合正勝 高橋潔治 高橋由紀子  
○高比良実 ○村田智俊 (計52名)

鈴鹿・鳥帽子岳  
(鈴鹿百山12 二百年会山行)  
12月3日(日) くもり一時雨  
JR関ヶ原駅8:20 三渡野原  
駅集合8:45 (車) 東尾根取付点  
9:35 1 東尾根 鳥帽子山10:55  
1 鳥帽子山分岐11:15 1 時山ペン  
ガロー村12:10 (昼食) 13:15  
40 (車) 関ヶ原駅15:25 (解散)  
昨午は清池区山頂部で雲に覆  
えながらの忘年会だったので、今  
年は下のキャンプ場にした。出発

時間が予定より30分遅れたが、皆  
さんのがんばりで想定タイム通り  
にキャンプ場へくだった。牛の焼  
き肉と豚汁、各種アルコールに満  
足した忘年会だった。  
(参加者) 岩下裕夫 磯部 純  
吉藤孝次 島田京子 光川二美子  
石浜倫子 本岡 隆 三井 一  
堀田輝子 柳葉市郎 小松志信  
金藤節子 西村文男 加納由紀子  
緒方由子 井上 光 佐古田文子  
栗本敏夫 山崎善男 松本治三  
原 光一 原 幸子 今井みよ子  
水谷俊之 高田明子 山野志穂江  
母下由子 山田妙子 伊藤忠美子  
○西原方彦 ○山田明男 (計31名)

鈴鹿・松尾寺山  
12月3日(日) 晴れ  
JR関ヶ原駅集合10:35 20 1 地  
蔵堂登山口11:05 10 1 えきの地  
蔵11:30 35 1 地蔵峠11:50 1 55  
1 三尾峠12:07 1 15 地蔵峠12:  
25 (昼食) 12:55 1 六地蔵13:05  
1 坂口橋13:35 (バス) 関ヶ原駅  
14:00 (解散)  
地蔵峠までは落ち葉の積もる道  
をジグザグに登って行った。松尾  
寺跡はイチョウの落ち葉が境内を  
埋めていて、黄色の世界だった。

〔参加者〕清水四三 松上美代子  
土井英夫 中西玉枝 前田喜久子  
中村英雄 石原順次 小森きぬ子  
西村正春 中尾博子 川北重孝子  
白崎清子 辻 行子 岡本美千子  
森 明代 川島隆美  
三ツ井千鶴子 ○備置 坂  
○小出良春 (計19名)

北山・天ヶ岳から百井  
12月6日(日) 晴れ  
報徳信用町集会所7・35(50(電車) 越前駅8・20(養王坂8・45  
1天ヶ岳10・45(鉄塔広場10・55  
11・10(林道11・25(百井「鳥  
幸」11・50(忘年会14・30(送  
迎車) 北大路駅15・10(解散)  
小春日和で落ち葉を踏んで歩い  
たが、さすがに12月で尾張の北西側  
は風が冷たい。鉄塔広場の展望は  
良かった。料理もお酒も美味しく  
話が弾んだ楽しい忘年会だった。  
(参加者)近藤 恭 岩本彰子  
本間 隆 本間繁子 佐田次男  
東山澄夫 妹尾一正 光川二男  
中村啓香 角江朝子 千葉千枝子  
平松英子 山屋隆雄 井上由紀子  
清水 保 前田久子 松尾千佳子  
菅生幸子 ○青木一雄

◎湯浅次男 (計20名)  
京都西山・小倉神社から釈迦岳  
12月9日(日) 晴れ  
JR京都駅集合8・30(56(バス)  
明神寺ヶ丘9・20(25(小倉  
神社9・40(小倉山10・05(15(天  
土山10・35(40(浄土谷・成願  
寺11・20(35(御谷・徳谷寺11・  
55(昼食)13・05(大沢13・35(積  
込所14・25(40(立石15・50  
(入浴)16(解散) 長岡天宮  
16・25(解散後(忘年会)  
汗ばむ陽気のなか名残の紅葉を  
楽しみながら歩いた。成願寺では  
浄土天仏を拝観し、日当たりのよ  
い観音寺の駐車場で焼き肉を加え  
てゆつたりと昼食をとった。忘年  
会には27人が集い親睦を深めた。  
(参加者)若田哲士 三井敏一  
小松幸信 森繁子 加藤由紀子  
宮本真幸 船越利明 船越みづ子  
瓜股利明 中村啓香 山本繁三  
尾崎節子 小田恵子 小林 桂  
秋田清治 山本孝子 森 現代  
亀木廣治 山本孝子 竹島洋郎  
青木一雄 細野敏也 宮村孝次郎  
吉植 清 石田賢二 井上白穂  
松木中雄 山原勝美 中井ひろみ

中村友昭 中西玉枝 名倉マサ子  
森 昌好 和田直樹 野野智子  
木村太郎 向田 豊 野々山 寛  
市野博文 佐野清江 岡本孝子  
多賀久子 森澤陽子 渡辺美枝子  
森 晴代 近田智子 中尾美智子  
前川久枝 チョンサムン  
○備置 坂 ○中村英雄  
○小出良春 (計37名)

川上久繁 樺木金三 山盛加奈子  
森 晴代 測定保夫 北川史枝  
津井洋子 浦上 明 ○加藤元彦  
◎狩野実彦 (計30名)  
奥山山・政子と西山  
(鈴鹿を歩く108忘年会山行)  
12月10日(日) 小雨のち曇り  
国道477号(観音寺)集合8・  
30(奥山山9・50(政子10・00(鹿  
島尾尾広場11・10(西山往復12・  
30(昼食忘年会)15・00(解散)  
奥山山の斜面の地滑り跡を過ぎ、  
急登する上山頂でカヤ原が広がっ  
た。政子雨期と西山からの眺望は  
南鈴鹿の名峰がずらりと並ぶ大パ  
ノラマ。鹿見峠の広場で焚火を囲  
んで楽しい忘年会。時の経つのも  
忘れいつまでも話が弾んだ。  
(参加者)古村 昭 渡藤康幸  
山田昌三 山田明男 武藤由美子  
森本 隆 森本喜子 山野志保江  
大石裕美 高原芳彦 磯部 純  
池田孝雄 池田繁美 伊藤孝久男  
時高真澄 池田隆一 馬場美津子  
櫻田勝利 明石哲子 的場たか子  
高野明 山本誠男 細木美恵子  
岡野智美 榊原計男 榊原おかり  
奥村繁樹 小川 実 石田眞山美  
武村丁鶴 永谷然治 山本久雄

小林 桂 山本清雄 中嶋日出男  
本澤美夫 武部 剛 武部美英子  
呉比佐美 秋田清治 松崎千佳子  
谷 守 東山澄夫 中西淑秋好  
妹尾一正 西村善行 西原 稔  
山内達子 田中善雄 田中良知子  
金谷 昭 磯部 純 魚田一江  
渡辺達郎 青木一雄 清水 保  
後藤野明 菅生幸子 藤井洋子  
藤原康幸 前田久子 武村千鶴  
白田明男 中川光郎 平松英子  
○安否止勝 ◎村田智恵(計43名)

筒井亮治 木村吉秀 神野孝允  
◎宮野 明 (計36名)  
東濃・三森山  
12月20日(日) ◎小出良春  
\*雨天のため中止しました。  
美濃・小島山  
(自然観察山行53)  
12月16日(日) くもり時々晴れ  
大垣駅8・45(バス) 滝バス停付  
近赤堀9・20(鉄塔)80.10・10  
1鉄塔18.2.11.00(小島山11・  
35(昼食)12・35(鉄塔)81.13・  
40(林道)14・15(滝谷橋)14・  
25(バス)モリモリ村14・35(入  
浴)15・35(バス)大垣駅16・40  
(解散)  
山頂付近や北斜面には積雪があ  
り、哺乳動物の足跡ががかに確認  
できた。下山後に観音寺に入浴。  
大垣では8人の参加で忘年会を開  
催。山について語り合い、楽しい  
ひとときを過ごした。  
(参加者)石浜敏子 伊藤剛男  
近江秀子 岡田 昇 岡田重美子  
岡田直規 川島隆美 萩野善紀忠  
小松志信 藤原 邦 加納由紀子  
富田啓子 中井美子 鈴木美代子  
平田輝美 細野敏也 砂原重孝子

東山澄夫 妹尾一正 松本武文  
片山澄夫 小嶋和子 北澤スマ子  
志知幹子 木村 豊 渡谷山美子  
安良陽子 西村新一 潤田 京  
佐原香織 大橋元浩 石原君子  
辻 富子 土井隆夫 南 寛子  
血原勇男 下西 和 辻 嘉一郎  
高木 晋 中尾博子 邊見千恵子  
小出文子 白根博子 辻 行子  
和田直樹 中嶋恵子 岩木いずみ  
加藤佳彦 堀正正明 山下知余子  
川原隆彦 細井和子 西村義朗  
藤原康一 堀 久子 ○古藤孝次  
○中村英雄 ◎奥山山三(計46名)

宮本真幸 山本宣治 船本裕巳子  
湯浅康夫 吉村 昭 松上美代子  
藤田和洋 ○三井敏一  
◎青木守康 (計26名)

六甲・須磨アルプス  
12月17日(日) 雨  
JR須磨駅集合10・00(12(山崎  
須磨浦公園駅10・28(40(鉄火山  
山1・05(20(枕振山11・30(鉄火山  
山11・40(おらが茶屋11・55(昼  
食)12・25(高倉倉庫地)梅尾山  
13・00(05(梅尾山13・21(馬の  
背13・44(東山13・53(57(坂宿  
八幡神社14・32(45(山陽夜室駅  
15・00(解散)  
一日中雨だったが風の無い快適  
な登山歩きとなった。おらが茶屋  
のテラスで雨を避けて昼食後、出  
地内のメインストリートを通過す  
るこのコースならではの行程に苦  
笑しながら、名物400段に挑戦  
した。まだ秋最中のように紅葉の  
きれいな馬の背では岩壁のスリル  
を満喫した。(記録・兼良)  
(参加者)岩田哲士 宮下涼一  
兼良 力 中尾和子 望月千代子  
中村幸子 中島 隆 小田恵子  
吉藤孝次 山口春江 高島勲子  
木村裕忠 真藤昭子 東 美智子

12月17日(日) くもりのち雨  
JR津浦駅集合8・30(40(バス  
上桐生9・00(20(遊き頓首)  
40(大塚谷入口10・00(真若11・  
00(大塚谷)10(中津山分岐)11・  
50(12・00(上桐生野原)12・40  
(昼食忘年会)15・20(バス)草  
津駅(解散)  
おもしろい形をした岩が連続す  
る金剛アルプスの景観の中で4人  
が駆散にくつろぎ盛大にぎやうか  
な忘年会をした。飲んだ人は暖か  
いが、外は冷たい雨が降っていて  
飲めない人には寒かったようだ。  
(参加者)栗生 哲 三井敏一  
堀田恵子 近藤 恭 松上美代子  
稲本孝雄 馬淵正男 野田マツヨ

12月20日(日) くもり  
JR京都駅山陰線のりば集合7・  
40(47(東京)八木駅8・27(30  
(バス)船橋9・00(25(若見峠  
10・00(地蔵山11・05(10(愛宕  
神社12・10(昼食)13・10(水尾  
分岐)13・45(米倉谷・白根)15・  
15(保良寺)16・20(解散)  
午後から雨予報で早目に行動。  
地蔵山のササは刈り込んであり歩  
きやすかった。西原尾根からの下  
山は落ち葉のじょうたん状態。初  
冬にふさわしいコースだった。  
(参加者)岩本彰子 松尾千佳子  
小林法三 保田 正 山田祥雄

12月23日(日) 晴れ  
JR柳川駅集合9・40(55(一本  
松11・05(地蔵堂11・15(25(田  
代峠11・50(12・00(龍門山12・  
20(昼食)13・20(明徳谷13・40  
1(遊道)14・20(柳川)15・15(解  
散)  
急登の遊道を歩き、一本松から  
は樹林の登山道になった。山頂か  
らは眼下に紀ノ川のゆったりした  
流れを見え、西正面には和泉山系  
が広がっていた。長年の今年の近  
畿百名山は1月の龍門岳に始まり、  
12月は龍門岳に締められた。

〔参加者〕木下照子 野里マツヨ  
岩間育士 三井敏一 平田輝英  
中島 隆 秋田徳助 道 忠英子  
三好道雄 大前野子 大前千代子  
木本敏子 木本秀子 武部美幸子  
近村幸裕 長沢佑美 前田喜久子  
妹尾一正 吉藤孝次 宮村孝次郎  
藤 寿子 岸本信美 中尾美智子  
佐藤妙子 塩尻香織 木村 豊  
角田一江 西野幸夫 中瀬日出男  
植木敏子 永島律子 光川二美子  
杉山久子 川上久隆 瀧部 純  
入江武史 山藤啓美 星野正弘  
佐田次男 小谷和子 中川光郎  
連井洋子 安倉正勝 ○比佐裕美  
◎村田智俊 (計45名)

丹波・牛松山  
12月28日(日) 晴れ  
JR東山駅集合8・35〜45 金刀  
比羅道の鳥居10・12〜19 金刀比  
羅神社11・27 (昼食) 12・10 牛  
松山12・17 25 愛宕神社12・55  
13・10 養仙寺13・12 20 地  
蔵14・10 (解散)  
亀岡駅から丹波宮上と言われる  
牛松山を見て登山口まで歩いて行  
た。金刀比羅神社は遠く参道はま  
くろ歩いたのになく着いた。今年  
最後の山行だと思っで参加した人

もあり、のんびりハイクを楽しん  
だ。  
〔参加者〕西尾俊彦 西尾悦子  
大角良子 山岸勝彦 諸道美代子  
中西玉枝 森 昌好 小坂さゆり  
森本 勝 森本洋子 野々山 寛  
真田明子 速水 栄 高岡寛美子  
木間 隆 高島頼子 光川二美子  
森 晴代 清水昭三 川北恵美子  
堀 久子 多賀久子 相原悠紀子  
川本切子 市野博文 名倉マサ子  
川島勝美 和田直樹 中尾美智子  
藤本桂吉 山田幸子 砂原恵美子  
小田野子 ○中村英雄  
◎吉保孝次 ◎小出良春(計37名)

三重・経ヶ峰(近世山行)  
12月29日(日) 30日出 1泊2日  
(20日 晴れ) 山崎山荘集合11・  
30(車) 神守山登山口12・30 一  
経ヶ峰13・30 遊楽小屋一経ヶ峰  
山荘13・40(昼食) 14・30 峰  
(30日 晴れ) 小屋8・50 登山  
口10・00(解散)  
「山荘」(「新ハイキング」職場  
の山友)との合同で、大鍋を運ん  
での志留紀念 合宿・小話もで  
大いに盛り上がる。2日早いお天  
道様に感謝です。  
(参加者) 西村正春 大久保野子

中川光郎 奥村勝利 奥村美加代  
北川史枝 中山節子 高島芳彦  
毛塚一雄 吉本泰之 山田喜美子  
永戸鉄治 小田妙子 南 智恵子  
村田紀生 長野山人 海上保安官  
◎前井克治 (計18名)  
南紀・子ノ泊山と鳥帽子山  
(近畿百名山に登る第23回)  
1月2日(日)夜14日雨  
前後発1泊2日  
(2日) 近鉄大和八木駅集合22・  
30(バス) (バス) 桐原中の  
(3日) 晴れ(バス) 桐原中の  
谷登山口3・45(昼飯) 初登8・  
55 子ノ泊山8・30 50 立間戸  
谷出合9・45 10・00 キャンプ  
サイト11・30(昼食) 12・30 下  
和気登山口14・00 和気14・20  
(バス) ◎取返温泉高田グリーンラ  
ンド15・00(解散)  
(4日) 晴れ一時雪 高田グリー  
ンランド7・40(バス) 大滝坂8・  
20 30 陰陽の滝9・00 15 林  
道出合10・50 鳥帽子山11・20  
50 12 12・10(昼食) 12・45 二  
の滝13・50 14・00 高尾寺14・  
30 15・00(バス) わたるせ温泉  
16・20(入浴) 17・00(バス) 大  
和八木駅20・35(解散)

○新入会員紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会員番号4388番から4414  
番まで  
【福井】 橋本隆世  
小澤栄子 石崎治良  
【三田】 森崎繁弘  
【海部】 大江湖 中山秋子  
【京都】 西出和子 大知喜美子  
豊清酒子 長瀬清可 山崎 雅  
山口敬子  
【大阪】 田中久子 玉野久子  
藤井孝子 高川幸一 宮川晴美  
木本康雄 福田 徹 南 ミヤ子  
岩瀬聖司 荘弘之 尾崎光子  
大前敏子  
【奈良】 村田 恒 藤三紀久子  
辻垣野子 松尾好入  
【長門】 福井夏子 住田源隆  
【鳥取】 石原味生子 (計8名)

正月寒波で南紀でも寒く、鳥帽子  
子山では雪が舞った。子ノ泊山か  
ら下山した立間戸谷コースはやや  
荒れてしたが、圧倒される垂直岩  
壁が迫り、岩の多い溪谷はとて  
美しい。鳥帽子山は上部の林道ま  
では谷沿いを歩く。二の滝の美し  
さには感動した。温泉も大分に楽  
しめたよ正月だった。  
(参加者) 東山澄夫 青木一雄  
片山孝次 福岡 章 秋田節郎  
吉藤孝次 福岡 章 秋田節郎  
本落孟夫 石川 敏 岩田育士  
寺田久広 沖 伸 三井敏一  
小林 稔 高岡信男 竹田英英  
前川 一 小林法三 山岸勝彦  
前田精一 辻村幸裕 湯浅次男  
三宅 明 島 進 片山喜代子  
小谷和子 中川節子 安田文美江  
森 晴代 長沢佑美 高岡寛美子  
小田野子 長沢佑美 前田喜久子  
林 陽子 小山 輝 松島多佳子  
中村和江 井林春彦子  
◎安倉正勝 ◎村田智俊(計47名)

新ハイキングクラブ同  
入会の申し込み

当会は雑誌「新ハイキング関西  
の山」(隔月刊・年6号発行)の  
定期購読者を中心としたハイキン  
グの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ  
ドなども、関西のハイキングコー  
スや山の情報を発信しています。  
山の知識を深め、情報誌から健康  
な身体をつくり、自然のなかを歩  
く喜びをともに止めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和  
25年発足以来、東京を中心に50年  
間も好評のうちに活動してきまし  
た。関西は平成も平成で10年目  
に入りますが、すでにたくさん  
の会員が活動しています。

会費は当会の山行例会に優先し  
て参加できます。この山行例会を  
通じて正しい山歩きを、楽しい山  
仲間たちと味わいましょう。  
リーダー(係)はすべて無償の  
本気で、各自で切符を買い茶代を  
払い、資材もすべてフリカンで

会員には毎月「新ハイキング関  
西の山」をお送りします。  
四季の自然に魅了ながさ

若々しい心と健康をいつまでも持  
続するのは素晴らしいことです。  
これから始めてみたい人も、すで  
にベテランの人もみなさんご入会  
いただけます。

入会金 5000円(ハッジ代)  
年会費 3000円(送料共)  
入会申し込み(随時)はこの  
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く  
ださい。氏名(ふりがな)及び第  
一回からの送本かを忘れずにご記  
入ください。

なお、定期購読をご希望される  
方も会員になっていただけますと、  
毎月購読にお手元に届きますので  
便利です。

切手5000円分をお送りになれ  
ば、「新ハイキング関西の山」見  
本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは毎月1〜2回隔  
週の山行例会を計画・実施してい  
ただきます。  
無償の奉仕ですが、やりがいも  
あり、楽しいものです。経験のある  
方や、やってみたいと思われる  
方は、新ハイキング関西までご連絡  
ください。マニュアル「リーダー  
必携」を送ります。

訂正とお詫

56号(晩秋)55ページ中段7行  
目「又又良」は「又六良」が正し  
い。  
56号(新春)30ページ中段3行  
目「小倉理太郎」は「本倉理太郎」  
が正しい。同ページ中段6行目  
行「下段2行目の「小倉」も「本

「正」が正しい。  
56号(新春)51ページ9行目  
「垂水市」のルビ「たるみ」は  
「たるみず」が正しい。  
56号(新春)61ページ下段8行  
目「ミにくだり」セレンマ温泉の  
カタカナの「リ」はひらがなの  
「り」が正しい。同ページ下段  
「志山」のルビ「けいさん」は  
「えさん」が正しい。  
56号(新春)72ページのコース  
ガイドの地名「天香寺と湯冷山」  
は「湯冷山」が正しい(本文、地  
図は正しい)。(編集室)

お願い 懇談会費の払込  
みの額は、必ず入会番号を記入  
してください。

毎号お求めになりたい方へ  
前もって書店に毎号ほしい  
と「購読予約」をされますと、  
どこの書店でもお買い求めい  
ただけます。購読月の20日ごろ  
(隔月刊)の発売です。